

天使論

死の怖れを乗り越えるために 「死の心得」 に生きるために

佐藤 潤



レオナルド・ダ・ヴィンチ ほつれ髪の子

目次

プロローグ	5
希望の人	7
第1章 金持ちと貧乏人	9
第2章 「天使論」について	12
第3章 演繹法と帰納法	21
第4章 飼い猫の法則	22
第5章 大須賀君	29
第6章 わからない	30
第7章 王将の天津飯	32
第8章 愛情人間と規則人間	33
第9章 愛について	34
第10章 エンジェル・ガイダンス（創造瞑想）	36
第11章 シュジュギアについて	44
第12章 カオスとプレローマ	48
第13章 辛い気持ちを乗り越えるために	49
第14章 私は何でも「イエス」で考えます	50
第15章 本音（恥部）までも受容できるカウンセリングとは	51

第 16 章	シークレットな健康法	53
第 17 章	成長できる人、成長できない人	55
第 18 章	ノープランに生きる	57
第 19 章	アヴェ・マリア	61
第 20 章	イザベラ・デステ	62
第 21 章	恋心	63
第 22 章	時を捉える	64
第 23 章	水曜の夜は、ジョスカン・デ・プレはいかがでしょ	65
第 24 章	日曜日は、ブライアン・グリーンでしょ	66
第 25 章	ジャズ的思考	64
第 26 章	ドライブ森林浴	68
第 27 章	バッハ アリア	69
第 28 章	日本人の美德と未来への展望	69
第 29 章	ここまでのまとめ	71
第 30 章	自分だけのテリトリー	73
第 31 章	世界の人口問題	75
第 32 章	AI の時代は、希望の新時代である理由	88
第 33 章	素敵なコーヒータイム	91

第 34 章	チャクラ (桜) 開いた	92
	チャクラについて	93
第 35 章	不登校	94
第 36 章	千本曲げ教育法	95
第 37 章	中学の道徳授業を見学して	96
第 38 章	名も無き神	98
第 39 章	瞑想は現代人必須の健康法	101
第 40 章	永遠の輝き	103
	エピローグ	105
	参考文献	106
	佐藤 潤 略歴	107
	追加事項	108
	トラウマ	111

プロローグ

〈夢〉や〈成功〉という言葉を好んで使っている人はとても多いと思います。どちらも希望と繋がっている良い言葉のように思えます。しかし、本質は「怖れ」に支配されているネガティブな要素のいっぱい詰まった言葉であることを知っている人は少ないように思います。そこには、「惨めになりたくない」という心の叫びが存在しています。

誰もが死については考えたくない。避けたいテーマなのだと思います。しかし、間違いなく誰にでもいつかは死が訪れます。誰もが未来に希望を描こうとするのは、死という「怖れ」の存在のことを忘れて生きたいからではないでしょうか。

この本の副題でもある“死の怖れを乗り越えるために 「死の心得」に生きるために”とあるように、病気等で余命を宣告された人が、迫りくる死への怖れを取り除くための方法についての内容と、思うように生きられなかった人生を〈後悔〉するのではなく、〈納得〉に変えて生きるための「死の心得」について内容を含む、カウンセリングに生かすためのテキストを作ることが当初の目的でした。

この本は、2021年1月22日で一旦完成いたしました。この本をベースとしてテレワーク・カウンセラーとしてやっていこうと思い、日本全国の人に、少しでも私の存在を認知してもらいたいと思い、同年2月17日よりSNSの一つであるFacebookを始めたわけです。

2ヵ月程で友達の数が増え、2000人を超えました。公開設定をしたのが1ヵ月以上経ってからでしたから、フォロー数の方は遅れて増え始め200人を超えたところです。友達の数の中に怪しげな人が70人ほどいますが迷惑をかけられていないのでそのままにしています。犯人捜しをしていたら、時間がいくらあっても足りないし困難な作業でもあるからです。明らかに詐欺の疑いを感じられるセクシー美女からの友達申請や、末期がンを装う可哀そうな老人からの友達申請は、これまでに600人以上削除してきたこととなります。もし、削除しないで保留にしておいたなら、フォロー数をかなり上乗せできたのかもしれませんが。

これまでに何度か、一つの記事に対し100件を超える「いいね」を頂いた記事もありました。コメントのやり取りも密になってきていて、多い時には一つの記事に対し60回ものコメントのやり取りが続いたこともありました。

Facebookを始めてからはテレビを見ることが殆んど無くなり、生活の空き時間の全てをFacebookに費やしたと言っても過言ではなかったように思います。コメントのやり取りをするために、多くの友達の書いた記事を必死で読んできたこととなります。多くの友達から日々励

まされ、人生の師匠にも出会いました。

こういった Facebook の交流を通して、短い期間ながら、実に多くのことを学ぶことができ、と思います。しかも、毎日数回、記事の更新をしてきたこととなります。この記事は、私にとっては大切な作品でもあります。

そこで「天使論」に Facebook に投稿した記事を加えたいと思うようになりました。本当は。数年このような関係を続けた上で本の書き直しをするべきなのかもしれませんが、仕事に生かすことをコンセプトに取り組んできたわけなので、これ以上時間を掛けることが困難となり、4月21日の投稿記事の追記をもって完成版とすることにしました。将来、別のタイトルで本が書けたらと思います。

Facebook の投稿記事を入れることで「天使論」が、面白い読み物となった感があります。「天使論」とは関係無いような内容も多く含まれています。しかし、「天使論」一辺倒のものでは一般の人に伝えることは困難であると思いました。多くの人との交流によって多様性についての実践的な考察ができたように思います。カウンセリングに活かせる内容にもなりました。

Facebook に投稿した文章は、文末に投稿した日付を記しています。日付の無い文章は、Facebook を始める前に書いた文章と、違いが分かるようにしました。

以前は、この本を平和活動にも活かそうと考えていましたが、Facebook の交流を通して、世界のある流れに注目することができました。それは世界が猛スピードで AI の時代へと向かっているということです。AI の時代が、人類がこれまで積み上げてきた負の歴史（フィクション主導の戦いの歴史）から、無意味な戦いを避ける方向へと大変換させる役割を担うことになると考えられるわけです。とはいえ、現在はその過渡期なので、時代の変化のあまりの速さに、ただ振り回されている感じしかありませんが、忍耐して待つ価値は十分にあると受け止めています。

この本は、宗教間に存在している不幸なしがらみを解くというテーマも含まれていますが、そこは AI 化が進むことで実現しそうな平和な世界に期待をすることにして、平和活動ではなく、あくまで個人の真理探究のための「副読本」として、さらには個人の心の癒しに用いられるものとして意味を持つものとして世に問いたいと思います。

Facebook の友人たちに心より感謝を込めて

希望の人

イエス・キリストは、私にとって希望の人。

人生のどん底にあって、私に希望を与えてくれた。

しかし、イエス・キリストは、世界中の人に愛されているわけではない。彼の名をとっても嫌っている人、憎しみを持っている人もいる。

事実キリスト教は、長い歴史を通して宗教戦争をしてきたゆえに、他宗教や他民族の恨みを買ってきたのである。

本来、愛の教えである筈なのに、教会の権力は愛に背いてきたのである。

57歳の時、もう一人のイエス・キリストを見つけた。それは、初代教会のイエス・キリストである。

初代教会は、イエス・キリストの直弟子を含むユダヤ人による教会で、私たちの知るキリスト教会は、ギリシャ人（異邦人）による教会である。

初代教会は、異端者とされ、歴史の中で完全に滅ぼされてしまった。その教えを記した書もことごとく焼き払われてしまった。

しかし1945年、何と20世紀になって、彼らの古文書が発掘されて蘇ったのである。

初代教会の教えは、既存のキリスト教の教えではない。そればかりか、何の宗教団体にも属さない。

絶対視する聖典ではなく、間違いがあれば修正でき、新しい真実が見つければ付け加えられる柔軟性を持ち、いかなる時代にも適応できる口伝による教えなのである。

そして、その教えの中心は「天使論」なのである。

私は、「天使論」によって、再び希望を見出した。

今度は、どん底から立ち上がるための希望ではなく、死後に対する希望である。

私のような社会的地位も、社会的認知も全く無い者が「天使論」を世界に紹介しても何の意味もなさないことだろう。

二番目のイエス・キリストは、今の段階では、ほとんど力を発揮していない。

私自身は、「天使論」により死後の怖れを払拭できたが、「天使論」を世界に広められるのは私ではないのである。

それは、あなたかもしれない。ぜひ、世界の人となって「天使論」を広めて欲しいのである。

私にとって、あなたこそが二番目のイエス・キリストに力を与えられる希望の人なのである。どうか「天使論」によって、あなたの人生を輝かせてほしい。そして、あなたの輝きによって「天使論」の価値を高めさせて欲しいのである。

2021年5月8日記

第1章 金持ちと貧乏人

金持ちの人と貧乏な人がいました。金持ちはあらゆる喜びが得られ、貧乏人はあらゆる喜びが得られませんでした。

命は何ものにも代えられない宝物とはいえ、この二人の差はあまりにも大きかったのです。貧乏人はつぶやきました。

「神様、どうしてこんなにも人の世は不平等なのですか。」

そんな貧乏人の悲しみの声に、神様は答えてくれたのでした。

「君も、その金持ちも実は平等なんだよ。この世に生まれてきたということと。そして、いつかは死ぬということにおいて誰も逃れられないのだからね。ただ死ぬ時に、金持ちはあまりにも多くのものを失い、君は失うものが少ない。それだけだよ。」

続けて神様は言いました。

「金持ちは、あらゆる喜びを得たために、この世への執着が強く、死んだ際に、また人間に生まれ変わりたいと言う。きっと君は、同じような悲しみは味わいたくないだろうから、この世に生まれ変わりたいとは言わないだろう。」

貧乏人は言いました。

「はい、また同じような悲しみは二度と味わいたくありません。」

神様が言いました。

「君には、死後に永遠の喜びの世界に連れて行ってあげよう。その代わりに、君はこの世への恨みの気持ちを全て許しに変えるのですよ。」

貧乏人は答えました。

「わかりました。私は悲しい思いといつまでも一緒にいたくありません。すぐに全てを許しに変えて手放そうと思います。」

その会話を金持ちが聞いていました。神様は、わざと金持ちに聞こえるように、金持ちを不思議な力で貧乏人のすぐそばに居合わせさせたのでした。

金持ちは言いました。

「神様、私もその永遠の喜びの世界に行きたいのですが、どうしたらよいのですか。」

神様は金持ちに答えて言いました。

「君は、自分はいつかは死ぬ存在であることを常に意識するようにしなさい。何も今の幸せを手放せとは言いません。ただ、その幸せは死ねば失われるものであって、永遠の喜びの世界には持っていけないものだということを悟りなさい。つまり、いつでも死を受け入れられるように「死の覚悟」を決めてしまいなさい。この世の幸せも、この世の不幸も、どつらも死ぬと失われてしまう虚構であると悟りなさい。」

金持ちは言いました。

「神様、幸せも不幸も虚構だとするなら、なぜ私たち人間は、このような無意味な世界に生まれて来る必要があるのですか。」

神様は言いました。

「幸せも不幸も、どちらも意味のないものであることを知って欲しいからだよ。どちらも短い命で、消えていく儚いもの。永遠の価値観ではないのだよ。そのことを思い知ることで、永遠について悟れるようになっているのだよ。」

さらに神様は言いました。

「金持ちの君と貧乏人の君、互いに握手を交わしなさい。多くの人が、君たち両方の生き方を見ることなしに、人は、虚構と永遠との違いを見出すことができないのだ。さて、君たちの役割が何であるか気が付いたかな。」

貧乏人は答えました。

「はい、私は貧乏に生きるという立派な役割を生きていたのですね。」

神様は微笑まれました。

金持ちは答えました。

「はい、私も自分が金持ちに生きるという役割に生きていたことに気が付きました。ただ、これからは意味の無い幸せを追求せずに「死の覚悟」を決めて生きていきたいと思います。」

神様は微笑まれました。

さて、金持ちに生まれたから幸せで、貧乏人に生まれたから不幸なのでしょうか。成功者になれたから優れていて、成功者になれなかったから愚かなのでしょうか。

この文章を読んで、まだ「わからない」という人は、大いに自由を謳歌して、大いに幸せを追求し、大いに成功を追求して欲しいと思います。中途半端では、永遠への気づきには至れないからです。そして、苦しみと悲しみの「どん底」に突き落とされた時、もう一度この文章を読み直してみてください。

(この文章は、あくまで例え話です)

追記

この記事を公開した後に、こんな質問が寄せられました。

「どちらでもない普通の人はどうなのでしょう。」

普通の人、金持ちと貧乏人を客観視できる立場にあるので、傍観者として気づきが得られるのだと思います。ただ、マンネリ生活にどっぷり浸かってしまうと気づきが得られにくくなるので注意が必要です。

この世の幸せも不幸も虚構であることに気づくと、永遠の価値観に目が向けられ、「神の愛」を追求した人生を生きられるようになることなのでしょう。それこそ、本当の幸せに包まれた人生へと変わっていくのです。

2021年4月7日 Facebook 投稿記事より

第2章 「天使論」について

「我思う、ゆえに我あり」という有名な哲学者デカルトの名言があります。何か思う時、思う自分がいるということが、本当に自分がいるという証明になり得るのでしょうか？

私たち人間は、誰一人として自分の意思で生まれてきた人はいません。テレビによく出演する霊能者が、「わたしたちは、親を選んで生まれてきているのです」と最もらしいことを言っているのですが、では、親のせっかんで死んでしまう幼子がいることについて、そのような子が、本当に親を選んで生まれてきたとでもいうのでしょうか？

私たちの意識とは、始めに親との接触から形成されていきます。さらに、幼稚園に行き、幼稚園の先生、お友達と、周りの環境に育まれて意識が育っていくわけです。つまり、外部から意識は作られていったものといえます。「あれが欲しい」といった欲望も、外から入ってきた情報によって形成されているわけです。と言うことは、純粋な自己、つまりは本当の自分など存在するのでしょうか？

もし、ただ流されて生きてきたとするなら、その人は「外部から作られただけの存在」と言えるのではないのでしょうか？

欲望に苦しんでいる人がいます。男性ならば、美しい女性を抱きたいという欲望に苦しむ人がいます。女性ならば、イケメンの男性に抱かれたたいという欲望に苦しむ人がいるのでしょうか。しかし、その欲望とは、あくまで外部から入ってきた情報によって意識に狂いが生じ、制御することが困難になって苦しみに至っているのであって、本当の自分が求めている欲求ではないのかもしれない。

物質欲に執着している人も多く見られます。その物質欲とは、どこからやってきたものなののでしょうか？

それは生まれ持った自然な欲求ではありません。やはり、外部から入ってきた情報によって形成されてしまったものなのだと思います。その欲望とは、時に人間の命よりも価値が高くなってしまいうこともあるのですから実に恐ろしいものでもあります。もちろん、それは狂った価値観です。

私は、昨年、遅ればせながらスマートフォンを持ちました。それまで、パソコンでいろいろできていたので、電話は電話の機能だけで十分とっていて頑固に導入しませんでした。しかし、スマートフォンが使えないと、これからの時代、生きていくのに問題が生じてくると思い、

やりたくもないのに仕方なく始めたわけです。最近、こういった形で導入しなくてはならないものが増えているように思います。あんなに馴染んできたレコードもカセットもビデオも今では使えなくなってしまいました。デジタル機器に切り替えることは、私のようなアナログ世代にとってはストレスが大きいように思います。

このように、周りの環境の変化によって、生活スタイルも変わっていきます。どこに本当の自分があるのかわからなくなってしまいます。

自分の存在が分からぬまま、欲望ばかりが先行していくのです。

「私が」「私が」と自分の強い人がいます。しかし、本当にそこに自分が存在しているのでしょうか？

本当の自分が分からずに、欲望に振り回されて、欲望への「不足感」に、ひたすら苦しんでいるだけではないのでしょうか？

とはいえ、欲望をしっかりコントロールできるタイプの人も若干ながらいるようです。他者から信頼される人格を持つ人は、欲望に振り回されて苦しむ人では無いのです。

では、どうしたら欲望をコントロールすることができるのでしょうか？

外部を遮断して見えてくるのが本当の自分です。

外部の目を遮断して考えてみましょう。

「かわいいね」とか「かっこいいね」というのは、外部の目があってこそ意味を持つものです。外部の目がなくなれば、価値など全く無くなってしまいます。

リッチな生活といっても、これも外部の目がなくては価値が出てきません。他者との比較による優越感であるからです。

もし、外部を遮断してみて、そこに何も無いのならば、「何も無い」というのが本当の自分と言えるのかもしれませんが。

本当の自分が、どこにもいないとなると、それはとても空しいことです。

残念ながら生まれつばなしの状態においては、本当の自分など、どこにも存在しない。つまりは、本当の自分が形成されていないのです。カオスと言うべきこの世の現実には、振り回されているだけの存在ではないでしょうか。

家庭環境に恵まれ、高学歴を得られたような人であっても、それはあくまで周りの環境によって作られてきた自己であって、本当の自分は存在してはいません。それゆえ、大きく環境が変化すると精神がパニックし破滅的な方向へと突っ走ってしまったりするわけです。つまり、本当の自分が「何もない」ことに変わりないのです。

では、「何も無い」のなら、自分を新たに創造していくしかありません。

外部の価値観に左右されない自分を新たに創造していくのです。

目まぐるしく変化する外部の価値観ではなく、普遍的な価値について学び、普遍的な価値に基づいて自分を再構築していくのです。

普遍的な価値に基づいて自分を再構築した人の意識とは、「自立した自己」と言えるわけです。

最近、ニュース等で一人暮らしの高齢者の孤独死が話題となることがあります。一人で死ぬことがそんなに哀れなことなのでしょうか。もし、「孤立死」なら、確かに哀れな感じがしなくてもありません。しかし、「自立死」なら、そこには悲壮感は全く存在しないわけです。つまり、「やるべきことは、やり切った」と思えて死ぬ人は死に充実感が伴うわけです。

有名なファッションデザイナーのココ・シャネルも孤独死したと伝えられていますが、彼女は、「自立死」であったのだと思います。

現在でも、香水のシャネルの5番や、高額な財布やバッグや時計、宝飾品などで人気の高いファッションブランドとなっているシャネルの創設者ココ・シャネルは、身寄りのいない孤児院出身の女性でした。セレブな男性の寵愛を受け、最初は帽子の制作で才能を開花するのです

が、身分の差が埋められずに裏切られ、別れたことで、家賃も払えず差し押さえを受けるような、みじめな生活を余儀なくされました。そこを救ってくれた素敵な男性との出会いによって資金を得、ファッションデザイナーとして再出発をします。

しかし、彼女の救い主とも言えるその男性が別の女性と結婚。その後、その男性は離婚して彼女の元に戻って来るのですが、間もなく車の事故で亡くなってしまいます。長いこと彼女を支えてくれた女性の友人も結婚をして去っていき、生涯結婚せずに子供も無く、天涯孤独の彼女ではありましたが、それでも踏ん張り続け、世界のファッションリーダーとしての地位を保ちました。

晩年は、ファッションショーで大失敗し、「シャネルの時代は終わった」とマスコミに叩かれてしまいます。出資者からも引退を勧められるのですが、それでも彼女は引退することなくチャレンジを続けました。成功するかしないかということなど、どうでもよくて、亡くなった彼への「感謝の気持ち」を忘れないためにも、どんなにボロボロになっても死ぬまで仕事を続けたかったのです。その後、再び大成功を手にし、さらなるチャレンジをするさ中、長年居住していたホテルで一人亡くなったのです。

持てる才能の全てを出し切って死んだ彼女は、「やるべきことは、やり切った」という充実感があった筈で、決して孤立死ではなかったのだと思います。彼女こそ「自立死」と言うにふさわしい最後であったと思うのです。

精神の自立とは、周りに左右されない自己を作り上げることです。ぶれない自己を作り上げることなのです。

釈迦の教えも、イエス・キリストの教えも、本来はそういうものでした。精神の自立がメインであって、「輪廻転生(死んであの世に還った魂が、この世に何度も生まれ変わってくること)」のアイデアも「往生(生前の行いの善悪を問われることなく、念仏で救われる)」のアイデアも、後付けされた「どうでもよい」概念と言うべきものなのです。

「何も無い」から、世の中の価値観に全く左右されない自分自身を「新たに創造していく」ことこそが本当の教えなのです。

しかし、宗教組織が大きくなっていくと、他力本願的な思想に飲み込まれ、本来の教えが軽んじられてしまったわけです。イエス・キリストも初代教会の信徒たちもユダヤ人でしたが、

キリスト教がギリシャ人によって立ち上げられてしまい他力本願的に変貌し（十字架の贖い）、そのキリスト教（東方キリスト教：トマス派を引き継いだネストリウス派）が仏教に影響を与え、仏教も他力本願的な大乘仏教へと変貌し、日本に伝播されてきたわけです。

自助努力ではなく、宗教の肩書で救われるということは、現在の先進国のように飽食が当たり前となると、神への感謝の気持ちも色あせてしまい、不平不満や妬み僻みといった「不足感」ばかりが募っていき、人々を蝕むようになってしまいました。

釈迦も、イエス・キリストも、本来「魂の自立」を教えていたのです。最古層の仏典や、初代教会の聖典（グノーシス聖典の本質部分）を見ると、菩薩（天使）の境地に達することが教えの目的と書かれています。菩薩（天使）の境地とは、新たな創造によって確立した「魂の自立」を意味しています。

「天使論」では、天使を伴侶とすることで永遠の命を得られるという聖なるアイデアが紹介されています。ここでのイエス・キリストは、ギリシャ人によって立ち上げられたキリスト教に伝えられるイエス・キリストではありません。ユダヤ教徒として亡くなったイエス・キリストではありますが、20世紀（1914年）になって土の中から発掘されたその教えは、いかなる組織にも属さず、完全に中立の教えとなっています。

つまり、すべての宗教者の「副読本」となるべきものなのです。

イエスが生きていた当時は、「天使論」は女性だけに語られた教えでした。

ユダヤ教徒だけが救われるという教えにあって、「天使論」は肩書とは全く関係の無い、自助努力による救いだったので、当時のユダヤ教に受け入れられるようなものではありませんでした。もし、男性の弟子に教えたなら、そのことがばれてしまえば宗教裁判にかけられて死罪となってしまうかもしれませんでした。ところが当時のユダヤ教は、男尊女卑の思想であり、女性は「命の価値も無い者」と蔑まれた存在でした。ゆえに、女性に教える分には、「浅はかな女の考え」と無視されるだけでお咎めなしだったわけです。イエスは、そこに目を付けたのでした。

もう一つ、イエスは、「男性よりも女性の方が天国に近い存在」と見ていたのではないかと考えられます。男性は人類史のほとんどの時間を、狩りをして獲物を得、子孫繁栄のために種付けをする存在でした。女性は、子供を産み育て、子供に教育を与える文化的役割を担ってきた

わけです。太古の時代には、女性がリーダーになるケースが多かったのは、女性の方が理知的であったからです。野性的な男性は、むしろ家来の方に向いていたというわけです。それが、一神教によって立場が逆転してしまったわけです。女性が罪深い存在であるという神話（フィクション）によって、女性の才能を封印することに成功したのです。

『旧約聖書』では、人祖アダム（男性）のあばら骨から、エバ（女性）が創造されたとあります。しかし、生物学的な真実は、最初に現れる基本形は女性であり、男性はお母さんのおなかの中で、2度のアンドロゲン（生体内で働いているステロイドホルモンのひとつ）シャワーを浴びることで、男性になっていくというのです。1度目のアンドロゲンシャワーで形が男性に、2度目のアンドロゲンシャワーで脳と神経系が男性に変わっていくのだそうなのです。しかし、それは女性からの2度のレベルダウン（野生化）ではないかと思えてなりません。

例えば、脳において、女性は左脳と右脳を繋ぐ脳梁が長いのですが、男性はとても短いのです。女性は左脳と右脳の両方を使ってものを考えられます（ステレオ脳）が、男性は片側ずつしか使えません（モノラル脳）。それは、狩りをするための集中力を得るための才能なのです。女性は、複数のことを同時に考えることができますが、男性は苦手です。何かに集中すると、他のことが見えなくなってしまうわけです。

私は昨年、介護の仕事をしていた時に、そのことを痛感しました。女性職員に比べて、細かな見落としが多いのです。予定で決まっている仕事をこなすことには問題はないものの、繊細さが求められる観察において、一つのことにおいては完璧であっても、複数のことになると、まるでダメなのです。そして、女性たちに負け続けることに、大きな苦痛を感じたわけです。

男性は、一神教によって主導権を女性から奪い取ることに成功したわけです。しかし、一神教の男性主導の社会が世界に広がっていくと、人間同士での戦争が絶えなくなってしまうでしょう。男性の野生性とは、戦うこと、競争することに生き甲斐を感じる性質であるからです。

男性は、男性のままなら、天国に遠い存在であることを自覚すべきです。

そのことを人類史で最初に取り上げた人物こそが、イエス・キリストであったわけです。

「天使論」は、女性に教えたものであって、男性の弟子には、トマスやフィリポなどの「魂の自立」の得られたわずかな者にしか語られなかったようです。あの、12弟子のリーダーであったペテロにさえも教えなかったので、ペテロが、女性弟子のリーダーであったマグダラのマ

リアに嫉妬して敵視の言葉を浴びせる場面が、20世紀になって発見された『ナグ・ハマディ写本』の「トマスの福音書」や「フィリポの福音書」、同じく20世紀になって発見されたベルリン写本の『マリアの福音書』に見られます。

『新約聖書』では、トマスやフィリポ、そしてマグダラのマリアの存在が重要視されていないのは、「天使論」を異端視した立場からそうになっているのかもしれませんが。

さて、「天使論」を簡単に言うならこうなります。

プレローマ（「天使論」でいうところの天国の意）の住人とは天使です。

人間は、人間のままではプレローマ（天国）には行けません。自分を天使の境地まで引き上げられた者だけが、プレローマの住人の片側の性を持つ天使（男性か女性のいずれかの天使）と結ばれて永遠の存在になれるというものです。「天使論」では、シュジュギアと言って、男女がペアで「完全な存在」と考えています。

天使とは、神から流出した存在です。つまり、無知な赤子として誕生し、育てられた存在ではないのです。初めから知恵を持っている神の分身であり、神の性質をそのまま引き継いだ存在なのです。つまり、神とイコールの存在です。

人間は、誕生によってもたらされた存在です。つまり、無知な赤ちゃんから育てられた存在で、不完全な存在でもあります。その結果、死ぬ者でもあるわけです。この宇宙のすべての存在が、つまりは、恒星も惑星も衛星も誕生によって始まっているので、物質界の全てのものは、いつかは滅びる定めにあるわけです。

ですから、誕生によって存在する人間は、神の分身でもある天使と結ばれることで、永遠性が得られるというアイデアと言えます。

1世紀に、初代教会の信徒たちは、グノーシス主義に走りました。しかも、2度のユダヤ戦争で、国を追われ、ある者は中央アジアへ、ある者は、アッシリアへ、ある者はエジプトへと離散（ディアスポラ）したこともあり、彼らの信仰は一貫性の無い個性的な傾向が強まってきました。とはいえ、そのような自由な真理探究を奨励したのは、イエス・キリストご自身であったわけです。

イエスは、初代教会の信徒たちに自分のことを聖典として伝えることを禁じました。進化し

ていく時代に対応できる口伝として話されたわけです。絶対視してしまう聖典は、権威的となり単に覚えるだけの知識にしかならないと考えたからです。一人一人が、自分の疑問を解決させる努力をして心から腑に落ちることのできる真理を見出すことを奨励したのでした。現在のようないく科学知識に乏しい当時において、その疑問を、ギリシャ圏で支持されていた新プラトン主義であったグノーシス思想にぶつけたことは仕方ないことだったのだと思います。

ですから、グノーシス思想とは個人の探究の部類であって、つまりは一つの仮説であって、私たちは聖典として学ぶのではなく、あくまで「副読本」として、真理探究をする姿勢の部分

を学ぶべきだと思うのです。

イエスの教えの中核は、「新婦の部屋」の思想にあります。これは、天使との婚姻を意味しています。グノーシス聖典とは、なぜ「新婦の部屋」が重要であるかの理屈の展開（理論の個人探究）と言えるものなのです。ですから、グノーシス思想の強い部分においては、参考程度に読み流すべき内容なのだと思います。

「天使論」は、封印された教えですが、グノーシス思想は、別の流れで現在に至っています。それは中世の豪華な石造りの教会を建てた石工たちによる秘密結社に始まり（そのルーツを、ピラミッドを建造したエジプトとしている）、銀行の走りとなったテンプル騎士団、また宗教改革の頃、科学を飛躍的に発達させた錬金術師を支えた秘密結社を経由し存在するフリーメーソンへと至ります。このフリーメーソンが自由の国アメリカの独立へと導き、フランス革命など封建社会を転覆させ、世界を現在の民主主義社会へと導いたのです。

しかし、20世紀になって発掘された初代教会の教えは、このフリーメーソンの流れとは異なる、「長いこと歴史から封印されてきたイエス・キリストのピュアな教え」なのです。

『旧約聖書』には、迫害したエジプト人を敵視する思想が存在しますし、『新約聖書』には、迫害したユダヤ人を敵視する思想が存在します。また、ユダヤ人の聖典である『タルムード』（紀元前から伝承された口伝をまとめたもの）には、キリスト教がユダヤ人を救いから除外したことへの腹いせから、キリスト教徒を含む異邦人をゴイム（豚）と敵視する思想が存在します。豚はユダヤ人にとって不浄な生き物故に食しません。豚は家畜以下の存在であり、この世から抹殺すべき存在という意味でもあります。このような敵視する考え方をドグマと言います。人類を滅亡に導く最も大きな脅威とは、このドグマなのです。

初代教会に伝わるイエスの教えは、ドグマを排する考え方でした。ある意味、初代教会がギリシャ人（異邦人）を仲間に迎え入れたのは、ドグマを排する考え方に基づいていたのです。ユダヤ教から、男尊女卑とドグマを排除することが、イエスの宣教の究極の目的でもありました。しかし、どちらも目的を果たすことなく十字架に着けられて死に（本当に十字架上で死な

れたかどうかはわかりません。ローマ帝国のユダヤ属州総督ポンテオ・ピラトの配慮により、ピラトの友人でもあったユダヤ人のアリマタヤのヨセフの救出によって命は救われたもののエルサレムから追放され、激しい障害を負っていたこともあり静かに短い余生を送られたという説もあります。『新約聖書』にも、イエスは絶命確認でもあった足の骨を折るということがされなかったと書いてあります。ヨハネ 19:31~33)、初代教会の弟子たちに引き継がれたのでした。その初代教会は、パリサイ派の最高法院によって追放されてしまったギリシャ人によって立ち上げたキリスト教によって、完全に滅ぼされてしまったのでした。

20世紀になって(こちらは1947年以降)、土の中から発見された人類最古の『旧約聖書』と、なぜか『新約聖書』には記載されていない、若きイエス・キリストが学んだとされるユダヤ教エッセネ派にまつわる内容の含まれる古文書とによる『死海文書』が発掘され、イエス・キリストの真実が見出されるようになってきたのです。

『新約聖書』には、ユダヤ教には、パリサイ派、サドカイ派、熱心党という派閥が存在したことについては書かれていますが、エッセネ派とナザレ派については全く書かれていません。ナザレ派とは、イエス・キリストの教えの後継者による初代教会のことです。当時は、独立した宗教ではなく、ユダヤ教の一派だったわけです。

そのイエス・キリストとは、ユダヤ人として亡くなりましたが、「天使論」においては中立的立場の存在と言えるわけです。もはやクリスチャンだけのイエス・キリストではないわけです。

とても大切なこととして、史実がそうであったとしても、初代教会を滅ぼしたキリスト教会を絶対に批判してはいけないのだと思います。私はそのキリスト教会に学び、愛の尊さについて知りました。熱心にキリスト教を学び、さらには神の奇跡を得た人の証に多く出会ってきました。特に私の所属するカトリックの信者さんたちには、いろいろと助けられてきたと思います。

それに、世界中の多くの人が、キリスト教によってイエス・キリストの存在を知ってきたわけです。そういったキリスト教の果たしてきた役割を無視してはいけないのだと思います。

また、キリスト教だけではなく、ユダヤ教も、イスラム教も、そして全ての宗教が、同様に非難されるべきではありません。「天使論」とは、中立の「副読本」であり、全ての宗教者と分かち合うための教えなのです。ですから、すべての宗教者を、敬意をもって接する者でなくては、「天使論」の担い手ではないのです。

このピュアなイエス・キリストの教えである「天使論」を世界に広めることが、私の使命で

あり、「天使論」と出会ったすべての人の使命となっていくのだと思います。

何も難しいことはありません。「天使論」とは、あなたがイメージできる天使の姿に習って、あなたも天使になりましょうという教えなのです。

第3章 演繹法と帰納法

デカルトと共に有名な考え方に演繹法があります。これは、普遍的な原理から論理的な筋道によって特殊な結論を導き出す推理方法です。例えば、「神はいる」とか「キリスト教は正しい教えである」から始まり、そのことに至る理由付けをしていくわけです。「哲学の第一原理」とも呼ばれています。

それに対しフランシス・ベーコンの唱えた帰納法は、個別・特殊な事例から、普遍的な事柄を発見する方法です。いくつかの事例を挙げた上で、「神はいるかもしれない」に持っていくわけです。いくつかの事例を挙げた上で「キリスト教は正しい教えかもしれない」へと持っていくわけです。しかし、あくまで「かもしれない」という仮説であるわけです。実験や観察から真理を導き出そうとする「科学的思考の基礎」となっているわけです。

デカルトもフランシス・ベーコンもルネサンス期の哲学者です。ただ、正しさを見出すための持っていきかたが、それぞれが真逆なところが面白いと思います。

多くの宗教や哲学、またはイデオロギーは、演繹法で考えるゆえに、対立する概念を敵視するわけです。絶対視がある限り、あらゆる宗教や哲学、またはイデオロギーはドグマ（対立関係の源）に過ぎません。そえゆえ、科学者が演繹法で考えるなら、真実を導き出すことはできないことでしょう。近年、目覚ましい発展をしている理論物理学にも見られるように、帰納法で考えるゆえに新しい法則を導き出すことができるわけです。

私は、宗教を帰納法で考えます。どの宗教が正しいと決めつけることからは始まりません。「天使論」は、本来イエス・キリストの教えであり帰納法で考えるものだったのです。それゆえ、自由な発想が生まれ、当時としては科学的発想でもあったグノーシス思想を取り入れることにもなったわけです。ナザレ派やエッセネ派から離脱した（追放された）ギリシャ人たちが興したキリスト教は、その考え方を異端として敵視したわけです。

帰納法は自由な発想をもたらしますが、あくまで「かもしれない」という仮説になるわけです。仮説ゆえ、新たな真理が見つかり、そのことを加えて考え、間違いが見出されたなら修正できる柔軟性があるわけです。当時のキリスト教は、宗教への絶対視が原則でしたから、軟弱とも受け止められる初代教会（ユダヤ教ナザレ派）の考え方を間違いと受け止めてしまったのだと思います。

初代教会は、キリスト教によって激しい弾圧を受け続けたことで完全に滅びてしまい、古文書はことごとく焼き払われてしまい存在を失ってしまいました。しかし、20世紀に入ってから1945年にエジプトのナグ・ハマディで、その古文書が出土されたわけです。エジプトは、2度のユダヤ戦争で初代教会の信徒を含むユダヤ人が離散（ディアスポラ）された土地の一つです。そのナグ・ハマディ写本の和訳を読んで私の得た印象は、「プレローマ（神との繋がりが保たれた世界）」と「シュジュギア（人間と対になる異性の天使）」の考え方は一貫しているものの、かなり自由な個人的発想が認められたらしく、それぞれの書簡に全く一貫性が無いということです。

それゆえ、キリスト教側の人たちからは、「全く価値を認められない書」と烙印を押されてしまったわけです。しかし、私はその一貫性の無いところに素晴らしさを感じ取っているわけです。つまり「天使論」を含むナグ・ハマディ写本が現代に蘇るということは、新しいことは取り入れ、間違いは正せる柔軟性を持った形となり得るからです。

そして「天使論」は、宗教のカテゴリーには属さない、あらゆる宗教の中立的存在としての、しかも時代を超えて進化し続ける「副読本」の価値があると思うわけです。※ここでの「天使論」は、私の書いた同タイトルの本のことではなく、『ナグ・ハマディ写本』を指します。そして、私がそうであるように、それぞれの人が、それぞれの個性的解釈が可能なものと解してください。

2021年3月27日 Facebook 投稿記事より

第4章 飼い猫の法則

猫を飼ったことのある人なら、これから私が話す内容を理解しやすいと思います。飼い主が猫を飼う理由なのですが、「猫と一緒にいることが心地よい」とか、「猫と一緒にいると癒される」というものではないでしょうか。

猫は人間の子供のように優秀な才能を開花させて親を楽しませてくれるという存在ではありません。むしろ頭の悪い存在です。

しかし、猫を飼う人は、そんな猫と一緒にいることに幸せを感じるのです。とにかく猫と一緒にいたいのです。猫の方も、そんな人間と一緒にいることに幸せを感じているのだと思います。

飼い猫は、野良猫とは異なります。優しい飼い主の心に影響されて、「天使のような存在」となっていくからです。

さて、この人間と猫との関係は、神様と人間との関係とよく似ています。神様は、頭の良く才能豊かな人間を求めているわけではありません。人間に対し、「一緒にいることが心地よい」という関係を求めているのです。

もしあなたが、現実では不器用にしか生きられず、他者からも誤解を受けてがっかりするような人生を送っていたとしても全く問題ありません。

神と人間との関係は、人間と飼い猫の関係とよく似ていて、あなたが、神と「一緒にいることが心地よい」と感じられるのなら、それだけで十分なのです。あなたが、神と一緒に成れる時間を作る方法さえ得られれば、すぐにでも叶えられることなのです。

猫たちと過ごす平和な時間は、「天国の世界を先取りしたもの」なのかもしれません。

プレローマには、美しい花々や美しい木々が存在し、さらには小鳥たちや小動物たちと共に暮らしていると考えられています。それは、お互いに「心地よい」存在なのです。そこに住む小動物より、人間が優れた存在であるということはありません。小動物も、神にとって「心地よい」存在であることに変わりなく、上でも下でもないのです。ただ、小動物には小動物特有の幸せがあり、人間には人間特有の幸せがあり、共に守られているのです。そして、共にお互いを守り合っている関係が築かれているのです。

プレローマの動物たちは、神の意に生きている存在ゆえに永遠なのです。仮にプレローマに猛獣がいたとしても、他の存在の命を脅かすことは決してありません。見た目は怖いようでも神の意に生きているからです。

「心地よい」とは、神の意に生きている者が平等に与えられる権利なのです。人間の場合は、

「新たなる魂の創造」と「感謝の心」によって、永遠性が得られるわけです。そして、この両方を持ち合わせた人間を天使（菩薩）といいます。

ちなみに大天使（如来）とは、すでにプレローマに住むべき存在であるにも関わらず、敢えてプレローマの外に立ち、自分より先に人間たちをプレローマに導き入れようとする慈悲の存在の指導霊ということになります。守護の天使は、いつも寄り添ってくれる存在ですが、黙想の中で現実的な障害を乗り越えるためのインスピレーションを与えてくれる存在とは、この大天使（如来）なのです。不可視のマスターと呼ばれることもあります。

私はいつもプレローマ（天国）に行きたいと考えていますが、自分の幸せを後回しにして、他者のために尽くそうとする大天使（如来）のことを考えると、せめて現実世界においては自分よりも他者の幸せを優先すべきと考えさせられます。

釈迦やイエス・キリストも大天使（如来）なのかもしれません。「天使論」では、イエス・キリストとマグダラのマリアは、シュジュギア（男女の対）の関係と考えられています。しかし、お二人が結ばれるのは、人類の救いが完結した後なのです。

プレローマの人間は、自由を楽しむときにおいては男女が別々の状態にありますが、神のみ前で感謝を込めた奉仕を行う際には、一人の状態となっているのだそうです。その際、身体は一人になっていても、心においては、いつも相談相手となるパートナーと一緒にいるので心細くなることも、寂しくなる心配も一切無いというわけです。もちろん、これは仮説に過ぎませんが、素敵なアイデアであると思います。シュジュギアとは、完成を意味し、自分のパートナーである守護の天使と同様に、神と同じ性質を持つ者となるための関係であるわけです。

プレローマの永遠性とは、「感謝の気持ち」に支えられています。

お風呂に入ると心地よいですが、長く入ってしまうと湯あたりして具合が悪くなってしまいます。パートナーと性的快楽を味わうことも、心地よいことなのかもしれませんが、その関係がマンネリ化すると、飽きがきて、相手の悪い所ばかりが見えてしまい幻滅へと至るのです。この世において、「心地よい」が長く続くことはほとんど稀なのです。

お風呂は、程よいところで上がる必要がありますし、性的快楽は、お互いが信仰的に成熟していないと、お互いを見失ってしまう可能性大なのです。健全な社会生活を送りながら「人間として」の部分をお互いに磨かなくてはなりません。特に性的快楽は依存症となってしまうと、不特定多数の異性とのふしだらな関係へと発展してしまう可能性があります。

「心地よい」の新鮮な思いを失うことなく、永遠のものへとしてくれるのは、「感謝の心」です。

お互いに、感謝の心が働いたら、いつも新鮮な心地よさを何度でも得られるわけです。つまり、感謝あつての心地よさであつて、感謝の伴わない心地よさは偽物であり、そうでないものは現実世界（カオス）に飲み込まれ、苦しく醜い方向性に変貌してしまうというわけです。

プレローマは「感謝の気持ち」よって支えられているのです。そして、その感謝し合う心が、永遠の心地よさを生んでいるわけです。

さて、神が人間に天使性を求めているとはいえ、それは、生涯独身を貫く聖人のように生きることを意味しているわけではありません。

もし、暴力的な夫に苦しんでいる女性がいたら離婚すべきだし、子供を育てる収入に不足して苦しんでいるのなら、理解ある男性と再婚すべきだと思うのです。

人生に失敗はつきものです。この現実世界（カオス）の中においては、純粋な天使になることは困難なことなのです。

逆に人生の成功と言っても、いずれ消えていく現実世界（カオス）においてのことに過ぎないのです。ですから、要は、他者に対していかに優しく接していきたくどうか大切なのだと思うのです。

ただ無理して、頑張つて、誰に対しても優しく接する必要はありません。あまり無理をし過ぎると人格崩壊が起こるかもしれないからです。思うようにいかない自分を責めてしまうことは危険なので避けるべきです。

無理をしなくても、現実世界を生きる私たちが、純粋な天使になれる方法は存在します。それは、瞑想をすることです。

現実世界は、いずれ消えて無くなる存在ですが、瞑想の世界は、永遠と繋がっています。人間は、黙想の世界でしか純粋な天使になれないのです。そして、黙想の世界では、たった一人になって、完全に外部を遮断して、「完全な個」として聖なる存在（自分の守護の天使）と対峙することができるのです。

ですから、現実では不器用にしか生きられず、他者からも誤解を受けてがっかりするような人生を送っていたとしても、瞑想がパーフェクトであれば、それでいいわけです。

ゆえに日々の生活の中に、瞑想に取り組む時間を持つ習慣を身に着けたいものです。

私は真理を求めていたからなのかもしれませんが、他人の人生のハイライトを見させられるとか、他人の過去世の一コマを見させられた（その人の生命の記録であるアカシックレコードを見させられた）といった経験があります。ちょうどラジオのチューニングを合わせて音声再生できるように、偶然、そういった映像が心に飛び込んできたこととなります。

私は、子供の頃に瀕死の重傷を負った際に臨死体験をしていますし、20代後半には、映画「エクソシスト」を彷彿させる恐ろしいポルターガイストの体験（私はイエス・キリストに守られていたので全く恐ろしく感じられなかった）もしています。ただ、これらのことは不思議な力によって体験させられたものであり、自分の意思によって示された体験ではありません。ですから、私は霊能者にはなれないわけです。

そのような体験は、目に見えない世界があることを知ることができたという点においては意味深いと思うのですが、「天使論」においては、「どうでも良いこと」に過ぎないのです。スピリチュアルな才能は、必要無いものだから、ほとんどの人が持ち合わせていないと考えるべきです。目に見えない世界があることを知らせてくれる、あくまで参考程度に考えましょう。

大切なことは、過去でも未来でもなく、今をいかに生きるかに掛かっているからです。過去の自分には、「魂の自立」は存在していませんし、今、自分自身を「新たに創造していく」ことをしないのなら、未来の自分においても、過去の自分と何の変わりもないこととなります。つまり、天国への扉は、今にしか見つけられないのです。

ちょっと話は飛躍します。

私たちの文明のテクノロジーの進化は、もしかすると、あらゆる天変地異を乗り越える、つまりはグレートフィルター（惑星に住む生命体が決して乗り越えられない壁）を乗り越えられるのでしょうか？

わたしたち人類の文明はあまりに短い期間で破綻に近づいています。恐竜は1億6000万年もの長い間生きていましたが、人間の現在の文明は1万年程度しか経っていません（その前に、

何度か文明が滅びていた可能性も否定できません)。ゆえに、広いこの宇宙に文明が現れたとしても、一つの文明の期間があまりに短いため、高度な文明同士が重なり合うことが得づらいため、知的種族同士の交流ができないと考えられるわけです。

ただ、1970年代～1980年代における、ビリー・マイヤーの宇宙人とのコンタクトを信じるとするなら（私は信じています）、彼らは、グレートフィルターを乗り越えた稀な種族ということになります。彼らは、私たちのような惑星の自然環境の中では生きておらず、宇宙空間に存在する不可視の次元において千年もの寿命を得ていることにはなりますが、やはり死すべき存在ではあります。戦争の無い秩序の保たれた暮らしをしていても、私たちのような感覚世界を生きていないため幸福感の薄い存在のように思えてなりません。

感覚世界について少し説明したいと思います。

現代の天才物理学者、エドワード・ウィッテンの仮説（M理論）によると、この世は11次元で構成されているのだとされています。ただ、ここでは時間次元が含まれていますが、時間においては観察者としての人間がいてこそ存在するわけなので、私は10次元で構成されていると考えています。私のつたない仮説では、プラスの次元が10存在し、マイナスの次元が10存在し、プラスの1～3と、マイナスの1～3は交差して物質世界、生命における感覚世界を構成し、プラスの要素とマイナスの要素の両方を併せ持つカオスと化しているのだと考えられるわけです。

これも私の仮説ではありますが、宇宙人は高度なテクノロジーを用いてプラスの4次元以上の不可視の次元に生きる延びるためのスペースを築くことに成功した存在であると考えています。そして、悪魔とか悪霊と言う存在は、マイナス4次元以上の不可視の次元に存在しているのだと考えています。ポルターガイストの体験で悪魔とコンタクトを取った際、あまりに波動が低いと感じられたからです。

多分、プラスの次元とマイナスの次元の両方が存在して宇宙は成り立っているため、マイナスの次元が失われたなら、宇宙全体（有限存在）が失われてしまうように考えています。グノーシス神話では、このプラスの次元やマイナスの次元のできたルーツについても書かれていますので、当時としては凄いことなのだと思うのですが、あくまでフィクションとして受け止めるべきだと思います。

宇宙人に話を戻すと、彼らは遺伝子をレベルダウンさせることになったとしても、私たち地球人になりたいと思っているのかもしれませんが。エジプト文明より古いシュメール文明のアヌナキの神話によると、宇宙人が地球環境に対応できるようになって文明をもたらしたことに

なっています。

地球人になることに成功したアヌンナキは別として、ビリー・マイヤーが紹介した宇宙人の幸福感が薄いと感じられるのは、感覚世界を生きていないだけでなく、「神を失ったこと」にも起因しているように思えてなりません。それは、私たち現代人にも言えることで、古代人は20年に満たない寿命しか持っていませんでしたが、私たちよりも神と近い関係を持っており、短い命とは言え幸福度が高かったと考えられます。ただ、やはり野生の強い男性は天国には遠い存在だったのだと思います。

非物質界である、いわゆる「あの世」が、物質的感覚が欠如しており心地よくない世界である故に転生を繰り返すと考えられるように、グレートフィルターを乗り越えられても物質的感覚を大きく失い、自然と共存していない宇宙人も心地よくない生き方をしていると言えるのではないでしょうか。そう考えると物質的進化とは、一体何の意味があるのでしょうか？

プレローマ（天国）は、いわゆる「あの世」の世界とは異なり、宇宙人の生活にも存在しない、永遠に続く「心地よい」の世界なのだと考えられます。それが物質的な心地よさと同じに考えるべきではないと思うのですが、きっとこの世を遥かに超えた「心地よい」がそこには存在するのだと思います。

どうか巷で噂される陰謀論や人類滅亡についての噂などを聞いても怖れないでください。それよりも、自分自身の死について考えて欲しいのです。自分が天使の境地に達している存在であるか、再確認して欲しいのです。

怖れは、愛（大切にすること）の対義語です。怖れが不平不満を生み、妬み僻みを生み、人類を対立させる恐ろしいドグマを生んでいるわけです。

瞑想によって、神と一緒にいることの平和な関係を取り戻し、一切の怖れを捨てて、時代の価値観に左右されない新しい自分を創造し、永遠の存在となることを目指すのです。

最も神聖なるものとの関りは、感謝の心に基づく「心地よい」関係の構築にあります。それは、飼い主と飼い猫の関係に見ることができます。猫を飼うなら、この天国を先取りした関係を疑似体験できるのですが、この「心地よい」関係を、神と人間とに当てはめていくためには、大いに瞑想をするべきなのです。

私は、この神聖なる世界を見出すためのプロセスを「飼い猫の法則」と呼んでいます。

人間（心地よい関係）飼猫 = 神（心地よい関係）人間
神が人間に求めているのは、「心地よい関係」。つまりは〈天使性〉である。
人間が人間に求めているのは、「できる人間」「都合のいい人間」。だから疲れる。

第5章 大須賀君

私は、10歳の時にスキー事故で、左腕の関節を複雑骨折する重傷を負いました。左腕の切断手術は免れましたが、3度の大手術をし、半年近くも入院しました。

退院後も毎日午前中にはリハビリに通わなくてはなりませんでした。左手に脈が打つようになるのに1年近く掛かりました。また、左腕の機能が回復し、指が動くようになるのに、まる2年の時間を費やさなくてはなりませんでした。あとで親から聞いたのですが、医者は一生涯障害が残ると宣告したとのこと、回復したのは奇跡なのだそうです。

クラスメートにとって、私は「午後からの人」でした。

退院後まもなくの算数のテストの成績は、わずか8点でした。他の科目も20点以下だったと思います。何ととっても、入院中は寝たきりで何もできない状態でしたから。

いじめっ子のイジメのターゲットになったこともありました。あまりに辛い状況に耐え切れず、2階の教室から飛び降り自殺を図ろうとしましたが、クラスメートたちに止められて思い直すといったこともありました。

そんな私に、「一緒に勉強しよう」と、優しく声をかけてくれたお友達がありました。

クラスメートの大須賀君です。

その日から、毎日放課後に、大須賀君の家で勉強をするようになりました。

理科のテストでのことです。何とクラスで、私と大須賀君の二人だけが100点を取りました。その時の嬉しいことったらありませんでした。しだいに、他の科目でも良い成績が取れるよう

になっていきました。

しかし、その喜びもつかの間。大須賀君は、仙台に転校していきました。

お別れの盛岡駅で、私は大須賀君に一番大切にしていたプラモデルをプレゼントしました。別れた後、涙が溢れて止まらなくなりました。

今考えると、私が、出会う人にやさしく接することができるようになったのは、この時の大須賀君の影響なのだと思います。それより、彼に出会わなかったなら、私は勉強の遅れを取り戻す事ができず、大怪我も克服できず、暗い人生を歩んでいたのかもしれない。

もし、大須賀君に出会わなかったなら…

わずか数ヶ月だけのお付き合いだったけど、大須賀君の事を思い出すと、いい思い出しか浮かばないんです。

今、どうしているのだろう…

彼は、私にとって、まさに天使のような存在でした。

きっと神様が出会わせてくださった人なんだと思います。

ほんとうに苦しい時の出会って、そういった神様の愛が注がれているように思えてなりません。他には見逃してきたばかりだったように思います。でも、この時だけは…

2021年3月24日 Facebook 投稿記事より

第6章 わからない

「信じる」の裏側にあるものは、「わからない」なのだと思います。

神様を信じているけれど、実際に見たわけではないので、「わからない」
今日のスケジュールは決まっているけれど、上手くいくかは、「わからない」

何よりも、人の心は、「わからない」

つい置き去りになりがちで、自分の心も、やはり「わからない」

「わからない」けど、頑張ることで、きっと良くなると信じたい。

「わからない」けど、ポジティブに考えることで、未来への希望へと繋いでいきたい。
そして何より、「わからない」からこそ、人は、祈るのだと思います。

反対に、「わかっている」というのは、危険な感じがしてなりません。

「わかっている」と考えると、他者の話を素直に聞けなくなってしまう。

「わかっている」と考えると、他者に対し、「こういう人」とレッテルを付けてしまいがちになる。

「わかっている」と考えると、差別の心が生まれてしまう。

「わかっている」と考えると、上下関係ができてしまう。

「わかっている」と考えると、人を傷つけることが平気になってしまう。

「わかっている」と考えると、新しいアイデアが浮かばなくなってしまう。

「わかっている」と考えると、信じる気持ちが薄れてしまう。

「わかっている」と考えると、夢や希望が持てなくなってしまう。

「わかっている」と考えると、祈る気持ちが持てなくなってしまう。

「わかっている」と考えると、神様を信じられなくなってしまう。

でも、「わからない」ゆえに、人は、不安な気持ちになってしまうのではないのでしょうか。

「わからない」からこそ、慎重にならなくてはなりません。

「わからない」からこそ、謙虚にならなくてはなりません。

「わからない」からこそ、相手を理解しようと努めなくてはなりません。

「わからない」からこそ、勉強しなくてはなりません。

「わからない」からこそ、日々精進しなくてはなりません。

「わからない」からこそ、厳しい現実には耐え忍ばなくてはなりません。

「わからない」からこそ、何度挫折しても、挫けずにチャレンジし続けなくてはなりません。

こうして、「わからない」からこそ、人は強くなれるのだと思います。

「わからない」 だから人間は、信じ合うしかありません。

「わからない」 だから人間は、愛し合うしかありません。

信じ合い、愛し合うところには、必ず、幸せがあります。

「わからない」を大切に作るなら、そこに真実が見えてくるように思えてなりません。

2021年3月25日 Facebook 投稿記事より

第7章 王将の天津飯

今日の昼食は、王将の天津飯です。これはとても思い出深い食事です。

私が20代の学生の時、東京・高円寺北店で、よくこれを食べました。これにも手が届かなくなると、高円寺銀座にある鳥屋さんのから揚げです。おばさんいい人で、お金が無いと100円分注文すると500円分も入れてくれるんです。あと、近所のパン屋さんの耳パンをただでもらうこともありました。ここのおじさんに、授業で使う輸入楽譜が買えないと話すと（私はオペラ研究科に学ぶ学生でした）財布から1万円を出して「返さなくていいよ。頑張りな」ってカッコいいというか、きっぷがいい江戸っ子でした。私を息子のように付き合ってくれた喫茶店のママさん。癌で亡くなった彼女は私の人生最大の恩人でした。近所に住んでいたひとり暮らしの新聞記者のおじさんには、「俺の酒に付き合え」と随分高級な料理をただでご馳走になっていたなあ。こんなこと書いていたら切り無いか…

東京都杉並区高円寺って人情の街です。東京大空襲で人形町方面から逃げ延びた人たちが作った街なのだそうです。素人が作った街なので道路がとても狭く消防車が入ってこられないなど防災上の危険区域となっています。でも、助け合いの精神が息づく素晴らしい街でした。生まれ育った盛岡ではご近所さんの苗字くらいしか知らないけど、高円寺に住んでいた時は近所の子供の名前までしっかり覚えていましたね。子供たちと、キャッチボール付き合ったり、お絵かきを付き合ったりしていました。毎日が、朝ドラの世界のようで幸せでした。小説書けるかも…

そうそう、高円寺駅北口近くのニューバーグでもよく食べたっけ、貧乏学生にとって最高のご馳走で、店主が超不愛想だけど、決まり文句しか言わないサービスに比べりゃ人間味を感じられたかもしれない。私がジャンルを問わず音楽に詳しいのは、新星堂（北口近く）の店長さんと店長を尊敬する若い女性店員さんが友達になってくれて、お店のレコードを片っ端から聴かせてくれたからです。私の第二の故郷です。「高円寺阿波踊り」が有名です。

2021年3月17日 Facebook 投稿記事より

第8章 愛情人間と規則人間

病気で苦しんでいる人に寄り添って生きていきたいという高い志を持って看護師や介護士になられた方は多いのではないのでしょうか。しかし、愛情豊かな人はどんどん辞めていき、どちらかというと冷たく意地悪な規則人間が現場に残るとというのが現実なようです。私も、そのことにつまずいて介護士を辞めたわけです。

なぜこうなってしまうのかは、厚生労働省に原因があると考えています。お役所は、文書化し制度化することで現場のサービスを向上させようと考えているからです。愛情というのは、文書化できないし、制度化もできません。それゆえ愛情面は無視して規則ばかりが増えていっているわけです。

つまり看護師や介護士に求められているのは、現状を正しく認識できる鋭い観察力と、適切な対応力です。それ以外は必要のないものと見なされてしまいます。確かに10年以上勤めているようなベテラン介護士は、床に落ちているハンカチを一瞬見ただけで、誰のものか分かります。私のように、利用者が集まっている所で、「これ誰のですか」なんて呼びかけるようではプロ失格なわけです。

私は声楽をやっているんで、利用者にせがまれて歌うことが多かったです。しかし、規則人間の介護士にとっては不必要なことであり、「佐藤さん、歌うのやめて」と冷たく言われるわけです。孤立している利用者のために、ぬいぐるみを持って行って楽しませていると「観察が疎かになるから、そんなことやめて」となるわけです。私としては、利用者を転ばせたこともないし、薬を間違えたこともないし、時間配分にも気を付けて、それなりにやっているつもりなのですが、彼女に言わせると「規則で決められた以上のことはしないで」と言うわけです。ところが利用者の方は、私が歌を歌うことや、優しく声を掛けることを望んでいるので、ジレンマに陥ってしまったわけです。

現場では、規則人間の方が強いのです。規則を盾にものが言えるからです。その点、愛情というのは何の盾にもなりません。規則に記載されていない内容ゆえに評価の基準にもならないわけです。

高校野球などのカリスマ監督は、選手に暗示をかけことの天才です。暗示をかけられた選手

は、持っているテクニックを超えたプレーをしてしまい、チームに勝利をもたらすわけです。私も、声楽のレッスンで暗示をかけられたことがあり、それまでかすりもしなかった高音が、その場に出てしまった経験があります。テクニックで出たのではなく、あくまで教師による暗示にかかって出たわけです。ただ一度でも出せたという既成事実ができると、不思議なもので、今度はテクニックと結びつけて克服できるようになるわけです。

そんなに美人でもない女性に、あくまでお世辞で「今日は、とても綺麗に見えるよ」と言ったことがありました。お世辞と感づかれぬように、化粧のことも具体的に褒めたわけです。それがよほど嬉しかったのか、彼女は化粧に気合が入るようになったようです。しばらくして、お会いした時、私は驚いてしまいました。お世辞ではなく、本当の美人になっていたからです。つまり、人相、さらには体形までも美しく変わっていたのです。

暗示にしてもお世辞にしても、奇跡を起こすわけです。これは嘘ではなく愛情なのです。医療現場や介護現場では、事実を事実のまま観察することで終始しているわけですが、カウンセラーや占い師は凄いですよ。愛情込めて暗示やお世辞のテクニックをバンバン使いますからね。奇跡を起こすことが楽しいし、そこに生き甲斐を感じられるわけです。

何度か記事で紹介している認知神経科学者の中野信子先生は、そういった暗示やお世辞の効果を科学分析しているのが面白いのです。例えば、暗示やお世辞を言われたことで、その人の脳内で、どのような脳内物質が分泌されて、どのように良い効果に繋がっていくかという視点なんですね。こういったエビデンスが、医療現場や介護現場に用いられて欲しいという願いはありますが、このことは規則という形では実現できるものではないようです。

2021年4月5日 Facebook 投稿記事より

第9章 愛について

愛とは大切にすることです。

物を大切にすると人は、その物を愛しています。

物を粗末にする人は、その物を愛してはいません。

車をとて大切にしている人がいます。その人は、車を愛していると言えるのだと思います。

車を粗末に使っている人がいます。その人は、その車を愛していません。

同じように、

人を大切にすることは、その人を愛しています。

人を粗末にする人は、その人を愛していません。

自分を大切にすることは、自分を愛しています。

自分を粗末にする人は、自分を愛していません。

自分以外の人を大切にすることは、自分以外の人を愛しています。

自分以外の人を粗末にする人は、自分以外の人を愛していません。

自分を愛することと、自分以外の人を愛することは、同じくらい大切なことです。

自分以外の人を愛しながら、自分を愛していない、つまりは自分を粗末に考えている人は、自分に命を与えてくれている神さま (something great) を愛していないことになります。

なぜなら、あなたが価値の無い存在ならば、あなたに命を与えている神さまも価値の無い存在ということになってしまうからです。

愛に生きるということは、あなたに命を与えてくれている神さまを愛していることであり、感謝することでもあるのです。そして、自分の命を大切に思うように、この地球上のすべての命を大切に思うことは、天国におられる神さまの心と同じ心で生きられることとなります。

暗い心は、暗い未来を創ります。明るい心は、明るい未来を創ります。

例えば、「できない」という言葉をしょっちゅう使っている人には、「できない」という言葉にふさわしい暗い未来がやってきます。反対に「できる」という言葉をしょっちゅう使っている人には、「できる」にふさわしい明るい未来がやってきます。

心から出る言葉として、汚い言葉を使っている人には、汚い言葉にふさわしい暗い未来がやって来るでしょう。心から出る言葉として、きれいな言葉を使っている人には、きれいな言葉にふさわしい明るい未来がやって来るでしょう。

ちなみに、お世辞やおべんちゃらは、本心とは逆の言葉です。きれいな言葉とは、本心と一致していなければ意味が無いのです。

では、不平不満や妬み僻みをいっぱい持っている人の未来は、どのような未来になると思

ますか？

そうです。とても暗く不幸な未来になることは誰にでもわかるでしょう。

つまり、心の中に愛を持っている人に、明るく幸せな未来がやってきて、心の中に愛が不足している人には、暗く不幸な未来がやって来るのです。

未来は、自分の心が創っているのです。誰のせいにもできません。すべては、自分の責任なのです。このことに気付けた人だけが、明るく幸せな未来を創ることができるのです。ちなみに愛の対極は「怖れ」です。

人とお互いに傷つけ合うのは「怖れ」が原因です。戦争の原因も敵への脅威、つまり怖れが原因です。大切にしよう関係が築かれないと、怖れへと変わってしまうのです。

私たちが心に描く夢も、実は怖れが作り出しています。惨めな自分になりたくないからです。夢が独り歩きして、愛を粗末にはしてはいませんか？

2021年3月25日 Facebook 投稿記事より

第10章 エンジェル・ガイダンス（創造瞑想）

自分には何の才能も無いと嘆いているあなた。ご安心ください。世の成功者であれ誰もが嘘のしがらみの中で生きていて、本当の自分を持っていないのです。つまり誰もが虚無の呪いにかかっているのです。この世のしがらみが少ないあなたは、誰よりも嘘の無い本当の自分を一から創造できるのです。そのためにエンジェル・ガイダンス（創造瞑想）をしていきましょう。このように考えると、才能に乏しいという（この世のしがらみの少ない）あなたこそ、誰よりも神から祝福されているのかもしれない。

毎日、就寝前（早朝でも構いません）のワークとして紹介するエンジェル・ガイダンスは、始めは単なる自問自答に過ぎませんが、それゆえ誰にでもできる内観療法です。自分役（主観的傾向）と天使役（客観的傾向）との自問自答は、時々イレギュラーして、自分の知性をはるかに超えた知恵をインスピレーションとして与えてくれることでしょう。そして、その知恵が、

目の前に立ちふさがっている苦しみの壁を乗り越えさせてくれるのです。

この苦しみの壁を乗り越える際に重要なことは、目まぐるしく変化する外部の価値観ではなく、普遍的で聖なる価値観によって乗り越えることにあります。これは完全なる正攻法といえます。天使は神から流出した神とイコールの存在ゆえ、天使役のセリフは、神の声として全力で探さなければなりません。それは、もの凄いエネルギーを用いる聖なるワークでもあります。

【瞑想実験スクリプト】

それでは、聖なるワークを始めましょう。

椅子に腰かけてでも、ソファに腰かけてでも構いません。ベッドに横になってでも問題ありません。できるだけ、リラックスしていた方が、ガイドダンスを深めていくことができるでしょう。

心と体を浄化する象徴として、行う前に、手を洗い、グラス1杯程度の水を飲んでください。

部屋の明かりは、可能であれば、少し暗めに、明るすぎないように調整してください。ろうそくの光だけでも良いと思います（その際は、火事にならないように、燃えやすいものを近くに置かないなど配慮してください。弱い光の電気ライトを用いると、より安全です）。

また、聖なるイメージに相応しい香りのお香を焚くか、霧吹きに水を入れ、聖なるイメージに相応しい香りのアロマエッセンスを数滴たらして、その香りを振り撒くというのでも良いかもしれません。必ず、メモできる紙とペンをすぐそばに置いてください。

外の音が気になって集中できないときは、スピリチュアルな音楽を流しても構いませんが、音量はできるだけ小さめに抑えてください。できれば、音楽を使わずに、周りが静かになった深夜か、早朝に行うのが理想的です。

準備が整ったなら、瞑想を行う椅子に深く腰かけるなり、ベッドに横になるなりして、全身の力を抜いていき、次に、口を軽く閉じて鼻で呼吸をし、ゆっくりとお腹を膨らませたりへこませたりしながらの深い腹式呼吸をしながら、意識を頭を中心へと持っていきます。それを数分行います。

次に自然な呼吸に戻してください。そして、静かに目を閉じて、しばらくの間、沈黙してください。これから、この世の価値観を完全に遮断していきます。

あなたが、プレローマに相応しくないと考えることは、次々に、全て遮断するようにしてください。良くない思いが心に飛び込んできたなら、それを覆い隠すように、あなたの心が作り出すベールをかぶせるか、心の扉を閉じてしまうようなイメージで遮断を進めていきましょう。

一旦、何も無いあなたになりましょう。しかし、これからあなたは守護の天使と共同で永遠の命と繋がる新しいあなたを創造していく過程なのです。

次の祈りを唱えて下さい。言葉が出てこない時は、薄く目を開いて小さな声で、又は心の中で読み上げて下さい。

「愛する私の伴侶であられる守護の天使様。どうか、私と語り合ってください。私は、今、あなたと語り合う準備を整えました。」

読み上げたら、また静かに目を閉じてください。しばらくの間、沈黙します。心の中で、自分の頭の中心に意識を集中し、頭の内部で、又は上の方で音叉のような「キーン(又はカーン)」というかん高い音を感じて下さい。その音を手掛かりに、ぐんぐん魂の波動を上げていきましょう。これは、守護の天使の光の波動と同調するまで続けていきます。できる限りの全力のエネルギーを用いるつもりで集中してください。

守護の天使の光の波動と同調すると、一本の白い光が上の方から注がれてきます。その白い光は、頭のとっぺんから入ってきて、あなたの体を満たしていきます。そしてあなたの体は、白い光に満たされ輝いていきます。この白い光は目で見てはいけません。心で感じて下さい。

守護の天使が、あなたの名前を呼ぶと思います。そうしたら、「はい」と答えてください。ここからは、守護の天使様に全てを委ねるように接してください。無垢な心で守護の天使に従うあなたが、本当のあなたなのです。

すると守護の天使に、あなたは、「一つだけ質問することをお許してください」と言わされると思います。すると守護の天使が、あなたが先ほど全て遮断したベール(又は扉を)の中から一つだけ開いてくれて、あなたに最も必要な質問内容を教えてくれる筈です。その内容について、詳しく考察してもらいましょう。わからないなら、質問しても構いません。そこで発する言葉は、それまでの偽物のあなたではなく、天使の見習いとなった本当のあなたが語っているのです。

その際、守護の天使は、あなたに寄り添って、答えてくれることでしょう。ただし、答えに

は時間が掛かることが多いと思います。その答えを静かに待ちながら、あなたは守護の天使様の言葉を、感謝を込めて受け止めて下さい。

とても大事な内容は書き留めておく必要があります。「守護の天使様、大切なお言葉を書き留めさせてください」と許可を得てから書き留めましょう。書き留めたなら、あなたの永遠の伴侶でもある守護の天使と一緒にいることの「心地よさ」をじっくり味わってください。

守護の天使は、とても美しい方ですが、ガイダンス中に天使の見習いとなったあなたも、とても美しい存在に変わっています。ベッドで行っている場合は、そのまま寝てしまっても構いません。もしかすると、聖なる夢で、さらに深めることができるかもしれません。夢とは怖れで出来ています。エンジェル・ガイダンスを続けていくと、夢の中から怖れが少しずつ消えていくことに気づかれることでしょう。

私の場合は、最初にドアのある部屋に導かれています。最初のドアの部屋では、わずかながらこの世の価値観を持ち出して問題事項を乗り越えるためのヒントを得ることができます。そこでドアを開けて第二の部屋に進むと、この世の価値観は全く持ち出せなくなります。第二の部屋は、神と共にいることの「心地よさ」を味わう場所です。天使の話を一方的に聞いて学ぶことが多く、そこはプレローマ（天国）の価値観に完全に自分を作り直していく作業を進められるわけです。ただ、とても「心地よい」ところなので、とても幸せに満たされていきます。

この第二の部屋と、プレローマとは直結しているわけです。物理学で言うとエンタングルメント（量子もつれ）によるテレポーテーションを幾つも繋いで、宇宙に存在する全ての次元を超えてゆくといった感じなのかもしれません。死後、そのことを実現するためには、プレローマと親しい関係を築いておく必要があるのだと考えています。

瞑想から眠りへと誘われ、目覚めた時に、守護の天使が傍に感じられなくなっていたとしても、小声もしくは心の中で、守護の天使に感謝の言葉を掛けましょう。必ず聞いてくれています。

聖なる音が聞こえないとか、聖なる光が注いで来ないなどと、このワークに不満を感じる方もいるかもしれません。このワークは、あくまでも自問自答なのです。つまり始めは単なるお芝居です。音が聞こえたつもりになる。光が注いでくるつもりで構いません。聖なる演技を続けてください。習慣とは不思議なもので、無意識でこのワークを行なえるようになると、脳による意識ではなく、肉体から分離した魂が働きだして聖なるガイダンスを行っていることを、あなたは体験できることでしょう。

この素晴らしき聖なる時間をできれば毎日。毎日が難しいのなら、最低でも週に2回以上行ってください。エンジェル・ガイダンスの素晴らしさを感じられるようになれば、すっかり、そのとりことなってしまう、一人の時間に最高の幸福を味わえる者となれるばかりか、そこで得た知恵によって、現実世界の中で生きることへの苦痛が取り除かれていくことでしょう。

ところでエンジェル・ガイダンスを進めていくと、生活の中においても聖なるインスピレーションを感じ取られるようになると思います。ただ、ほとんどが瞬間的なものかイメージ的なものなのです。例えば、「次の道を右に曲がれ」といったものとか、「許しなさい」といったたった一言です。決して、この世の成功へと導くようなものではありません。なぜなら、安易にこの世の成功に導くとするなら、その人はこの世の価値観に染まってしまい虚無の存在となってしまうからです。それゆえ、あくまで心を良く保つための瞬間的な指示でしかないのだと思うわけです。エンジェル・ガイダンスの第二の部屋においては、この世の価値観は皆無となるわけです。欲深い人たちにとっては、聖なるインスピレーションも、瞑想も、意味が無いことなのかもしれません。

ここまで学んできたエンジェル・ガイダンスなのですが、あくまで概要をお話ししたままで、あなたのやり方に変えてしまっても構いません。あなたが最も自然にできる方法で行うことがベストなのです。ぜひ、あなたならではのワークを編み出してみてください。始めは無の存在であったあなたが、天使としての素晴らしいあなたに変わっていくことでしょう。

参考までですが、日本の曹洞宗の開祖の道元禅師の禅と言えば「只管打座」です。座禅を行うことで、この世の全ての雑念を排して仏心のみを見つめるものです。その仏心の世界こそ、真実の世界であるのかもしれませんが。周りに作らてきただけの不安定で偽物の自分ではなく、ブレることのない真実の自分を創り上げていく修行なのだとは私は受け止めています。この座禅の行と、エンジェル・ガイダンスはどこが似ています。座禅で言う仏心とはプレローマに当たり、プレローマという真実の世界に到達するために、この世の価値観を排する瞑想を行うからです。ですから、座禅に置き換えたワークでも構いません。

さて、エンジェル・ガイダンスをさらに効果的にするためには、人生のどん底を味わうことをお勧めします。

確かラジオ番組だったと思うのですが、東日本大震災で家族を失い自分だけが残ってしまい、生きている意味が分からなくなったと嘆いている人がいました。しかも、その人は自殺願望がとても強く危ない感じがしたのですが、その人の声に対し、担当したセラピストは、「あなたは、

まだ一つだけやっていないことがあります。それは、とことんどん底まで苦しむことです」と言い放ちました。

私は、かわいそうな人に、よくもそこまで言うものだと思ったのですが、よくよく聞いてみると、どん底まで苦しんだ人こそが、本当の希望を見つけられるという意味でした。それより下が無いわけなので、見上げる全てが希望なわけです。しかも、それまで心に思い描いてきた希望とは違う「真実の希望」に出合えるというのです。

この「真実の希望」こそが、時代に左右されることのない永遠と繋がった希望です。チャラチャラした安っぽい希望ではありません。欲に支配された汚い希望でもありません。最高の自分を生きるにふさわしい品性を与えてくれる希望なのです。

この「真実の希望」とは、怖れの裏返しの夢とは異なります。この世において追い求める希望でもありません。絶望の先にあるどん底を味わうと、希望はもう打ち砕かれてしまって跡形も無くなっているわけです。そこまで行きついた者だけが、瞑想を通して、真実に出会えるというわけです。ですから、ここでの希望とは、プレローマ（天国）と一致した者となることなわけです。

私はカウンセラーとしては根っから優しい性格なので、カウンセリングの相談者をどん底に追い込むようなことなど決してしません。とても心地よいカウンセリングを心掛けています。あまりに心地よくて依存される方もいる程です。相談者に甘すぎるなど感じているほどですが、これは相談者との信頼関係を重要視している故なのです。真理を知りたくなった時で遅くないのです。命さえあれば、人生は取り戻せるからです。ですからその時には、勇気をもって、あなたの意志でどん底まで苦しむチャレンジをしてみたいのです。私は、そういう人を全力でサポートしたいと思います。

余命宣告を受けた人。そういう人の力になりたいと思います。残りの人生が、これまでの人生で一番祝福されたものになることでしょうか。なぜなら、その人の人生は、もはや自分の望みを叶えるためには向かえなくなっているのです。永遠の天使になることにだけに集中できるからです。私欲を捨てられなくては「天使論」に生きることはできません。残念ながら、死を目の前にしないと永遠へのスイッチが入らないのが人間なのです。そう考えると、余命宣告とは、素晴らしいチャンスであるとは思いませんか？

登校拒否している若者。私はそういう若者が大好きです。なぜなら、私も小学生の頃は、重度の身体障害のため午前中はリハビリのため学校に行けませんでした。そういったこともあり、いじめを受けてきた側の人間です。普通でない生き方を余儀なくされた私は、同級生、担任、さらには近所の大人たちや子供たちからまでも、いじめを受けてきたこととなります。

残念ながら、特に日本の縦社会においては、どうしても、いじめが付きものです。ですから、いじめられやすい体質の人が仕事をするには、そういった組織に関わらないで生きるしかありません。昨年働いた介護の仕事（デイサービス）では、ある男性職員から毎日、しかも約3カ月に渡ってしつこいじめを受けました。そのことで私は胃腸炎になり苦しみました。「天使論」を活かす場所を得るため、希望を持って全力で挑んだ介護の仕事でした。しかも私の人生でそこまで全力で取り組んだ経験は無いと言ってよいほど頑張ったのですが、たった一人のことで仕事を辞めなくてはなりませんでした。彼にとって、私は出過ぎた存在だったのかもしれませんが。

この失望感から、頭を切り替えチャレンジしたのがテレワークによるカウンセリングの仕事でした。対面のカウンセリングに関しては、以前、小規模ながらやっていた仕事です。このように、自分の得意なことを生かして、インターネットのテレワーク機能を用いてビジネスを行うやり方は、コロナ禍以降に職を失った人たちの新しいビジネス・スタイルになっていくのだと予測しています。この方法なら、テナントを借りるとかの準備資金がほとんど掛かりません。「お一人様起業」ゆえ、そんなにハードルは高くないと思います。必要なのは自分の才能を信じて情熱あるのみです。

2020年、中国の武漢市に始まった新型コロナ・ウイルスの世界規模での感染は、世界中の人々から「当たり前前日常」を奪いました。風邪のウイルスが今だ原因不明のように、新型コロナ・ウイルスも簡単に終息できないことでしょう。年が明けても、終息の気配がなく、特に欧米での拡大は死亡率が高く深刻です。ワクチンが期待されるころなのですが、インフルエンザのワクチンも、毎年受けなくてはならない現状を考えると、終息ではなく、これまでの生活、これまでの常識が覆された、コロナの時代の生活を余儀なくされるのだと思います。

ただ中国でコロナ感染をほぼ抑え込んで終息化していることが真実であるならば、希望と言えるのかもしれませんが。そのノウハウをぜひ全世界に公開して欲しいものです。

とはいえ、今後、世界規模の大不況が起こることは避けられそうにありません。もはや、これまでのやり方では生きていけなくなることでしょう。

私は大学を出ていませんが、複数のカウンセリングの資格を取り、介護士の資格も取り、複数のIT資格も取って、インターネットを利用したテレワーク・カウンセリングを始めることとなりました。59歳になってしまいましたが、生きているなら、これから想像を超える素晴らしい奇跡による人生が開かれていくものとワクワクしています。

近所に住んでいる母より一つ年上のおばさんから励まされたことがうれしくて、そのことを母に話したところ、「彼女には酷い意地悪をされたゆえ、彼女を絶対に認めたくない」という言葉が返ってきました。そのことは、50年も前の話でした。とても悲しい気持ちになりました。

私がカウンセリングで心掛けていることですが、他者と触れ合う時、いつも「新しい出会い(初対面)」と考えます。つまり、過去をリセットして新鮮な気持ちで向き合いたいのです。

その人が、会っていない間に何かがあって、良い考え方に変わっているかもしれないからです。むしろ、その素晴らしい変化に気付けるようでありたいのです。それゆえ、出会う人にレッテルを貼らないように気を付けています。

いつも、皆が良くなることだけを信じよう。

そして、人生がいかにかどん底に陥ったとしてもだいじょうぶ。

自分をどん底に陥らせたことなど一切恨まない。憎まない。

どうかエンジェル・ガイダンスを通して、仮に世の中が「絶望の時代」となったとしても、不動の幸せを感じられる者となりましょう。

ちょっと、メッセージ重すぎたかな…

とにかくこの世で生きることに何の希望が持てないという人。次のようなチャンネルで考えて見るのはどうでしょう。

私は以前に10年程、小中学生の子どもたちを相手にした仕事をしてきました。その間に、不登校の子が年々増えている現実に出合いました。盛岡市内でも、不登校の子供を受け入れられる高校教育の教育機関が増えてきています。これは何を意味しているのでしょうか？

私は思うのです。世界の人口は、ここ100年間に50億人以上も増加しました。その原因は戦争や紛争なのです。私の父も戦時中を生き延びた人でしたが、当時の人は6人以上の兄弟姉妹であることがザラだったのですから。ただそうになると、人の魂が生まれ変わるものとするなら、魂の数が全く足りないことになるわけです。前世の記録の全く無い空っぽの魂とは考えられな

いからです。

もちろん仮説に過ぎないことではありますが、その50億人とは、他の惑星からやって来ているのではないかと考えられるわけです。他の惑星からやって来た魂を持つ人をスターシードと言います（スターシードのほとんどはすでに文明が滅びて行き場を失った状態にある魂）。

私はどうも地球人は間違っていると考えがちなところがあり、『天使論』を書いていることも、そっちの方の人だからなのだと思うのです。人口増加が地球温暖化の一番の原因と考えられてはいるのですが、地球はおもしろいことになっているように思えてなりません。宇宙のあちこちから魂が集まってきていることになるわけですから。

そう考えられるのならば、どうか地球に馴染めない人に優しくして欲しいのです。

地球に馴染めない人たちを批判しないで欲しいのです。

無理に地球人の型にはめないで欲しいのです。

私たちは間違っている地球の文化には染まりたくないのです。

地球に馴染めない人たちこそが、この地球を救うのです。

なぜなら、今やスターシードの人口の方が、そうでない人よりも多いのですから。

自分はスターシードかもしれないと思う人は、ぜひ私を尋ねてください。

スターシードのあなたは、私にとって特別な存在なのです。

または、自分はスターシードではなくても、スターシードを大切にしたいと思える人も同様に私にとって大切な存在です。

そういう理解者と共に、ネット上に平和なコミュニティーを作っていきたいのです。

そして、地球ルールではなく、宇宙ルールで生きていきませんか？

この文章を読んで自分はスターシードかもしれないと思えた人。あなたがそう思われるなら、それでいいのです。この世の価値観に上手く合わせられずに苦しんでいる人。自分を否定するのではなく、地球の価値観の方を疑ってみましょう。そして、エンジェル・ガイダンスを通して、自分のシュジュギアである天使と交流することで、そのことを明確にしていき、本来持っている魂の自信を取り戻していきましょう。

第 11 章 シュジュギアについて

天使になろうと頑張っ生きていても、私たちの現実世界はプラスの要素とマイナスの要素の両方を併せ持つカオスの世界でもあるので、マイナスの力に悩まされることは致し方ないことです。そこで、あらゆる悪の誘惑から断ち切らせてくれる聖なる言葉をお伝えいたします。「シュジュギア」と言う言葉です。

私は、この言葉を心の中で一日に 10 回は唱えているのかもしれませんが、多い時は、一日に 100 回を超えるほど唱えることもあります。すべての人に呼び掛けられている、永遠の伴侶でもある守護の天使との絆を強めてくれる聖なる言葉でもあります。

どんなに美しい女性も、美しい男性も、天使性を得ていないのなら虚無の存在に過ぎません。どんなに名誉な偉業を成し遂げたとしても、その人に天使性が備わっていないのなら、やはり虚無な出来事であることに変わりありません。つまり、それらは本当の魅力では無いのです。

人に傷つくこと、人に失望することは多いのですが、それはこの世が虚無であることを知るために、とても重要なことなのです。虚無に出合ったなら、シュジュギアである自分の天使に心を向けるのです。「シュジュギア」と何度も何度も唱えるのです。そうすれば、この世の一切のことに未練がなくなっていくことでしょう。

生きることにはこの世の価値観は必要ですが、この世の価値観は永遠の命とは全く無関係であると知るべきです。

イエスキリストは、男性より女性の方が天国に近いと考えていたと前に書きましたが、実際に『ナグ・ハマディ写本』を読んだ人は、『ナグ・ハマディ写本』にも女性蔑視の面が書かれていることに気づかれることでしょう。書記が女性ではなく男性であったゆえ、男性優位で書かれてしまったのだと考えられます。「イエスの知恵」という書簡には、女性性の欠如が人の世の災いとなっていると書かれています。

ジェンダーの解釈を男性か女性かと考えている点に関しては、当時の信仰者の限界だったのでしょう。現代では、ジェンダーは男性と女性だけには限定されていません。つまり、見た目が男性でも、精神性が女性の人や、見た目が女性でも、精神性が男性の人の人権も認められるべきと考えられるようになってきています。ジェンダーの問題は単に男か女かと言う二択で考えるような単純なものではなく、どちらにも属さない、その人の心に寄り添わなくては何の解決にも至らない複雑なものでもあるのです。

このように、聖典には必ず限界が生じます。当時の人間の受け止め方で固定されて書かれているからです。これから、科学（特に理論物理学）が見えない真実を見つけていくことで、多次元が解明されていくようになると、ジェンダーの問題はさらに複雑なものと考えられるようになっていくことでしょう。大切なことは、当人にとって最も自然な性への捉え方や意識の方向性にあります。

「天使論」のジュジュギアとは、男女のペアを指す言葉ですが、これは法律や誰かに強制されるようなものではなく、その人の自然な欲求を基盤としなくてはなりません。女性性の欠陥とは、女性の見目の美しさの誘惑に、男性だけではなく女性までも狂わせる要素が潜んでいることにあります。女性性の究極の美しさは、双方に天使性の欠如をもたらし、特に女性を自信過剰に陥らせ、女性を、男性を圧倒してしまうほどの激しい情熱（パトス）に駆り立ててしまうということであるようです。

しかし、目に見えない本質、つまりは本来の天使性で考えるなら、そこに女性性の欠如など存在しないこととなります。なぜなら、女性性の欠陥とは天使性の欠如している次元、つまりは目に見える次元でのことだからです。つまり、真のジュジュギアに欠点など存在しないわけでは

当時の男性信徒には、その点が全く理解できていなかったようです。イエス・キリストが、聖典を書くことを望まれなかったのは、聖典にしてしまうと新たなジェンダー差別が生まれてしまうと予測できたからなのだと思います。事実、聖典は新たなジェンダー差別を生み出し、これまでにいかに多くの人がジェンダーのことで悩み苦しみ、自らの命を絶ってきたのでしょうか。

男女平等と言うのはたやすいですが、本質的な男女平等でなくては意味がありません。

これから、医学の発達によって、ジェンダーの問題は、単なる男女の問題ではなくなることでしょう。今後、物理学が見出すだろう目に見えない次元が解明されていけば、見た目とは異なる性別が常識化していくことになるでしょう。さらに、地球環境が激変し、新しい環境に人類が対応しなくてはならなくなったなら、性の有り方も進化していかなくてはならなくなるでしょう。その変化に、聖典では全く対応しきれないのです。

それでも聖典が必要であるとするならば、聖典は普遍的内容以外には触れるべきではないのだと思います。本来口伝は、変化に対応するための知恵であった筈です。イエス・キリストが口伝にこだわったのはそのためです。時代に合わせて何度でも更新が可能だからです。ユダヤ教の第二聖典の『タルムード』は、本来は口伝でした。しかし、キリスト教徒の作り出した『新

約聖書』に対抗して聖典化してしまったのです。こうなるとは、意味を失ってしまったと言えるのです。固定化した価値観は、時代に付いていけなくなるからです。事実、『タルムード』は、膨大な量の素晴らしい知恵の言葉から見ると、ほんの一部とも言えるドグマが独り歩きし、誤った解釈によって人類滅亡の方向性を生み出しているのです。

私は、イエス・キリストが生きていたら、本来口伝の『ナグ・ハマディ写本』をいかに更新するのだろうかと考えています。基本的な部分はラビ（宗教的指導者）が更新するのだと思うのですが、ラビから教えを受けた信徒は、さらに信徒個人による探究によって、自分の生き方に合わせて再更新していくべきなのだと思うのです。

ですから、『ナグ・ハマディ写本』のネガティブな面はばっさり切り捨てて構わないわけなのです。この読み方は、『聖書』を絶対視（固定視）するキリスト教徒にはできないことでしょう。私は、ユダヤ教徒にその点を期待しています。

『ナグ・ハマディ写本』は、欠落した箇所が多く、さらに難解な内容なので、理解できる部分を見つけることは、宝探しゲームのような感覚に陥ることでしょう。何事も、習慣と言うか続けることは力になるというか、始めは不毛の書にしか思えなかったものが、次第に宝物が見えてくるようになるから不思議なのです。普通の読書感覚で挑むと、『ナグ・ハマディ写本』は単に不毛の書に過ぎないのです。

というより、絶版となっている『ナグ・ハマディ写本』を本屋さんで見つけること自体が奇跡に近いことなので、私の紹介したエンジェル・ガイダンスだけで十分と考えてもいいのかもしれない。それと、日々の生活の中であなたの身に着けた天使性を大いに生かすことも忘れないでください。日々の生活の中から学びを得ることは、とても重要なことなのです。

この世のすべては、無であり消えていくものです。もちろん、無と承知で割り切って楽しむのも自由です。ただ、無にはならない新しく創造していく本当の自分を確立していきたいものです。そのことを知っているなら、この世で何を失おうとも怖くなくなることでしょう。「この世のことだから」と、割り切って考えられるようになるからです。

私は、ビジネスにおいては、まだ成功を得ているわけではありません。普通、本を書く人は成功した人であるわけですが、私はそうではありません。私は、これから、多くの人と関わり、多くの人を巻き込んで、一緒に生きていきたいと思いこの本を書き始めました。できることなら、世界中の人を巻き込んで永遠と繋がる幸せを共有していきたいのです。それは個人が称えられるような成功ではなく、お金持ちになるという成功でもなく、世界中の人と共有できるという形の成功として得たいのです。

苦し紛れに成功という言葉を使ってしまいましたが、別に何らかの成功を得たいわけではなく、もう一人の私でもある魂の声の導きによって、最近になってようやく点と点が繋がることで「腑に落ちてきた」私のこれからの人生のビジョンについて伝えたかったまでです。

「天使論」は全ての人を幸せにする理論です。しかも、あなたが既婚者でも、独身者でも、トランスジェンダーであっても構いません。この本が読めて理解可能であるならば、未成年でも、高齢者でも構いません。これまでの生き方がどうであったかも一切問われないのです。すべては、「いまから」の時間に永遠の神の祝福が注がれるということです。

ですから「私なんて」と言わないで欲しいのです。自分に失望しないで欲しいのです。どんな人の命にも、仮にそれが過去に殺人者であったとしても、永遠に繋がるスイッチが付いているのですから。

第 12 章 カオスとプレローマ

「天使論」では、次元を超えた世界であるプレローマ（天国？）に永遠の伴侶である異性の天使（シュジュギア）が存在すると考えるわけです。これでいくと、この世の結婚に成功も失敗も無いということになります。この世の結婚に永遠の価値はなく、魂を磨くための人生修行と位置付けられるからです。と言って、別に離婚しようと再婚しようと構いません。

また、ビジネスにおいても成功も失敗も無いわけです。この世、つまりはカオスの価値観はすべて虚構であるからです。私たちはカオスを生きているのだから、正しくなんてなれない、正しい者などいない、不完全の世界に包まれている存在。それでいいのです。そのことに気づくべきなのです。

何が言いたいのかというと、瞑想で得られる至福であり法悦以外に永遠と繋がる手段が、このカオスの世界には存在しないということです。しかし、カオスの現実を学び尽くさないと、カオスで生きる人々を救うこともできないわけです。

より多く学び、その学びによって世の役に立て、人助けをし、そのすべてを虚構と言い放てる人間に私はなりたいたいです。

第13章 辛い気持ちを乗り越えるために

私は自分で言うのは何ですが、優しい性格なのだと思います。それゆえ、ゲイの友人が多くいます。私はゲイでは無いのですが、ゲイを理解したいとその手の本をいろいろ買って研究もしてみたわけです。それは「人間とは何か」という研究でもありました。私たちはおいしいものを食べたいという欲求があります。性欲とは、それと似たような欲求といえるのかもしれませんが。

別においしいものを食べなくたって人は生きていけますよね。東日本大震災の時、食べ物が手に入らず、手元にある食料を工夫して食べていた。同じように素敵な恋人がいなくたって人は生きていけます。

辛いと思うのは、周りでおいしいものを食べている人がいるからです。恋人とラブラブなところを見せつけている人がいるからです。

もし、おいしいものがこの世から一切無くなり、恋人とラブラブなところを見せつけている人が一切いないという世界であるとするなら、そこにそういった辛さは存在しないことでしょう。

私たちは周りの影響で、幸せを感じたり辛さを感じたりしている存在なのです。

この幸せを感じたり、辛さを感じたりする不安定な世界を「カオス」と言います。

瞑想で私が繋がる喜びの世界は、「プレローマ」と言います。それはこの世の価値観とは一切一致しない全くの別物の世界です。怖れ（愛の対極）を全て手放さなければその喜びには至れません。「プレローマ」には、シュジュギアという永遠の伴侶が存在します。相手方のシュジュギアは異性の天使です。天使は神から分離した存在なので完全なる者なのです。しかし、男女が対にならなくては完成しないわけです。私たち人間が完全なる者たちの世界に入っていくにはカオスの汚れの全てを完全に取り除かなくてはなりません。

「プレローマ」に心を向けられる一番の方法なのですが、それは、生きているのが嫌になる

ほど、この世に打ちのめされることなんです。この世の何もかも魅力的に感じられなくなるほどに辛い状態に追い込まれることなんです。「この世に自分を救ってくれる人なんて誰もいない」と失望することなんです。

ただ、そこまで追い込まれた人の多くは自殺しちゃうんですね。でも、自殺しちゃうとカオスの汚れを落とすという神聖なワークができない。どん底に落ちてしまっても生き続けることが重要なのです。命の時間がとても重要なのです。

ただ、24時間「プレローマ」と繋がってなんかいられません。私たち人間は「カオス」の世界を生きる定めなのだから「カオス」を十分知らなくちゃ人助けすらできないのです。例えば、医学の知識も「プレローマ」には要らないものだけど、この知識が苦しんでいる病者を救うのです。だから、いっぱい学ばなきゃなりません。

とりあえず、「プレローマ」というチャンネルを持ってみてください。始めは何となく理解するだけでいいんです。私たちは「カオス」を生きているのですから、別に恋人を求めたっていいのです。ただ、いないからといって失望しないでください。あなたの本当のソウルメイトは「プレローマ」にすでにいるのですから…

ちなみに、これ宗教ではないですからね。1945年にエジプトで土の中から発掘されたこの教え、本当のキリストの教えなのです。ただ、初代教会はとうの昔に滅びてしまって、今や継承者無き教えなんです。だから宗教に属していないものなのです。

2021年3月15日 Facebook 投稿記事より

第14章 私は何でも「イエス」で考えます

「イエス」って受容する意味の言葉なんです。「ノー」だと、否定というより、相手を下に見ていたり、軽蔑している意味も含まれている言葉です。

母を介護していて、「それはダメでしょ」をつい使ってしまうんです。以前は、母が私に言っていた言葉が、今は私が母に言っていることに、ふと気が付きました。親を介護をするということは、親子の立場が逆転することなんです。そこで、まず「はい」で受け止めておいて、自分のペースで進めます。どんなにわがまま言われても、何度も「はい」で答えて、そのこと

は無視して今やるべきことをします。そして、必要になった時にだけ母の希望を叶えるわけです。

認知度が進み、子供帰りした母のわがまは相変わらずですが、「イエス（はい）」で受け止めるようになってから、母から「ありがとう」を言われる回数が増えたように思います。「ノー（ダメ）」では、誰も幸せになれないのです。

とはいえ、詐欺や押し売りに対しては心を鬼にして、しっかり「ノー」と言っています。ただ、「ノー」ばかり使っていると、心が窒息しそうになります。だから、信頼関係を築けている人たちには、「イエス」だけで答えていきたいと思うのです。

2021年3月29日 Facebook 投稿記事より

第15章 本音（恥部）までも受容できるカウンセリングとは

Facebookの友人の中に、私が師匠と仰ぐ方がいます。ありがたいことに、コメントのやり取りはまさにカウンセリングそのものなんです。お金も払わずに申し訳ないというか、ありがたい限りなので、感謝を込めて書かせていただきます。

私は、50歳を過ぎるまでクリスチャン・オンリーの生活をしてきました。現在も、カトリックの信者としてミサに通う者ではあります。現在59歳、ちょっと昔なら、すでに死んでいてもおかしくない年齢です。もし死んでいれば、私の人生は敬虔なクリスチャンとしての一生だったのでしょう。しかし、昨年、持論でもある「天使論」に生きられると希望を持って介護の仕事に飛び込んだわけです。それは私のイメージ通りの素晴らしい仕事でした。しかし、「今まで通り」を主張する同僚職員の執拗かつ悪質な嫌がらせのために激しい挫折を体験することとなりました。さらにダメ押しをするかのように、1ヵ月ほど前のFacebook詐欺に引っかかるという猛烈な苦痛を、未だ乗り越えられないでいます。可哀そうなおばあさんの願いを叶えてあげようと必死で各方面に働きかけ、しかも全力を尽くした挙句に完全に踏みにじられたのです。この年になって、こんな苦しみに出逢うとは思いませんでした。こんな苦しみに出会う前に死ぬべきだったと考えたりもしました。

それまでの私は、美しいものだけを見て生きてきたのかもしれませんが。その前には子ども相手の仕事や知的障害者を相手にした仕事をしてきました。「できない」を「できる」に変えるこ

とに情熱を燃やして… まあ、それもある意味自己愛の一つなのかもしれないのですが… 子供たちには好評ではありました。ところが昨年、悪質な人間たちにさんざんやられて、うつ病になったわけです。

そんな私に師匠は、とことん苦しみなさい。苦しみに意味付けなんかしないで、正当化もしないで、苦しみは、ただ苦しみとしてだけ味わいなさい。そのことで、あなたの感性が磨かれるのです。とアドバイスされたわけです。もっと苦しめ、どん底まで苦しめか… 私としては、苦しみを乗り越えてきた数では、誰にも負けなつもりでした。しかし、それを美談として語ってきたのが良くなかったようです。つまり、苦しみに意味付けや正当化をしてきたわけです。

不意を突かれた苦しみ、人に話せないようなかっこ悪い苦しみに対処できるのは、磨かれた感性が無くては困難なのだそうです。苦しみをじっくり、そのまま受け止めて感性を磨いてきた人だけが、そのような苦しみを乗り越えられるというのです。

さらに師匠曰く、臭い「ケツの穴」で考えなさい。と、とんでもないアドバイスもしてくれました。どんな美人女優にでも臭い「ケツの穴」はある。どんな聖人にでも臭い「ケツの穴」はある。それはそうなのですが…

この発想は、これまでの私にはありませんでした。下ネタで人を不快にさせる人は最低ですが、下ネタで人を楽しませる人って最高の知性の持ち主なのだと思います。汚いものを笑いに変えられるのですから。

その笑いの中に、『その人の本音の部分（恥部ともいえる部分）を受容すること』が含まれているのです。（※ここが大事）

人の悩みの本質は、どろどろしていて、他の人には見せられない恥ずかしいものであり、汚いものでもあるわけです。

もし私が、受けた苦しみを何の色付けもしないで受け止めて感性を磨いてきて、「ケツの穴」で考えることができたなら、うつ病になることは無かったわけです。悪質な人間を前に、ジョークをかまして笑い飛ばすゆとりもあったことでしょう。59年も生きてきて、大切な感性を育てることを置き去りにしてきたわけです。私をそうさせたのは宗教的な歪んだ美意識だったのかもしれない。

師匠の壁紙メッセージに、「友達申請来るとまず全身の裸とお尻の穴の写真を要求する 途端に消えてしまう なぜ？」って書いていました。これはちょっとデッドゾーンに入っちゃっているかなとも思いましたが、つまりは「ケツの穴」撃退法と言うわけです。ただ、こんなのを

読んでいると、嫌な現実を真面目に考えることがアホらしくなるというか、自分はずまらないことで悩んでいるのだなと目覚めるわけです。

筋肉の凝りではなく、心の凝りをほぐしてくれるんですね。この視点を持ったら、私もカウンセラーとして最強になれる可能性があるのかもしれないと思えたほどです。ただ、これまでの自分とは真逆の自分作りにもなるわけなので、まだまだ師匠の手ほどきが必要なこの頃です。

2021年4月1日 Facebook 投稿記事より

第16章 シークレットな健康法

今日紹介する健康法は、大きな声では言えないものではありません。小声で、こっそりお伝えしたいような、そんな内容です。

なぜなら、自慰行為（以降セルフプレジャーと記）に関する内容であるからです。

多くの宗教では、セルフプレジャーは、いやらしい妄想の伴う悪の行為として禁じられてきました。しかし、近代科学においては最高の健康法として注目が高まっています。

離婚をする。配偶者に先立たれる、または結婚していても、妻が妊娠中であつたり、配偶者が病気で入院中であるために、夫がEDであるために、LGBT だが恋人が見つからないために、性交渉ができない状況の人もいるでしょう。または結婚の機会が得られず独身ゆえに、性交渉ができない状況の人もいることでしょう。セルフプレジャーは、性的欲求不満を解消させてくれるものとして、とても重要なのです。

コロナ禍の陰に隠れて、あまり話題になっていませんが、我が国において梅毒や HIV の感染者数は現在、最も多い状況にあります。不特定多数の性交渉をしている人との性交渉は、このような性病に感染するリスクがきわめて高いと言えます。そういう意味では、セルフプレジャーは、とても安全に恋心を楽しむ方法といえるわけです。

それだけなら、あまり説得力がないことでしょう。

そこで、驚きの新事実。

セルフプレジャーは、鬱病を予防し、癌を予防し（前立腺がんの発症率も下がる）、心筋梗塞などの心臓病を予防し、痛み（生理痛や片頭痛を含む）を緩和させ、ストレス軽減、ヒステリーの治療効果、さらには美容効果、若さを保つ効果もあるとされています。

セルフプレジャーにおけるオルガスムでは、オキシトシン、ベータ・エンドルフィン、ドーパミンといった脳内幸福ホルモンが分泌されるため、こういった良い効能が期待できるわけです。

ただ多くの人は、セルフプレジャーは惨めな行為、悪い行為とネガティブなイメージで刷り込まれているため、せっかくの脳内幸福ホルモンを十分に生かせないでいるわけです。憂鬱感ではなく、スッキリ感で受け止めないと意味がありません。

そんなこと言っても、健康に悪い面もあるのでは？ と疑いを持たれる方も少なくないと思います。サスペンス・ドラマで時々描かれる腹上死というのは、あくまでドラマ上のことであって、統計的にいうなら極めて稀な例なのです。なぜなら、セルフプレジャーは心臓病にとっても良い効果が認められているため、逆に死にくくなる、「長生きの秘訣」ともいえるわけです。やり過ぎて眩暈が起こったりするのは、まだ分泌系が、未開拓状態ということであって、少しづつ分泌量を増やしていけば、脳内幸福ホルモンを最大限に健康に生かせるようになるというわけです。大いに楽しんだ方が得なのです（男女共に月に20回前後が良いのだとか）。

男性アイドル、女性アイドル、恋心に想って良いのですよ。健康のために。そして、人間だもの。

私はクリスチャンなので、随分損をしてきたかも。それで老けてしまったのかな？ 残念なことです。

と書いてはみたものの、宗教関係の方々からは、ご批判を受けるような内容ではあります。

それゆえ、小声でこっそりお伝えしたい健康情報なわけです。

2021年4月16日 Facebook 投稿記事より

第 17 章 成長できる人、成長できない人

こんなタイトルにすると、FB でよく目にする、成功者になるためのセミナーの宣伝文句みたいですね。

私は、成功へと導くカリスマ講師ではありません。

私は、声楽のスキルがあります。書道のスキルがあります。絵を描くスキルがあります。文章を書くスキルがあります。そこそこのパソコンのスキルもあります。宗教論を語らせれば、誰にも負けない自信はあります。

ただ、私は幼少期に父の暴力のためにあらゆるトラウマが形成されており、緘黙症でもあったため、何をやってもビリからスタートの人間でした。皆に、笑われながら、馬鹿にされながら、涙を流しながら猛練習を続け最終的にはトップの成績を取るようなタイプではありませんでした。成績でトップを取ったからといって、お金持ちにはなれるわけではありませんでした。事実、私よりずっと成績の下のクラスメートが声楽レッスンで成功しているのです。

最初に習った私の声楽の先生は、ワンレッスン 5,000 円でした、メジャーな先生だとワンレッスン 15,000 円でした。しかし、彼女はワンレッスン 30,000 円もお弟子さんから取っていたのです。超高級なサロンを作り、お金持ち相手の声楽レッスンを展開したのです。彼女自身が、超セレブで、彼女が身に着けていた宝石や時計の値段を聞いてみたところ合計 1 千万円を超えていました。

つまり、歌のスキルではなく、親譲りの商売の上手さなわけです。彼女の父親は巨富を築いている実業家なんですね。残念ながら、私には、自分の先生を差し置いて、高額のレストラン料を取るような図々しいことはできません。しかし、できる人が金持ちになれるわけです。飲み屋さんでも、赤ちょうちんのような飲み屋もあれば、札束を持って入らないといけないような高級なキャバクラもあるでしょう。でも、赤ちょうちんの主人と高級キャバクラ嬢との違いは何かというと、別に人間力の差ではなく、お店の雰囲気の違いとか衣装の違いといった外見の差であると思うのです。

つまり、多くの人は、中身より外見に対してお金を払うわけです。

私は、貧乏人のせがれですから、赤ちょうちんの方が安らぎますし、もし自分がそういったお店を持つとしたら、赤ちょうちんのようなお店の方でしょう。高級キャバクラのチャンネルを持っていないのです。これでは金持ちにはなれませんよね。

金持ちになる方法とは、高度なスキルを身に着けることではありません。図々しい人間になることです。お金持ちだけを相手にし、貧乏人を見下し欲深い人間になることです。このことを知らずに、成功者になるセミナーを受けても意味が無いと思います。あなたのピュアな心では、きっと泣きを見ますよ。

成長できなくたっていいじゃないですか。大金持ちにならなくたっていいじゃないですか。

幸せになる方法とは、何でも許してくれる優しい心、何でも受容してくれる寛大な心を持つことです。そして、あらゆる人と協調できる広い知識を持つことです。そういう人の所には必ず人が集まってきます。人気者にもなれることでしょう。

ある人は、自分は顔がブサイクだから結婚できないと言います。では、その人と同じ顔の人が3人いたとして、3人とも結婚できないと言い切れますか？　もしかすると、同じ顔の持ち主でも、人気者になっているかもしれません。

私の友人にプレイボーイがいて、500人もの恋人がいると豪語していました。彼は一生独身を買って生きると言い、昼間は宅配の仕事、夜はベースギターで激しいチョッパーを披露するカッコいいロック・ミュージシャンに変身するのです。私は、彼への嫉妬の気持ちが強く、すぐに彼を認めることはできませんでした。

そんな彼と、何度か食事を共にして分かったことは、彼は美しい女性だけと関係を持っているわけではなく、彼を慕う女性は全て受け入れているということでした。その中には、容姿が悪く相手をしてくれる男性がいない孤独な女性も含まれていました。彼は性行為においても超テクニシャンらしく、その虜となったファンの女性同士でも仲が良いことが分かりました。ライブでは、ファンの女性たちの黄色い叫び声が飛び交います。女性の方から一方的に裏切られることがあっても、彼が女性を裏切ることは無かったようです。

彼の優しい心、寛大な心、そして広い知識には脱帽でした。多くの孤独な女性たちを幸せにしている彼を私は批判することができませんでした。彼は少なくとも、巨富を築こうとする図々しい人間よりは立派な人間と言えるのだと思います。10年以上も前に彼と関係を持っていたという独身女性と偶然に話ができる機会があって、彼のことを思い出しながら語ってくれた彼女の表情がとても幸せそうだったことが、すべてを物語っていると思いました。彼の恋人たちは、彼との思い出を一生の宝物として生きていくことでしょう。

それでも、宗教家たちは、彼を罪人とか悪人とか呼ぶのでしょうか。もちろんプレイボーイにも悪人も多くいるのだと思います。ただ、プレイボーイだから悪人と決めつけるのは違うよう

に思うのです。

幸せにはいろいろな形があるのだと思います。もっと多様性で受け止めていいのではないのでしょうか。

私の場合は、『天使論』で、どん底に苦しむ人に幸せを与えたい。これは、私なりの幸せへのアプローチ方法なのです。

2021年4月18日 Facebook 投稿記事より

第18章 ノープランに生きる

ノープランに生きること。自分が考えたプランに従って作り上げていく人生は、どうしても夢に基づくものになりがちです。

夢とは、怖れが作り上げている幻影です。

ですから、一切プランを持たずに、ただ良い習慣に生きることだけでいいのです。

暴飲暴食は肥満の原因になりますから、気まぐれの食事ではなく、正しい食事の習慣を身に着けるべきです。食後の歯磨きも念入りに行うべきです。生活の中に運動を取り入れる習慣も健康、特に体力維持のために欠かせません。英語の学習も、毎日やらなくては身に付かないものです。私は声楽をやっていますが、一日でも練習を欠いてしまうと良い声の状態を保てません。女性の美容についてもそうなのかもしれません。

こういった習慣と、今日やるべき仕事を誠実に取り組むこと。出会うすべての人に優しい心で接すること。そして、悪い者が入り込まないように心の隙を作らないようにすること。寝る前にエンジェル・ガイダンスに取り組み、しっかりと良い睡眠を取ること。そういった良い習慣にひたすら生きるのみなのです。

人は、いつかは死ぬ存在です。誰もが高齢になるまで生きられるわけではありません。ある日突然、事故で死ぬかもしれませんし、災害に巻き込まれて死ぬかもしれませんし、あるいは病気で死ぬかもしれません。ですから、死ぬ前に死ぬことをお勧めしたいと思います。

それは、生きていながら意識的に死ぬことです。「もう僕はこの世で生きること何の意義も感じられない」そのように思ったなら、この世に死ぬことを決意するのです。自分に生きることをやめ、神のミッションに生きるのです。神のミッションに生きるというのは、永遠の命、つまりは「本当の自分」を一から創造していくための唯一の方法といえるのかもしれませんが。ですから、自殺をしてしまってもったいないのです。

エンジェル・ガイダンスだけでは足りません。一日のすべてを神に捧げるためにも、ノーブランに生きることです。常に聖なるインスピレーションに耳を傾けて生きるためです。これは、自分に死んだ者にしかできません。

とある行事に参加するため東京に行った際、電車の中で偶然隣り合った男性とつい話が弾み、その男性から『奇跡のコース』（現在市販されている本の題名は『奇跡講座』/ACM: A Course in Miracles)を読むことを勧められました。彼はシェア・ジャパンの信者らしく、旅先のロンドン、インド、さらには東京でも、マイトレーヤの幻を目撃したのだと話していました。マイトレーヤについては彼の思い込みの産物ではないかと疑ってしまいましたが、見せてもらった分厚い本である『奇跡のコース』についてはとても気になってなりませんでした。そこで、アマゾンで中古本を購入したわけです。あれから6年の時が流れました。その本は、長いこと私の本棚の肥やしとなっておりました。解説の部分と、始めの方だけは読んだのですが、あまりに分厚い本だったので読むのを断念してしまったのです。

それが、この『天使論』を一旦書き終えた後に無性に読みたくなって、後半部分を一気に読み上げたわけです。すると、私の「天使論」と見事に一致していることに驚かされました。「天使論」そのものといっても過言ではなかったのです。

一気に読み上げたというより、狂ったように読み上げたというのが正しい表現に近いのかもしれませんが。ある意味、「死ぬ気で読んだ」とも言えるのかもしれませんが。でないと、あれ程の分厚い本と対峙できないことでしょう。それは、ある意味、新しい発見でもありました。

普通の読書だと、知識が得られるだけに過ぎませんが、死ぬ気で読むと、新しい世界が開けてきて、知識を超えた世界に触れ合うことができるのです。『奇跡のコース』は、そのような本でした。それゆえ、読んでいるうちに魂からの感動があまりに強くなっていき涙が止まらなくなっていきました。それまで、こういう読書法を私は知りませんでした。できることなら、この感動（法悦）のまま死にたいとさえ思いました。ですから、年配者ほど信仰的な読書を毎日の習慣にするべきです。

『奇跡のコース』の作者は、無神論者であったアメリカのエリート臨床心理学者のヘレン・シャックマン（女性）です。作者といっても彼女の言葉で書かれたものではなく、彼女が受けたインスピレーションを7年かけて書き留めた記録なのです。

私の場合、『ナグ・ハマディ写本』を研究する中で与えられたインスピレーションで書いたものが、この『天使論』なわけですが、ヘレン・シャックマンが受けたとされるインスピレーションと全く同じなわけですから、つまり、出処が同じではないかと考えられるわけです。

つまり、実相世界からのインスピレーションであるなら、誰もが同じ導きを得られるのではないかと考えられるわけです。そうなるなら真理と言えものなのかもしれません。

あの時東京に行ったのは、確か、約2年半に渡ってやっていた新聞配達を辞めた翌月でした。私が配達していた新聞は全国紙ゆえ、地方紙に比べ配達エリアがやたら広範囲で、バイクではなく軽自動車でした。愛車で配達していたのですが、私の愛車は四駆ではなく中古の前輪駆動車だったこともあり、北国ゆえ雪が深いと前に進みません。そうなるなら車から降りて必死に走って配達することになるわけです。スポーツのマラソンでは、42.195キロを選手なら2時間台で走るわけですが、新聞配達では足場の悪い雪道を6時間以上も走らなくてはなりません。そのせいで、膝を痛めてしまい、現在では一生治らない障害となっています。

雨の日も、嵐の日も、そして吹雪の日も休むことなく配達したのですが、月にもらえる給料はわずか5万円程度で、その当時やっていた書道塾の収入にわずかに上乗せした程度のものでした。働いた収入のかなりの部分が会社にピンハネされており、ガソリン代も一部しか負担してくれませんでした。毎月のように、車のヘッドライトの球が切れるので交換費用も掛かりました。雪道でタイヤのチェーンが突然外れて横滑りし、電柱や壁にぶつかることも少なくありませんでした。修理代を捻出できず、あちこち壊れたままの悲惨な状態の愛車に乗っていたこととなります。

そこで味わったのは、惨めさ以外の何ものでもありませんでした。去年は、介護の仕事を通して似たような惨めさを味わいました。さらに前には、コンクリート製品を製造する肉体労働を5年以上やっていたわけですが、生傷と火傷が絶えず、粉塵まみれ、油まみれという汚い作業着姿ゆえ、近所の住人たちからは冷たい視線を浴びていました。どうして、このような惨めさを味わう仕事が存在するのだろうかと思いました。

私は、仕事を終わると、家路に向かう道すがら、駐車スペースを見つけては車を停めて目をつぶり、独り心に飛び込んでくるインスピレーションと対話するのが日課となっていました。それ以外に、私の心の傷を癒してくれるものが何も無かったからです。

「天使論」は、こういった惨めさを通して作られていったことになります。つまり、「生きているのが嫌になるほどの現実」こそが、天使になるための大切なプロセスでもあったわけです。しかも、幼少のころから、暴力沙汰の絶えない父のために近所の住人達から疎まれていました。私の人生とは、惨めさを味わい尽くすことにあったのかもしれない。

ただ、私だからこそできたことであって、皆さんには同じような惨めさを味わって欲しくありません。「天使論」を学ぶのなら、天の守護の力が強まり穏やかに人生を送れるものと信じております。

『奇跡のコース』を強引に要約すると、一切の怖れを捨て、自分自身を含め一切のネガティブな思いを許しに変え、神の思いと一致した自分を創造することにあります。それは、怖れが根底にある夢を許しの夢に変え、現実世界とは異なる実相世界において新しい自分を創造していくことにあります。自分のプランで生きることをやめ、聖なるインスピレーションを頼りに生きることにあります。ある意味、自分殺しをすることで、自分と神が一致した者となるよう高めていくことを教えているのだと感じられました。

『奇跡のコース』が「天使論」と異なる点は、『奇跡のコース』ではシュジュギアについて語られていないことです。シュジュギアが信じられないという人には、『奇跡のコース』の方が合っているのかもしれない。シュジュギア無しでも神と一致した魂を目指したい人には持っていける書物と言えるわけです。『奇跡のコース』がちょっと厳しすぎると感じられる人には、シュジュギア（守護の天使）が強力な味方になってくれる「天使論」をお勧めしたいと思います。

「ルルドのベルナデッタのように、ファチマの3人の牧童のように、ガラバンダルスの4人の少女たちのように、ご出現の聖母様にお会いしたい。もし、お会いできたなら、迷うことなく私の一生をあなたに捧げます」

このように聖母マリアに祈っていたのは、20代前半の頃でした。

当時の私は、毎朝、ロザリオを祈り、雨の日も風の日も休まずに朝ミサに出席していました。片道30分以上も掛けて歩いて通っていたことになります。2年半もその生活を続けました。それでも、出現の聖母様にお会いすることはできませんでした。

もし奇跡があったとするなら、当時通っていたクラシック系の音楽学校で、ぶっちぎってピリの成績だった声楽で、一番の成績を取れるようになったことかもしれません。その頃は、同級生たちから、そして先生方からも「佐藤君は声楽の才能無いからやめた方がいい」と忠告されていました。ところが、朝ミサに通うようになってからは、すべて偶然として、良い出会

いに次々に恵まれて歌うコツを掴んでいきました。そして主席で卒業でき、入学式の式場で新入生たちの前で歌う栄誉も得られました。オペラ研究科に進んでからは、イタリア・オペラ界のレジェンドでもあったテノール歌手の故 カルロ・ベルゴンツィ氏の公開レッスンを学校代表で受講できました。

しかし、そういったことは私の願いとは異なったものでした。それからの私の人生といえば、入信しては失望に至った宗教は数知れず、迷いの人生を深めていったのでした。

結局、聖母マリア様は、別の形で私に答えてくれたのだと思います。『ナグ・ハマディ写本』や『奇跡のコース』に出会うことで、真理のインスピレーションを強めることができたからです。迷いがなくなったのは、59歳になってからのことです。とはいえ、人間の短い人生の中で、迷いから脱するというほど大きな神の祝福はないと感じています。

私は現在、ボーカル・ヒーリングを研究しています。聴く人の心を癒す歌声の波動を追求しています。そのレパートリーはすべて〈アヴェ・マリア〉です。老人施設の慰問コンサートでの演目でもあります。

第19章 アヴェ・マリア

昨夜、客相手の仕事中に電話が掛かってきた。電話主は、日本語がたどたどしい女性からだった。彼女の息子が教会で結婚するので歌を歌って欲しいとのことだった。どうやらお母さんがフィリピン人で、お父さんが日本人のようである。そして、おかあさんからの電話だった。

コロナ禍以前、私は教会のミサでの答唱詩篇の独唱、イースターやクリスマスの祝賀会での独唱、結婚ミサや葬儀ミサでの独唱を担当していたので、声が掛かったのだと思う。結婚式の日は5月3日(月)。司式は、渡辺神父。この神父は凄い人で、2年前、私の母が狭窄性腎盂腎炎であと3日の命と宣告された。腎臓内に膿が溜まり深刻な状態となり、他の臓器の機能も低下してしまい手の施しようのない状態になっていた。私は渡辺神父を呼んで意識を失った母に「病者の塗油」の儀式を行ってもらった。その夜、何と腎臓内のすべての膿が排出されて、命を取り留めたばかりか、回復して退院することができたのである。あの時の奇跡の神父なのである。

昨年は、老人施設のデイサービスに勤務していたので、ほぼ毎日歌っていた。利用者からは

とても喜ばれていた。いろいろあって辞めてしまっただけからは、歌う機会を全く失ってしまった。教会でも、コロナ禍ゆえ、歌うことが禁止され、オルガン伴奏のみとなっていた。それゆえ、久々の歌の本番である。

歌う曲は、シューベルトのアヴェ・マリアをラテン語版に決まった。すぐ伴奏者に電話を掛けて、教会のお御堂に設置されているパイプ・オルガンの伴奏を承諾してもらった。

私は何よりも歌が好きで、いつも歌いたくてしょうがない人間である。特に本番で歌うことが大好きなのである。多分、歌の本番の時は最も心が清らかな状態で神と繋がっている感覚が得られるからなのだと思う。それゆえ、歌っている本人が最高の幸せを得られていることになる。

私が教会に留まっている理由はそこにあるのだと思う。最近、「この世は虚構だ」とか、初代教会の教えである「プレローマ」とか「シュジュギア」とか言っている実に不謹慎なクリスチャンではあるが、歌っている時には、誰よりもクリスチャンであるのだと思う。

2021年4月3日 Facebook 投稿記事より

第20章 イザベラ・デステ

この世は虚構と言っているながら、どうして芸術活動しているの？ 芸術も虚構では無いの？ そう言われてしまうと痛いところなのですが、私の人生の師匠、ルネサンスの激動の時代を見事に生き抜いたマントヴァ侯夫人イザベラ・デステが最も大事にしていた言葉は「夢もなく、怖れもなく」でした。

この世を夢、つまりは虚構と考えると、何の怖れも無くなるという意味です。では彼女は、修行僧のような無一物の人生を歩んだかということ、全くその逆でした。宗教、歴史、哲学、政治、文学、美術、音楽、天文学と、あらゆる分野に通じる万能人でした。あの天才レオナルド・ダ・ヴィンチとも交友がありました。ファッションリーダーとしても注目された程です。イタリアの戦国時代の中に合って、女領主であった彼女は、見事な交渉術で戦争を回避させて民を守ったのでした。

その教養の広さが、あらゆる人とも話題を合わせられ、良い関係に持って行ってしまうので

した。また、彼女の聡明さが多くの人に感動と尊敬心を与えたのでした。常に努力し続ける彼女には、不平不満や妬み僻みというネガティブな感情はありませんでした。そんな彼女が、身につけた教養やスキルのすべてを虚構と言い放つわけです。

愛の対極は怖れです。人は夢（虚構）に心を支配されているゆえに怖れる者となる。そんなもの一切無いものと思えば、何も怖れるものなど無くなる。この世の一切が虚構なら、虚構ではない永遠なるものを新たに作り上げていけばいい。しかし、それはこの世の価値観とは一切一致しない全くの別物である。優秀な彼女は、独り瞑想の世界に「虚構の自分」ではなく、「本当の自分」を見出そうとしていたのだと思います。本当に頭のいい人だと思いませんか？私もイザベラのように不動の精神を持った者になりたいのです。そう思いながら、メンタルが弱いのが情けない限りです。

2021年3月12日 Facebook 投稿記事より

第21章 恋心

妻は、SNSのTwitter上で、イケメンのシンガーソングライターと楽しく交流するようになった。我が家の食卓では、毎日、その話で持ち切りである。私はそのことを良いことだと受け止めている。料理をほとんどしなかった彼女が写真投稿をするために手の込んだ料理を作るようになった。化粧を念入りにするようになった。そればかりか自分磨きをするようになったことなど、その効果はとても大きいと感じられた。

人間、恋する気持ちを失うと老けるしかないのだ。最高の美容方法とは恋をすることなのかもしれない。

既婚者が恋をするというのは、不倫を犯すことに繋がると思われがちだが、そればかりでは無いと思う。深い関係にはならなくても、恋を人生の張り合いにすることだって可能なのだ。恋心に向けられる好きな人に良く思われたいという気持ちは人間、一生キープしておきたいものである。

私の心の師匠であるイザベラ・デステ(ルネサンス期のイタリアで活躍したマントヴァ侯妃)は、一度しか面識のないイケメンの紳士(ロバート・ドゥ・ラ・ポール)から一生涯ラブレターを受け取った。苦しい時に、その手紙に何度も励まされ、ある時はその手紙によって命の危険から逃れたこともあった。それでも彼女は一度も返事を返さなかった。彼は敵国の男性ゆえ、

返事が返せなかったのだ。

イケメンの紳士の方は、彼女から返事が来なくとも、いつもどこかで憧れの彼女に見ていると自分磨きをし、素晴らしい人生を送ったのである。
手紙が二人の恋心をキープさせ、若さを保ち、お互いに枯れることのない美しい人間としての人生を歩ませたのである。

2021年4月9日 Facebook 投稿記事より

第22章 時を捉える

仕事が全くうまくいっていない。でも、焦っていない。そう言うと、「いい気なもんだね」と言われそうである。

言いたい者には言わせておけ。

人はうまくいくときもあれば、うまくいかない時もある。

成功者と名乗る方々は、うまくいく方法を高い受講料払うと教えてくれると言ってくる。

大金を稼げる者が成功者で、わずかしか稼げない者には価値が無いという決めつけがそこにある。

でも、今この時には、きっと意味がある。今この時だからこそ、考えられること、深められることもある筈だ。

人間であるゆえ、言葉と時間とを持っている。

多分、鉱物も気体も時間を感じてはいない。もちろん言葉も持ってはいない。

宇宙には法則が存在している、言葉も時間も存在しないのである。

人間であるが故に、時を捉えることができる。時に学ぶことができる。言葉の意味を深める

ことができる。

食っていくことができないところまで追い込まれたなら、ゴミ拾いでもなんでもして稼げばいい。路上生活でも悪くない。

「それって最低」って言われるかもしれないが、そこにも素晴らしき学びがある筈。

路上生活者から大会社を創った人の例だってある。路上に素晴らしきヒントが転がっているのかもしれないのだ。

だから焦らない。ひたすら時を捉え、学んでいきたいのである。

2021年4月10日 Facebook 投稿記事より

第23章 水曜の夜は、ジョスカン・デ・プレはいかがでしょ

まさに天使が舞う天界の音楽です。私が尊敬する15世紀に活躍したマントヴァ侯妃イザベラ・デステ。その父、エルコレ1世がフランス人作曲家ジョスカン・デ・プレに作曲を依頼したとされるミサ曲「フェルラーラ公エルコレ」中の第9曲目です。

もしかすれば、あのレオナルド・ダ・ビンチ（この大天才もやはりゲイなのです）も聴いていた可能性があるわけです。超古い曲なのですが、現代人でも聴き入ってしまう神秘的世界が表現されています。

「水曜日のネコ」というスイートエール（ビール）知っていますか？ 普段ビールを飲まない方や女性にもおすすめライトな感覚のお酒です。ほろ酔い気分で、天使たちと戯れたまま寝てしまいましょう。

2021年3月10日 Facebook 投稿記事より

第24章 日曜日は、ブライアン・グリーンでしょ

これまで、「日曜日は、山下達郎でしょ」でやって来ましたが、今日からは趣向を変えて、「日曜日は、ブライアン・グリーンでしょ」でやっていこうと思います。もちろん、シティ・ポップの帝王・山下達郎氏によるサンデーソングブック（FM東京 日曜14時～）は、今日も聴きますよ。私にとって、日曜日の大切なコーヒータイムのひとつですから。

ブライアン・グリーン博士は、アメリカの理論物理学者（現コロンビア大学物理学・数学教授）です。難解な最先端の理論物理学の世界を一般の人にも分かりやすく解説した番組を制作していることでも広く知られています。この動画を見ると、きっとあなたの世界観が変わることでしょう。

私が聖典を神の言葉として「絶対視」し、固定した概念となっている既存宗教に満足できず、限りなく進化し続けられる「仮説」としての宗教観に視点を大きく変えられたのは、この動画《エレガントな宇宙（3回シリーズ・超ひも理論）第1回アインシュタインの見果てぬ夢》がきっかけとなりました。48分といつも紹介している動画より長めなので、日曜日に紹介しようと思ったわけです。

宗教は、人間の言葉を用いて真理を証明しようとします。理論物理学では、数式でもって真理を証明しようとします。目に見えるもの、そして目に見えないものの全てが数字という記号を用いて証明できるわけです。また、数字そのものをとっても個性があって奥が深いものもあります（映画「博士の愛した数式」/ 寺尾聡主演）。

宇宙の法則に触れると、民族性や地域性にのしがらみのある宗教観など吹き飛んでしまい、宇宙規模の大きなスケールで真理について考えられるようになるんですね。ぜひ、短編映画を一本見る感覚で理論物理学の世界をお楽しみください。

2021年4月11日 Facebook 投稿記事より

第25章 ジャズ的思考

今日は、午後2時から、盛岡・本町通にある「喫茶ママ」にて、小泉とし夫（94）口語短歌

/照井顕 (74) 書・色紙展 小泉とし夫・朗読ライブ 八木淳一郎 (g)に行ってきました。狭いスペースながら、超満員といった感じでした。

やはりコロナ関連の詩が多く、带状疱疹になった様子についての痛々しい詩もありました。またご年齢からなのでしょう、デイサービス絡みの詩も多くみられました。一番感動したのは、小泉氏の書いた「開運橋の四季」の詩に、ジャズ喫茶・開運橋のジョニーのマスター照井顕氏が、ギターの弾き語りで歌った場面でした。

そこで終わりなら良かったのですが、何と照井氏から、私に「一曲歌ってくれ」といきなり振られ、スマートフォンに入力してあるピアノ伴奏でシューベルトのアヴェ・マリア（ラテン語版）を歌いました。

前に書いた「時を捉える」の記事でもそうだったのだけれど、「仕事がうまくいっていない」とつぶやいたら、メッセージが降って来て、手が勝手に動いて記事を書いたわけです。今回の歌も同じように、歌い始めるとインスピレーション(?)が降ってきて、見えない指揮者に従って歌ったこととなります。つまり、私にとって新解釈の演奏をしたこととなります。それが、同じことを2度とできないような良い演奏となり、会場を一番盛り上げてしまったわけです。

私はジャズを聴くことが好きで、ジャズは会場の空気と、共演者との呼吸の妙によって、自由な演奏が可能な音楽です。同じ演奏は2度としないわけです。ジャズにはマンネリが全く無く、いつも新鮮です。私はピンで歌うことが多いので、ジャズのフィーリングを演奏に取り入れているわけです。

これは天から授かった才能とは受け止めず（少しはあるのかな?）、「脳の使い方」にあると分析しています。つまり、頭の中に、いろいろなフレーズ・パターンをインプットしておくことで、それを組み合わせる形で多様なアドリブに対応できるようにしているわけです。特にジャズをやっている人は、いろいろなアーティストの演奏形式を学習し練習に取り入れているのだそうです。

ということは、私の投稿記事は、ジャズ的と言えるのかもしれませんがね。私はカウンセラーなのですが、神聖な話ばかりだと敷居が高く思われているのかもしれませんがね。中には性の悩みをお受けすることもあります。露骨な表現で話してくる人には、そのテンションで応じます。その話を第三者に聞かれたら、いかがわしいお仕事をしている人と思われるかもしれません。

カウンセリングでは、興奮状態や危険な心理状態にある人を落ち着かせることを最も重視します。そのままに受容し、鏡になってあげて、受け入れられたことによる安心感が得られるよ

うに持っていくわけです。その際、私の脳内では、いろいろなフレーズ・パターンが巡っていて、フル稼働しているわけです。

2021年4月10日 Facebook 投稿記事より

第26章 ドライブ森林浴

中学時代にクラスメートだった主治医にFBについて話したところ、「身体を休めるだけでなく、頭も休めるようにしましょうね」と釘を刺されたわけです。

頭を休めるために良いことと言えば何だろう？ そう考えていたタイミングで、釣りを趣味としているFBの友人からMessengerのチャットが届き、「そうだ、釣りにでも行ってみようか」ということになったのです。ただ、釣りはビギナーなので、急がず実現することにして、釣りに近いことは何かと考えていたら、「ドライブ森林浴」を思いついたわけです。そこで愛車でドライブ森林浴を兼ねて小岩井農場に行ってきました。

小岩井農場の桜並木はまだつぼみでしたが、今日は天気が良くてドライブ日和でした。車のウィンドーを全開にして、オープンカー感覚で自然の息吹が感じられるようにドライブを楽しみました。本当に気持ちのいいものです。

帰りに、超遅い昼食をモスバーガー（ルート46滝沢店）でいただきました。介護中の母には、焼きそばを作って出したのですが、自分は食べていませんでした。手帳を整理することもできませんでした。

PLATINUMの超極細の万年筆は私のお気に入り、かれこれ10年程使っています。インクはコンバーターで吸い取るタイプで、PILOTの紫式部を使っています。感動的な色なのですが、公式文書には使えません。自分だけの楽しみです。

お店の窓から、綺麗に咲いている桜の木を見ることができました。

2021年4月12日 Facebook 投稿記事より

第 27 章 バッハ アリア

昨日、ドライブ森林浴で聴いた音楽は、ヨーヨー・マのチェロの CD でした。彼のチェロは、まるでよそ風を感じさせてくれるような自然な解放感へと聴く者を誘います。今日紹介する YouTube 動画は、アメリカ合衆国の黒人男性ジャズ歌手、ボビー・マクファーリンとのコラボによるものです。ヨーヨー・マのそよ風を感じさせるナチュラルなチェロ演奏にぴったり寄り添うように歌われていて、それはもう感動しかありません。

私は声楽をやっていますが、私の歌の師匠でテノールの名歌手、故・奥田良三先生から「バイオリンの音色のように歌いなさい」と指導されました。私の声域はバリトンなので、「チェロのように」を目指しています。そういうこともありチェロの CD コレクションを多く持っているのですが、ヨーヨー・マの演奏は別格なのです。他の演奏者は、楽器を良く鳴らしチェロならではの重厚感があるのですが、彼の演奏には優しさと脱力感、そして開放感が感じられます。

2021 年 4 月 13 日 Facebook 投稿記事より

第 28 章 日本人の美德と未来への展望

3 月 27 日の壁紙メッセージで、「日本人に生まれた意味を考えたことがありますか？」と書きました。私が書いた記事の中で、皆さんから最も「いいね」の寄せられたものでした。「日本人に生まれてよかった」というのが圧倒的意見でもありました。そして、一昨日の記事では、「イエス」は幸せの言葉であることについてお話ししました。今日は、そのことについて、さらに掘り下げてみたいと思います。

欧米人は、この「イエス」で応じることが苦手なのです。彼らは日本人のようにお世辞が言えません。嫌と感じることはすぐ顔に出て、すぐに「ノー」と言うのです。特に『ヨーロッパの宗教が残酷な迫害の歴史を歩んできたのは、そういった性質にも関係している』とも考えられるわけです。物事を曖昧にできないのです。

多くの日本人は、神社に初もうでに行き、お寺で法事を行い、お彼岸やお盆にはお墓参り、

家族でキリスト教のクリスマスを祝い、バレンタインやハロウィンも楽しめます。欧米人からは、何といい加減なんだと思われがちなのですが、これぞ日本人の美德なのです。『対立による、国民同士の憎しみが少ない』こともあり国内の治安が良く、自動販売機が破壊されることもありません。宗教観がいい加減なようでも、礼儀正しい人の多い国なのです。サッカーのワールドカップで、日本人客が掃除をして帰ったことが世界に伝えられ称えられたりもしました。

以前、アメリカの大統領が、アメリカは「世界の警察」だと発言しました。その後、訂正はされたようではありますが、私が思うには、日本は「世界のカウンセラー」もしくは「世界のヒーラー」になるべきなのだと思います。特にヨーロッパには素晴らしい世界遺産が数多くあります。荘厳な教会建築、統一感のある美しい街並み、さらには一般人の入り込めないような超豪華なリゾート地。それらは日本には存在しない特別な風景なのだと思います。

しかし、そんな豊かな国々から、日本に観光に訪れる人が多いのです。そして外国人たちから、日本は素晴らしい国だと絶賛されているのです。彼らが何に魅了されているかということ、日本人の優しさです。「お・も・て・な・し」なのです。おもてなしに宗教的差別は存在しないのです。国や人種や宗教の違いがあっても、優しく受け入れてくれるのです。今はコロナ禍によって停滞こそしていますが、将来的に日本が生き残る道、それは観光なのだと思うのです。

日本人は手先が器用であり、職人技においては世界一なのかもしれません。観光がリードすることによって、日本の職人技による製品が世界から愛されることは素晴らしいことです。世界有数の天文台の望遠鏡のレンズを精度高く磨き上げられるのは日本の職人の技術なのですから。

日本が世界中の人が訪れたい国になるためには、国民がカウンセリング・スピリットを持つことが重要となるでしょう。天然の優しさに加えて、学問としてカウンセリングを身に着けるべきなのだと思います。と書いてはみたものの、私には具体的なプランも社会的地位もありません。将来、何らかの形で、カウンセリングの知識を日本人の価値を底上げしていくために役立てていきたいと考えています。

2021年3月31日 Facebook 投稿記事より

記事に日本人の美德は曖昧と書いたけど、愛情の伴う曖昧と、陰湿な曖昧は別だと思う。日本の政治には陰湿な曖昧がはびこっていると思う。だから職人気質な日本人の生真面目さを美德と考え直したいと思う。

2021年3月31日 Facebook 投稿記事より

第29章 ここまでのまとめ

私は、仏教の視点に立って、平和的に論じ合うことができる。

私は、神道の視点に立って、平和的に論じ合うことができる。

私は、キリスト教の視点に立って、平和的に論じ合うことができる。

私は、無神論の視点に立って、平和的に論じ合うことができる。

Facebookをやった甲斐があったと言えるのは、この点においてのチェックができたことである。若干、失敗もあったけど、取り戻せたようにも思う。

仏教徒と仏教についての話をして、とても楽しいと思えた。

神道の信仰者と神道についての話をして、とても楽しいと思えた。

キリスト教徒とキリスト教についての話をして、とても楽しいと思えた。

無神論者と無神論についての話をして、とても楽しいと思えた

なぜ対立せずに、平和的に楽しく語り合えたのかということ、それぞれの宗教の教えを現場にまで入って行って学んでいたことが活かされたこと。さらにはそれぞれの宗教の究極の目的を

理解していたこともある。全ての宗教と共通する崇高な概念、つまり高いレベルにおいてはぶつかり合うものなど存在しないのである。無神論も、崇高な概念ではほぼ一致する。

しかし、私のホームポジションというか、追求している価値観は、あくまで「天使論」である。

これは、物理学者が統一理論を導き出そうと立てた「仮説」のようなものである。

その「仮説」は、真実なのか。それとも間違いであるのか。とことん追求するのだ。もし間違いが立証されても、あっさり認めて、より正しい仮説に切り替えて、また追及すればよい。間違いが実証されたとしても、真理に、より一歩近づくことへの貢献をしたことになる。

何よりいけないことは、絶対視する（決めつけをする）ことである。絶対視は心をドグマに向かわせる。ドグマは対立を生み、戦争を生むのだ。

そして、絶対視は人々の思考を停止させる。思考が停止した人は、間違いに気づけなくなる。人を傷つけ殺しても悪とは思わなくなってしまうのだ。

本来、宗教とは絶対視するものである。しかし、絶対視しない宗教家は、真実の追求者である。どの宗教が正しいかの視点ではなく、宗教から絶対視を外して考える視点が、真理探究者の視点なのである。

欧米人は、絶対視の呪いに取り付かれたままの人が多く、他宗教に寛容であった筈のイスラム教徒は、近年、絶対視が強まってきている。私は、日本人こそが最も絶対視の呪いを外しやすい国民であると思っていた。しかし、豊かな国の視点として、「自分だけは、みじめになりたくない」という強い怖れから、お金への執着の強い人が多いという印象である。

そして大切なことに気が付けられた。これは Facebook をやっていて、「友達」からのコメントによるものである。

人類が長い歴史かけて積み上げてきた「共通意識を変えることは難しい」。しかし、「相手は変えられずとも、自分が変わっていくことだけは可能である」。

私は、この言葉に一抹の希望を得た思いがした。

その「自分を良く変えたい」に応じられるのが『天使論』の役割なのだと思う。

ただ、自分だけの理解だけでもいいような気もしてきた。人生のどん底を味わった者にしか、きっと理解できないと思うからだ。

もし理解できる人がいたなら、その人と心から尊敬し合いたいと思う。人生のどん底を味わった者同士でもあるからだ。

私が生きている意義は、世の中のためというものではなく、あくまで自分のため。世の中は変えられない。変えることに何の意義も無いのである。

世の中が戦場になろうと、大災害によって破壊され尽くされようとも、自分の心を失わなければ良いのである。

何があろうと、永遠と繋がる「本当の自分」をひたすら育てていくのみである。

そして、「本当の自分」で生きていこう。

2021年4月16日 Facebook 投稿記事より

第30章 自分だけのテリトリー

私は、これまでに、この世の幸せも、不幸も、虚構であると書いてきました。つまり、虚構とは永遠の対極としての価値観であり、命の短い、儚い存在を意味します。

しかし、この価値観を誤解してしまうと、人生が無意味なもののように思えてしまいます。

人生は決して無意味なものではありません。

無神論者は、「死ねば無である」と断言しています。「神はいる」と断言している人と、基本的には同じスタンスです。

断言（決めつけ）には良いイメージがありません。考えの違う人を見下げるネガティブな姿勢が感じられるからです。

無神論者は、死ねば無であるから、生きている時間を楽しまなければ損だと考えるわけです。この方が自由を最も生かせる生き方なのかもしれません。ただ、人生は良いことばかりでは無いため、無神論者は逆境に対してのもろさがあるのかもしれません。

有神論者は、神がいると考えることから宗教の厳しい掟に従うことを受け容れ、人生が楽しめなくなっているのかもしれません。無神論者から見ると、実に損な生き方です。しかし、人生の逆境においては神を信じる人には強さがあり奇跡的体験を通して神への証を深めていくわけです。

私の本心としては、どちらの生き方も好きではありません。

虚構であるというのは、この世の在り方を示しているのです。永遠の世界に行くには、全く新しい存在にならなければならないという意味です。

それは瞑想では癒しの世界（心地よい世界）を楽しむことであり、現実では神の愛に生きることです。

永遠に触れることで、この世は虚構と考えられ、そして死んだらきっぱり捨てられるという「覚悟」が生まれます。

この「覚悟」さえあれば、この世では自由に生きられると考えるわけです。何事にも縛られることはないのです。単に宗教に依存するのではなく、宗教の学びを自らの創造世界へと変えていってしまうのです。

だから、

無神論者同様に、生きている時間を存分に楽しんでいいのです。もちろん、苦しみも必死に乗り越えて、人間としての魅力を上げて行けば、さらに質の高い喜びを得ることができるでしょう。

これは、自分ファーストになるということです。

私は、子供の頃、親に気遣って欲しいものを買って欲しいと言えない性質がありました。周りに気遣って、自分のやりたいことは引っ込めてしまう性質がありました。

「どうして、みんなが人生を楽しんでいるのに、自分だけは楽しめないのだろう」という自

分への絶望感に悩み、そしてもがき苦しみ、ある時は爆発してしまったこともあります。そんな自分を乗り越えるために、私は自分だけのテリトリー（Personal space）を築く術を身に着けるようになりました。

それは自分だけの楽しみの世界の構築です。子供が部屋の中に秘密基地を作るのとどこか似ています。この自分だけの世界には、誰も足を踏み入れさせない、私だけの聖域なのだと考えました。私だけの秘密のコレクションを集め、自己満足のインテリア、自己満足のファッションを楽しみ、一切、他者に気遣わない自分だけの時間を楽しむわけです。

『天使論』は、FBで公開するようになって、多くの人の評価やコメントを頂きながら進化してきましたが、2ヵ月前までは、自分のテリトリー内における秘密の作業でした。私の基本はそこにあります。私の投稿記事がウケようと、ウケまいと、自分のテリトリーに戻ったなら、もう誰にも気遣う必要なんて無いのですから。

第31章 世界の人口問題

現在世界の人口は、約78億人です（2020年1月21日現在）。100年前は、約20億人程度でした。と言うことは、ここ100年で約58億人も増えた計算になります。

どうして急激に人口が増えたのでしょうか。私の分析では、戦争が人口を増やしてきたと考えています。どうやら19世紀の初頭から、その傾向が見られています。つまり、戦争や紛争、革命や動乱などが、国際金融資本家たちの巨富を得るためのビジネスと化してきたことが大きな原因なようです。

私の父の世代は、兄弟が6人とか8人というのがざらでした。それは、戦時中であったからです。男子は、戦争に取られて戦死してしまうリスクが高く、しかも社会が不安定ゆえ、老後の自分を守ってくれる頼れる存在は、自分の子供でしかありませんでした。そうになると、子供を多く生まないと安心できなかったわけです。一人や二人では不安だったのです。

現在、日本においては平和な社会となり、少子化に転じてしまいましたが、少子高齢化が社会問題となっております。ところが、世界の紛争地においては、かつての日本がそうだったように、子沢山の傾向となっております。つまり、戦争が世界の人口を爆発させているのですが、

その陰で、戦争をプロデュースして世界の富を独り占めしている、ほんの少数の国際金融エリートたちがいるわけです。

現在、世界規模で深刻化していることは、地球の温暖化です。これは、人口が爆発していることに起因していると考えられます。

そして、地球の温暖化が深刻化するに伴い、地震や津波、大雨などの災害の規模が大きくなってきているように思います。とある学者の説だと、地球の温暖化が地球の地磁気の逆転（ポールシフト）と氷河期の到来をかわらせて遅らせているのだそうです。とはいえ、もし氷河期がやってきたなら、世界は深刻な食糧不足に陥り、78億人を超える人口の多くは餓死しなくてはなくなるでしょう。食料の奪い合いから争いが絶えなくなるかもしれません。人口が10億人程度なら、地下に施設を作って寒さをしのぎ、人工の太陽光を利用して農業や牧畜も可能となるでしょう。

さて、優生思想（命に優劣をつけ選別する考え方）を持つ一部の優越者たちは、地球上には優れた性質の人間が、やはり10億人いれば良いと考えていて、残り68億人を余剰人口と考えているようです。そして、いかに人口を削減するかと、いろいろ考えているわけですが、戦争は人口削減の決め手にはなり得ません。現在、世界を悩ましているコロナ・ウイルスによる世界的なパンデミックは、世界規模の人口削減への研究と関わってはいないか心配ではあります。

私は、「天使論」こそが、世界の人口を安定させる最も効果的な方法であると考えています。天使と結婚するというこの信仰は、結婚の絶対視が改善されるため、結婚を選択しない人も増えると考えられることと、既婚者においても、子沢山の傾向を改善できると考えています。

「天使論」を学んだ既婚者は、本当のパートナーは天使となるため、家族中心のものの見方から解放され、家族はもちろん、すべての隣人に愛を向けられるようになるでしょう。天使の指示で行動するわけなので、以前よりも家族を大切に、家族を大切にすると同じように隣人を大切にできるわけです。自己愛から他者愛に変換されていくことで、不安に基づく家族計画から脱却し、社会に貢献する家族計画へと変わっていくことでしょう。

トランスジェンダーの方には、本質の性に生きることができるようになります。宗教や法律、世間体にかかわって理解を示せない方々と戦う苦しみをエンジェル・ガイダンスの天使からのお墨付きを得ることで乗り越えていけるのです。

イスラム教では、4人まで妻を持つことが許されています。それは、宗教を立ち上げた当時、戦争、紛争、迫害が多く、未亡人が増えたことに起因しているようです。アメリカのキリスト教系新興宗教のモルモン教も同じ理由で一夫多妻だった時期がありました。ユダヤ教も当初は

一夫多妻であり、「産めよ、増えよ、地に満ちよ」と子沢山を奨励していたのです。

ユダヤ教の起源は諸説ありますが、一神教の開祖で、エジプトのファラオのアメンホテプ 4 世の宗教改革（アマルナ改革）が失敗し、彼の死後、彼の支持者たちは大変な迫害を受けたようです。彼はあまりに崇高な政治を目指したため、戦争による外貨が入らなくなり、エジプト国民が貧しくなってしまったことが失敗の原因と考えられています。その証拠は、アメンホテプ 4 世の棺の状態から見て取れます。傷だらけになっているばかりか、棺に水が入ってしまったため、ミイラになれずに白骨化してしまいました。

そうするとアメンホテプ 4 世の支持者たちも激しい迫害を受けたことは間違いないと言えるでしょう。彼らは、エジプトを脱出して新天地を目指したのだと思います。しかも、私たちの知る出エジプトのルートは正しくない可能性があります。このルートは、キリスト教をローマ帝国の国教として公認したコンスタンチヌス帝の母ヘレナが夢の中で示されたものと伝えられています。

つまり、シナイ半島のカトリーナ山でモーゼの「十戒」を受け、スエズ運河を経由して、カナンの地（現パレスチナ）に至ったのではなく、アカバ湾を経由し、アラビア半島のシナイ山（マベルエルロス）でモーゼの「十戒」を受け、メッカよりさらに南方に位置するアシール地方に至ったのではないかと考えられるわけです。シナイ半島のルートには、証拠となる遺跡がほとんど見つかっていませんが、アラビア半島のルートの方は、多くの遺跡が見つかっているのです。

あまりに小さな民が、いきなり部族間の争いをしているような土地に入るとは考えられないので、より安全な未開の土地であるアシール地方で、一夫多妻による「産めよ、増えよ、地に満ちよ」で民を大きくした上で、パレスチナの地へと侵攻していったと考えられるわけです。

キリスト教が現在のように世界宗教になった一番の功労者は、コンスタンチヌス帝の母ヘレナなのかもしれません。彼女は、ギリシャ文化がとにかく大好きで、ギリシャ文化の猛烈なコレクターでもあったと伝えられています。ゆえに、ギリシャ人によって立ち上げられたキリスト教に夢中になったわけです。そして息子であるコンスタンチヌス帝は、大好きな母の願いを次々に叶えていったというわけです。

もし、ユダヤ教のままの流れのキリスト教なら、逆に滅ぼされてしまったかもしれません。事実、彼女が登場するまでは、キリスト教はローマ帝国から酷い迫害を受けていたわけですから。問題は、キリスト教がローマ帝国の国教となった後に、イエス・キリストの弟子たちの系譜である初代教会は異端とされ、完全に滅ぼされてしまったことです。なぜ、共存できなかったのでしょうか。

そこでイスラム教について少し触れてみたいと思います。

イスラム教を強引に一言で言い表すなら、「貧者の宗教」なのかもしれません。ラマダン(断食月)は、全ての信徒が、貧者の苦しさを、身をもって体験します。ゆえに、イスラム教では、食いつぶぐれることがほとんどありません。食べられない人がいても、誰かが食べさせてくれるからです。病院も、一般人の診療時間が終わると、貧者への無料診療となるのだそうです。4人妻とは、裕福な人は、貧しい母子家族を家族として受け入れなさい、という意味でもあります。

他宗教に寛容で、税金を払うと、イスラムの平和で助け合えるコミュニティーの一員になりました。宗教の違いによる差別もなく、そこには共生の精神が輝いていたのです。

かつて南スペインで栄えたグラナダ王国は、異宗教との共生をしながらも、何と約800年間も続いたのです。日本の江戸時代でも265年ですから、平和がそんなにも保たれたということは、人類史上、類を見ない奇跡といえるのでしょうか。

しかし、20世紀に入り、欧米の石油の利権が入り込んでくると、貧富の差が大きくなり、その平和なコミュニティーが完全に破壊されてしまいました。イスラム教徒絡みのテロ活動が特に目立つようになったのは、アメリカ同時多発テロ事件(2001年9月11日)以降ではありますが、イスラム教徒の一部の人たちに、誇り高いイスラムのコミュニティーを破壊したキリスト教への憎しみというドグマが新たに形成されたのだと考えられます。もしかすると、彼らは国際金融資本家たちの錬金術の罠にはまってしまったのかもしれない。

とはいえ、世界は、富裕者より圧倒的に貧困者の方が多いわけで、そうなると思いつぶぐれないイスラム教が、人々から選ばれるのは当然なのかもしれません。

仮に4人妻がいたとしても、それは貧困者への奉仕のためであって、死後、天国で結ばれるのは一人の異性の天使です。そのように考えられたら素敵ですね。

イスラム教の聖典である『クルアーン(コーラン)』を読んだことがある人は、『聖書』と共通する聖句の多いことに気づかれることでしょう。ただ、イエス・キリストについての内容に関しては、どうも違和感を持たれると思います。

その理由についてです。イスラム教の開祖であるムハンマド(マホメット)は、幼いころに両親を失い、最初は祖父に、次に叔父の家族に育てられました。青年ムハンマドは、叔父の商売のために旅をしていました。シリアを訪れた際に、彼はキリスト教ネストリウス派の修道士に

会い、この修道士から、「あなたは、偉大な預言者としての使命を担うことになるでしょう」と祝福されました。25歳の時、ムハンマドは金持ちの未亡人のハディジャと結婚し、4人の娘に恵まれました。20年後、ハディジャが亡くなると、修道士の祝福のことが蘇り、予言者としての歩みとなっていったわけです。

ネストリウス派というと、元々はローマカトリックに属していた一派でしたが、イエス・キリストの神性と人性を区別し、イエス・キリストの母マリアは神の母（聖母）ではないとする説を説いたため、ローマカトリックから異端とされ、国外追放されたわけです。彼らは、シリア、インド、そして中国にまで宣教を広げていたトマス派と合流しました。トマスとは、イエス・キリストの12弟子の一人で、初代教会の指導者です。「天使論」を熟知している数少ない男性の弟子でした。ペンテコステの奇跡により、宣教者となったわけです。つまり、トマス派と合流したネストリウス派の教会の中には、トマス派の教えを守っていた人もいた筈です。

どうやら、ムハンマドは、トマス派の指導者からイエス・キリストの情報を仕入れたのだと考えられるわけです。ネストリウス派は、『新約聖書』を信奉していましたが、トマス自身は『新約聖書』もネストリウス派の存在も知らなかったわけで、トマス派には、トマスが直接イエス・キリストから学んだピュアな教えが伝えられていた筈です。そうすると、『クルアーン』の情報の方が正しいと言えるのかもしれませんが。つまり、キリスト教よりイスラム教の方が「天使論」に近い教えというわけです。

現在、キリスト教がおおよそ22億人、イスラム教がおおよそ16億人ですが、2100年には、キリスト教を抜いてイスラム教が世界一人口の多い宗教となると試算されています。

ユダヤ教についても少し触れたいと思います。

ユダヤ教を一言で言い表すなら「人類の宗教」と言えるのかもしれませんが。前にも触れましたが、「男尊女卑」の思想が世界中の民族に溶け込んでいったのは、ユダヤ教から発信されたものだと考えられるからです。

日本神道は、朝鮮文化が色濃いと感じられます。特に宮廷音楽の雅楽は、全く同じものと思えるほどに類似しています。ところが、ユダヤ教のシンボルも多く見出すことができます。赤い鳥居は、過ぎ越しの柱。お神輿は、契約の箱。さらに2対の鳳凰は、契約の箱を守る2対の天使。陰陽師のマークは、ダビデの星そのものです。伊勢祭りの歌はヘブライ語から来ているという説や、祇園祭の「ギオン」という言葉が古代ユダヤの「シオン祭」から来ているという説もあります。秦氏が日本神道にユダヤ教のエッセンスを組み入れたと考えられるのですが、そのようにして日本にも「男尊女卑」の思想が入り込んできたのかもしれませんが。

現在のユダヤ人は、血筋のユダヤ人ではありません。9世紀に、黒海のクリミア半島周辺に存在したハザール国の国王の命令でユダヤ教に改宗した人たちです。しかし、血脈のユダヤ人が2度のユダヤ戦争でディアスポラ（離散）する運命を辿ったように、ハザール・ユダヤ人もバイキングや元寇の襲来によって、ヨーロッパ各地にディアスポラ（離散）する運命を辿りました。ヨーロッパはキリスト教圏内ですから、ユダヤ人は嫌われてしまい、ろくに仕事に就けなかったわけです。そこで、彼らはユダヤ式教育法を編み出し、頭脳を発達させて、医者や貿易商、学者、通訳といった知的方面に生きる場を求めていったわけです。そのためユダヤ人は世界で最も頭の良い民族となっています。

19世紀の初頭からユダヤ系の国際金融資本家たちが、戦争を上手く利用して巨富を築いてきました。日露戦争の頃に書かれたデ・グラッペ著、久保田榮吉訳の『ユダヤのタルムード』や四王天延孝訳の『シオンの議定書』を読むと、すでに当時に、ユダヤ系国際金融資本家たちは、世界のほとんどの富を手中に納めており、宗教やイデオロギーを巧みに利用して戦争をプロデュースしていたことが分かります。ナチスのヒトラーがユダヤ人の大虐殺（ホロコースト）を行ったのも、そういった情報に基づいたものだったようです。ただ、その行為は全くの誤りと言うしかありません。

ユダヤ教は、ユダヤ人だけが救われるという教えであり、異邦人を、この世から抹殺すべきゴイム（豚）と信じているわけです。ただ、現在のユダヤ人は、血筋の無いハザール・ユダヤ人であるし、血筋のユダヤ人は、古代ユダヤの時代に全世界に散らばって（イスラエルの失われた10支族）、世界中のあらゆる民族に溶け込んでいるわけで、異邦人の多くが、ある意味ユダヤ人の末裔と見なすことができるのだと思います。しかも、血筋のユダヤ人の大部分は、イスラム教のコミュニティーで信仰を守られた後に、最終的にはイスラム教に改宗したのだと考えられます。

つまり、全世界がユダヤ人の末裔と定義するなら、ゴイムなど存在しないわけです。

それより、ユダヤ教が世界中に影響を与えた「男尊女卑」の思想を、人類は改めるべきではないのでしょうか。争い好き、攻撃好き、競争好きな、レベルダウン（野生化）されている男性の性質を改善する教育に切り替えるべきです。

ユダヤ教徒の若者たちに、ユダヤ教の「男尊女卑」の思想を改めることを期待したいと思います。そうするなら、ユダヤ教徒は、世界のリーダー的存在として世界中の人から尊敬されることになるからです。

最後に、サンタ・クロースのおじいさんが、なぜ北欧人であるかについてお話しします。

欧米人の中には、白人は神に愛された人種であり、有色人種は、神に呪われた人種と考えている人がいるようです。『旧約聖書』の創世記に書かれているノアの子供たち（セム・ハム・ヤベテ）のエピソードをそのように誤って解釈しているわけです。

しかし、『旧約聖書』は、あくまでエジプト人敵視の思想ですから、神に呪われている人種とはエジプト人を指しています。血筋のユダヤ人は、イエス・キリストを含めて黄色人種でしたから、黄色人種が呪われているというのは、おかしな話です。それに、エジプト人を敵視するという考え方も、イエス・キリストの「許し」の教えで言うなら改めなくてはなりません。

さて、サンタ・クロースのモデルは、トルコの聖人、聖ニコラオです。財産家の信心深い両親に育てられ、両親の死後、莫大な遺産を相続しましたが、その遺産を貧しい人々を救うことに用いたと伝えられています。特に、お金を窓に投げ入れ、三人の娘を救ったという伝説が、後に聖ニコラオの祝日の前夜に、子供が願いを込めて窓際にかけておいたりする靴下に、そっとプレゼントする習慣ができたのだといわれています。

聖ニコラオは、布教先の人々に愛され、人々から願われて司教職を引き受けたのだそうです。聖ニコラオは老いた後、73歳で安らかに永眠し、その遺体はミラの堂に葬られました。聖ニコラオの不朽体からは芳膏が湧き出て、多くの信者がこれにより病を癒されたのだそうです。

宗教改革後、プロテスタント教会において、このやさしい司教の訪問の風習が廃止され、司教服になぞらえた赤服赤ずきんで長靴ばきのおじいさんの形に変えられ、それをクリスマスと結びつけたのだと言われています。名前も、聖ニコラオをオランダなまりで「サンタ・クロース」と呼ぶようになりました。

では、なぜ、トナカイのそりに乗り、北欧人のおじいさんなのでしょう。トルコには、トナカイは生息していないはずですが、それは、ヨーロッパの歴史に秘密があるのです。

9世紀頃まで、北欧ではバイキングが激しい部族争いを展開していました。男たちは、戦うことに誇りを持っていました。それゆえ、剣を持って、彼らの神の名「オーディン」と叫んで死ぬことを最高の名誉とされていました。負けた部族の男性たちは、皆殺しにされましたが、美しい女性だけは命を救われ、勇者の妻にされてきたわけです。

この野蛮な部族争いを何と9世紀頃までやっていたわけです。そのことで、男性はたくましく進化し、女性は美しく進化してきたわけです。北欧人やロシア人、英国人、そしてアングロサクソンのアメリカ人には、金髪で青い瞳、そして透き通るような白い肌、抜群のプロポーション

ヨンの絶世の美女を産出する民族であるのは、バイキング（ノルマン人）の末裔であるからです。

このバイキングが、ヨーロッパに襲撃にやってきて、イギリスを皮切りに、次々とバイキングに敗北していきます。戦において、彼らに適うものがいなかったのです。ヨーロッパ中がバイキング襲撃の恐怖に悩まされたわけです。911年、バイキング（ノルマン人）の首長ロロがキリスト教に改宗し、ヨーロッパに平和が取り戻されたのでした。ヨーロッパ人の喜びとは、いかなるものだったのでしょうか。それゆえ、サンタ・クロースが北欧人のおじいさんになったのではないかと考えられるわけです。

オーストラリアにおける白人最優先主義とそれに基づく非白人への排除政策があります。アメリカ人にもその傾向が見られるようです。つまり有色人種が差別を受けているのですが、日本人は黄色人種であるにも関わらず、経済上の都合から「名誉白人」となっているのは変な話です。このバイキング系の白人が美しいのは、「神に愛されている」という理由からではなく、バイキングが「戦う民族」であったことに由来していることを知るべきなのです。

現実世界の美しさは、あくまで仮のもの（くじで当たったようなもの）であって、現実世界では目に見えないけれど、実相世界（プレローマ）において永遠に輝く「本当の美」を得ることを目指したいものです。

世界の人口問題に、イスラム教について、ユダヤ教について、バイキングについて語ってききましたが、バラバラのパーツが一つに繋がったのでしょうか？

世界の人口問題は、ドグマによる対立がある限り実現しないことでしょう。そうではなく、かつてイスラム教が実現させていた、異なる宗教が共存し合える社会を築いていくべきなのです。そこには民族の優越感など必要ありません。

最後にもう一つ、現代テクノロジーがこれから向かう先について予測してみたいと思います。

人口削減の決定打は、核戦争でも殺人ウイルスの世界規模のパンデミックでもないのだと思います。

人々を最先端のAI搭載のスーパー・コンピューターに繋いで深く眠らせ（中心静脈栄養のような形で栄養を摂取）、バーチャルな世界で幸せに生きさせることといえば、1999年に公開さ

れた世界的大ヒット映画「マトリックス」がイメージされると思います。

バーチャルな世界では、結婚も性行為も出産も子育ても可能ですが、バーチャルゆえに実質の人口は増えません。誰かが死んだ場合、その人は不在になる筈なのですが、バーチャルなドラマは何事もなく続くわけです。100年もしないうちに、全ての人が死んでしまうこととなりますが、それでもバーチャルなドラマは続いていくわけです。あとは、スーパー・コンピューターの電源を切れれば全て完了です。

こうして人類は削減され、スーパー・コンピューターを管理していた少数のエリートだけが地球上に残ることになるわけです。

人類の歴史において、それは約50万年前とも考えられますが、自然の驚異の前に神に祈り、死者を埋葬する際に神に祈るような宗教を生み出した種族は複数あったと考えられています。しかし、宗教と言うフィクションを他の種族と戦うための団結に用いることのできた種族こそが、約20万年前に出現したホモ・サピエンスであったと考えられるのです。つまり、宗教的団結により、より多く「戦う人の数を集められた」ゆえに生き延びたというわけです（認知革命）。

氷河期が終わり、移動生活型の狩猟から、固定生活型の農耕に生活形態が変わると、宗教による団結はさらに大きくなっていき国を形成するようになっていきました（農耕革命）。そうになると「他の種族との戦い」から、「他の国との戦い」へと方向性が変わっていきました。宗教の違いが民族の違いとなり、他の宗教を拒絶する宗教的ドグマが戦うための大義名分となっていたわけです。

中世以降、科学が発展していくと人の数のみならず、武器の数、いかに強力な武器を持つかと言う方向性に変わっていき、20世紀になって核兵器や生物兵器へと至ったわけです（産業革命）。また、その間にいくつものイデオロギーが形成されて、宗教とはまた別のドグマによって、戦うための大義名分ができたわけです。それは、戦争をビジネスとしている者たちの錬金術となり、貧しい国々に武器を売り戦争をさせて、ごく少数のエリートが世界全体を支配する構図が形成されていったわけです。

しかし、戦争は全く人口削減となりませんでした。戦争や紛争による生活不安は、人口を増やす方向に働いてしまうからです。とって、核戦争や殺人ウイルスでは、あまりに悲惨なため勝者不在の現実には導き出されません。そうすると、多くの人をバーチャルな世界に導くことが最後の決定打となっていくわけです。つまり、「生きているのが辛い」という理不尽な現実を生きる人たちは、幸せの大きなバーチャルな世界を求めようという考え方なわけです。

しかもこの方法なら、およそ100年足らずで多くの人類を残酷な方法を用いることなく消し去ることができるわけです。そこで生き残れるのは、スーパー・コンピューターと関わるごく少数のエリートに限られます。世界人口のほとんどを削減できるなら、地球温暖化の先にやってくるとされる厳しい氷河期が訪れようと、人類は文明を維持し続けて、地下を利用するなどして生き続けられることでしょう。さらに、地球が大気を失うような天変地異が起きたとしても、高度なテクノロジーによって、残された知的な人類は、地球を離れても生き続けられるのかもしれない。

ロシアの文豪で劇作家のチェーホフが用いた文学的手法に「チェーホフの銃」というのがあります。このシナリオに従うならば、銃によって、つまりは核戦争によってドラマは終わることになります。しかし、スーパー・コンピューターとAIの出現によって、銃を用いない、ホモ・サピエンスの歴史の流れを大きく変える革命が起こりつつあるのかもしれない（AI革命）。

私は、エリートではありません。ゆえに、生き延びる側の人間ではありません。ただ、バーチャルな世界（嘘の世界）で楽しんで死ぬことよりも、バーチャルな世界に導かれる前に、プレローマ（真実の世界）の住人になりたいと考えています。瞑想は、プレローマとの関係を築くための積極的な方法と言えます。そして、目の前の現実を上手く生かして、天使になる修行を日課としていくなれば、そのことは確実なものとなっていくと信じています。

バーチャルな世界とプレローマ、どちらも非現実的な世界ではあります。ただ、バーチャルな世界が現実として作られる時代となっているのに、一方のプレローマを頭ごなしに否定するのも時代遅れのように感じられます。前者が高度なテクノロジーであるのに対し、後者は高度なスピリチュアルでもあるわけです。

物理学は、真実を明確化する学問であるのだと思います。スピリチュアルも、物理学が追い付いてはいないだけで、目に見えない（形而上学的）真実を追い求める学問である筈です。宗教のように信じ込むことで安心するようなものではなく、新しい真実を見出すためにチャレンジし続けるものなのです。

世界中のスピリチュアルな研究者によって確実な方法が発表されてから取り入れたいところですが、スピリチュアルな探究を他者に任せているほど時間がないのです。

ぼやぼやしていると、バーチャルな世界で葬り去られてしまうことになるかもしれないからです。

まあ、「幸せに死ぬる方法ならそれでいいんじゃない」という人もいてもおかしくありません。世の中の流れに身をまかせ、より苦しみの少ない方を選ぶというのも一つの価値観というか選択肢ではあります。ただ、それが本当に苦しみの伴わない方法なら良いのですが、裏切りが無いとも限りません。

人間は嘘によって生き延びてきた動物です。これまで人類を動かしてきたのはフィクション（嘘）なのであり、私たちは嘘のしがらみの中で生きている存在とも言えるわけです。ゆえに、新たに自己を創造しない限り、「魂は無の存在」と言える所以なのです。

私は困難な選択の方に生き甲斐を感じる人間なようです。でなければ 59 歳という死を意識するような年齢になって、このような難問に挑むことなどしないでしょう。

できることなら、AI 革命と並行して天使論革命を起こして欲しいものです。バーチャル世界での殺人を食い止め、世界人口を 10 億人程度に安定させられる方向性に人類を向かわせるべきだと思うからです。

そんなことを書いては見たものの、すべては神が決めることなのです。私の思いだけではできないようなものではありません。基本的に、この「天使論」は、私の心に救いをもたらしました。それだけで十分と言えるわけですが、もし他の方にも救いをもたらされたとしたら素晴らしいことだと思っています。ただ、「すべては神のみ旨のままに」と受け止めて歩んでいきたいと思っています。

そして、『天使論』最後のピースです。「最後の」というのは、最終と言う意味ではなく、『天使論』を書く上での締め切りのようなものと受け止めてください。

宗教とは、嘘（フィクション）に命が宿った怪物なのです。イデオロギーも同様の怪物と言えるのかもしれませんが（共に歴史遺産としての価値はあります）。どちらも人間によって作られた怪物であり、人類を滅亡へと導く存在なのです。残念ながら、これまでの人類はこの怪物が示す道しか頼りにできなかったわけです。しかし 21 世紀の人類は、インターネットを通し広く世界を見て学ぶことができるようになり、この怪物を客観視できる能力が開かれてきたのではないのでしょうか。

では、この怪物から逃れる方法とは何なのでしょう。それは、自分が（前世においても、そして変わることなく続く来世においても）虚構の存在であることを自覚し、あらゆる次元を（宇宙を）超えた永遠の存在と繋がることで、ゼロから自分を永遠の存在へと創造し直すことにあ

ります。

私はそれを可能とするのが瞑想なのだと考えています。ただ、このことについて私は敢えて断言したくはありません。あくまで「仮説」として語りたからです。もし、断言してしまったなら、私の語ることも嘘（フィクション）と同じものになってしまうことでしょう。私のような仮説を持って生きている人は世界中に何人もいるわけですが、そのような考え方が次の世代に誰かに受け継がれて、進化していくべきだと思うのです。このような進化し続けることのできる教えを「口伝」と言います。

イエス・キリストは、『新約聖書』を書いた人ではありません。むしろ聖典を作ることを反対したのです。皮肉にもユダヤ教を冒涇した罪で、パリサイ派による判決によって、初代教会（ナザレ派）もしくはエッセネ派から追放されたギリシャ人の改宗者たちがキリスト教を立ち上げたのでした。本来のイエスの教えは「口伝」であった筈なのに、神の言葉と絶対視する聖典となってしまったわけです。

同様に残念なことは、本来「口伝」であった筈の『タルムード』（ヘブライ語限定）が、キリスト教の敵視に対抗してユダヤの聖典となってしまったことです。このようにして、宗教は怪物へと変わっていったのです。

『クルアーン』（アラビア語限定）もムハンマド本人が書いたものではありません。『クルアーン』は本来、単に記憶する書ではなく、ムハンマドに習い、私たちが神から啓示を受けることを学ぶべきものでした。そのころを理解していないと、やはり怪物を作り上げることに変わりないのだと思います。

私たちは、瞑想の世界の住人になることで、イエス・キリストやムハンマド、さらにはお釈迦様のような聖者と同様の世界を共有できるわけです。まずは私たちが教えられてきたイエス・キリストやムハンマド、そしてお釈迦様は本物ではないことを知るべきなのです。

宗教とは、嘘（フィクション）に偽りの命が入り込んでしまった怪物と言えるわけです。私たちは、ようやくそう言える時代に今いるわけです。

くれぐれも真の成功とは、お金持ちになることではないと認識して欲しいのです。名誉を得ることでなく、まずは自分の心を救うことです。心の中から、〈怖れ〉を完全に消し去り、全てを〈許し〉に変えることです。それだけで十分なのですが、あとは命ある限り、神から与えられるミッションに生きることです。

天使論的に言うなら、神からほとぼり得た存在、つまりはジュジュギアである天使（ゆえに神とイコールの存在）は、完全な者であっても完成した者ではありません。私たちと結ばれてこそ完成するのです。しかし、私たちは、天使と結ばれるためには、この世の価値観を全て捨ててしまわなくてはなりません。カオスの世界にどっぷりつかっている私たちは、そのようなことは困難と言えるのでしょうか。しかし、瞑想による法悦を知ることにより、捨てることができるわけです。この法悦を知る者こそが、心の中から〈怖れ〉を完全に消し去り、全てを〈許し〉に変えることができるのです。

エロスへの執着が強い人は考え直す必要があります。まずは、割り切って考えることから始めてみましょう。プレローマ（天国）と、この世はルールが異なります。この世の在り方をプレローマには持ち込めません。そうすると、プレローマの在り方に合わせる必要があります。この世のエロスよりも、プレローマの法悦の方が、遥かに優れているということを瞑想によって深めていきましょう。

また、自分の持ち物を増やしていくのではなく、どんどん処分していく。減らしていくことの方が、エンジェル・ガイダンス（創造瞑想）の質を高めることになります。処分したものを日記に書くなら、自分の決意と勇気を確認できるので、励みになるかもしれません。必要最低限の物だけで生きることは、一切を空（くう）にすることに繋がり、プレローマ（天国）の在り方を受け容れられる体質づくりに役立つわけです。

もし、世界中の人が「天使論」に出会えたなら、多くの人たちが自立した魂に生きられるようになることでしょう。結婚して家族を持つという慣例に従わない若者も増えることでしょう。そういう形で世界の人口問題を解決していけたら、とても平和的だとは思いませんか？

独身の若者が増えていったら人類は滅亡してしまうのではと心配される方もいるかもしれませんが、でも、大丈夫です。神の導きには、子どもを産み育てることも含まれており、その役割を生きる人が必ずいるからです。

これからの時代、これまでの生殖本能に基づく「結婚して家族を持つことが幸せ」という古い考え方では地球の環境を維持できなくなります。魂の自立を目指し、法悦を基盤とした幸福感に生きることこそが新しい人類の考え方となっていくべきなのです。そうするなら、自然界の動物たち、海の生物たちにも平和が取り戻せることになるでしょう。地球は人間だけのものではありません。

人類が10億人程度になっていくなら、人類は氷河期が来たとしても、生き延びられる下地が整っていくこととなります。それは、他の自然の生き物たちの多くが生き延びられることに

も繋がります。しかしそれでも、火星がそうだったように、地球から生命が奪われるような天変地異がいつかは起こることでしょう。

そんな先のことはともかく、世界中に「天使の人」が増えていくのなら、何と素晴らしい世界に変わっていくのでしょうか。助け合うことは、ごく当たり前のこととなるので、不安の無い社会となっていくことでしょう。もちろん、死の不安など存在しないのです。

第 32 章 AI の時代は、希望の新時代である理由

AI の時代になると、人類はことごとく仕事を奪われることになるでしょう。

レジ係、受付係、一般事務、データ入力係、人事、プランナー、製造業、運転手、鉄道の車掌、船長・船員、パイロット・フライアテンダント、測量士、税理士、会計士、司法書士、弁護士、翻訳者、設計士、プログラマー、評論家全般、マスコミ全般、そして政治家と、次々に AI に代替されていくと考えられています。

とはいえ、AI の時代になると、会社同士の無意味な競争も無くなるため、倒産も無くなり、銀行の不良債権も発生しなくなります。しかも AI の方が人間よりも、はるかに生産性に優れるわけです。デフレスパイラルなど無縁なのです。

そればかりか、無意味な国同士の争いも無くなります。紛争も戦争も、人間の感情が引き起こしてきたのですが、AI は人間的な感情に支配されることはありません。腹黒い人間の政治家に任せるより、AI に政治を任せた方がはるかに優れているわけです。

AI 化を陰謀論と結びつけて悪評を広めているのは、戦争で巨富を築いてきた旧体質の人間の仕業です。陰謀論と正論とがあまりに微妙な違いであるため、見分けがつきにくいのは確かです。多くの人は混同しているのかもしれませんが。

私は、古い体質のエリート（旧ユダヤ系）が、新しい体質のエリート（新ユダヤ系）に凌駕されることを期待しています。まあ、人はいつかは死ぬわけなので、何も戦わずとも旧体質の激しい抵抗もいずれ、しぼむように止むことでしょう。彼らが息を吹き返せる時代はやってこないからです。もちろん、日本の誇れる科学者たちの多くは新しい体質のエリートに属します。AI に個人の情報が細かく管理されるので、個人のプライバシーが侵害されると考える方もいる

かもしれません。しかし、治安は格段に向上します。犯罪者がすぐに特定されるため犯罪を犯しにくい環境となるわけです。

国から、国民全員に生活費が支払われるようになり、つまりはベーシック・インカムの時代へと突入していくわけです。仕事をしなくても生きていけるようになるのです。

では、仕事が無くなった時、あなたは何を生き甲斐にしますか？

私だったら、思う存分真理探究をし、瞑想をし、音楽を楽しむことでしょう。絵を描いたり、詩を書くことでもいいでしょう。

Facebook も AI が導入されているゆえに、こんなにも快適に人間同士の交流が楽しめるわけです。たくさんのお友達がいたとしても、誰が「いいね」したか、誰がコメント書いたかが瞬時に把握できるため、迷うことなく対応できるのです。これも AI の業の一つです。

世界中の人々が、発達した SNS により仲良く交流し合う時代となるわけです。ベーシック・インカムの時代、ネット詐欺師も活動する意味が無くなるので、いなくなるでしょう。

生きるために、仕事にほとんどの時間を奪われていたこれまでの生活から、生きることを心配せずに、創造的なことに思う存分時間を使えるようになるのです。

皆さんは、どちらの生き方がより知性的だと思いますか？

労働の時代には、人類は知性的な進化が阻まれてきました。ベーシック・インカムの時代になると、人類の知性的進化が加速するのです。

AI の時代になると、人類はより人間的な生き方ができるようになることでしょう。ただ、今はその過渡期なため、AI の時代の素晴らしさを実感できないだけなのです。AI 化が整うまでの間は、痛みの伴う状態が続くかもしれませんが、耐え忍ぶ価値は十分あります。と、書きながら思ってしまったことは、私はこれまで、宗教同志の無意味な対立を無くするために「天使論」を紹介してきたわけです。しかし、経済、そして政治が AI に取って代わるなら、宗教による争いも無くなることになるわけです。大切なところはすべて AI が押さえているので、人間は、宗教をやるにしても、あくまで個人の趣味嗜好の範疇でしかなくなります。世界を特定の宗教で支配するなどという人間的な野望は、AI は決して許さないのです。

ただ、テロリストに AI を使われると大変なことになりますが、それは先回りして、テロリストが入り込めないように AI による防御体制をしっかりと作り上げていけば良いわけです。これ

は、優先順位の最も高い項目と言えます。

AIは物理学を画期的に発展させることでしょう。どんなに地球環境が激しく悪化して、生き物が住めない惑星になったとしても、多次元に生活の場を移すことで人類は生き延びていけるのかもしれませんが。つまり非物質化できるようになるわけです。あるいは、テレポーテーション理論を活用することにより、はるか遠く離れた所に存在する、地球環境と似た惑星に移住できるようになるのかもしれませんが。

AIは、世界を現在の「カオス」の状態から「調和」へと修正し導いてくれることでしょう。時代がこのようになっていくとするならば、あらゆる宗教の中立的な副読本になり得る「天使論」は、瞑想のお供には相応しいのかもしれませんが、世界平和に必要なものではなくなってしまいうわけです。

自分が情熱を傾けて研究してきた「天使論」は、個人の趣味嗜好の一つに過ぎず、瞑想のお供以上のものではない…

そう考えて、昨夜はかなり凹んでしまい、体調が優れなかったわけです。また、考え過ぎの癖が出てしまいました。

最後に、ただ一つ言えることは、AIの時代とは、絶望の時代ではなく、希望の新時代であるということです。

人類が、長い歴史を通して作り上げてしまった破滅的対立構造（フィクション支配）から脱出する方法は、AIの時代にシフトする以外に、もはや方法は無いのだと思います。AI化を反対する理由がどこにあるのでしょうか。そして、AI化を怖れることなど、どこにもないのです。時代の進歩が速いことには、それなりの理由があるのです。ですから、時代を逆戻りさせようとする古い体質の人たちの言うことに騙されてはいけません。

皆さん、今日のお話、付いて来られましたか？

2021年4月2日 Facebook 投稿記事より

第 33 章 素敵なコーヒータイム

今日は FB (Facebook) の友達のライブ動画を見ながらコーヒータイムを楽しみました。彼女はタロット占い師です。ラジオでやっているテレフォン人生相談を彷彿させる素晴らしいカウンセリングでした。ただ、テレフォン人生相談のパーソナリティは上から目線でやっている感じだけど、彼女はとっても優しく、聞いている私も癒されちゃいました。知識教養が豊かで、特に医療事情にもものすごく知識がある方なんだと感心いたしました。

私の FB の「人生の師匠」は、スピリチュアル (スピ) がとても嫌いなようだけど、彼女のタロット占いは、スピは入り口になっているのかもしれないけど、内容は「親身に一緒に考えてくれる隣人愛」を強く感じられました。私は、人前で歌っている時が人生最大の幸せを感じていると、前に記事で書いたけど、彼女はカウンセリングしている時に同様の幸せを感じているのだと思います。

人は、幸せな状態の人から幸せをもらうんです。

とはいえ、相手の弱みに付け込んで、脅迫するみたいに大金を請求してくるスピの人も多く見られるので、師匠はきっとその人たちのことを批判されているのだと思います。

さて、皆さんは、コーヒー豆は何がお好きですか？

私はキリマンジャロが好きです。薫り高く、程よい酸味で苦みが穏やかなので、ストレートでもいけます。

今日は、素敵なコーヒータイムを楽しみました。

2021 年 4 月 3 日 Facebook 投稿記事より

第 34 章 チャクラ（桜）開いた

今日は妻に車で連れられて桜を見に外出をした。

我が母校、盛岡市立下小路中学校の校門向かいに素敵なパン屋さんを発見。一見、洋裁店か何かと思った。「メイドイン・下小路 パン サブール」 おしゃれな雰囲気のお店の中に入ると、アニメから飛び出てきたようなキャラの腰の曲がったおばあさんが出てきて応じてくれた。奥の方で娘さんなのかお孫さんなのかはわからぬが女性が作業していた。車の中での遅めの朝食となったが、しっとりもちもち、しかも味が複雑で抜群においしかった。

それから、盛岡・内丸の裁判所前の石割桜を見に行った。盛岡の観光名所の一つとなっている、巨大な花崗岩の割れ目から育った直径約 1.35m、樹齢 360 年を越える一本桜である。人だかりになっていた。

昼食は、そこからほど近い岩手医科大学裏にある「大陸飯店（ちきんはんてん）」でラーメンを食べた。ここのラーメンは、昔から変わらぬ定番の味である。私が小学校の時、よく母に連れられて入った店だ。特に、肉飯はお勧めで、火柱を立てて作る様にはいつも感動させられる。ここ最近になって来るようになったのだが、母に連れられて来たのは約 50 年前。その店主が今も健在で、かなりのお年の筈なのだが髪を黒々と染め、しかも高倉健の任侠映画に出てきそうな二枚目でありカリスマ的存在感があるんです。また、おじさんに会いたい！

桜を見ることは健康に良いですね。

しゃくら（桜）を見て、全身のしゃくら（チャクラ）を開こう（笑）

2021 年 4 月 11 日 Facebook 投稿記事より

チャクラについて

	部位	音	色	解説
			金色	神のチャクラ (神から注がれてくる聖なる光、聖なる気のエネルギー)
第7	頭上の少し上にあり、すべてを客観的に見渡し、見守る意識をもつ	H	銀色	ジールポイント・チャクラ (全てのチャクラと連動する、マスターキーとなるチャクラ) (銀色は身体中の全組織と連動) 肝臓、すい臓、リュウマチ、前立腺障害 (赤より穏やか)、気管支炎と熱を改善。ストレスや性的障害を鎮めるのに最適。心臓の組織を活性化・調整し、副腎を刺激します。
		A#	バイオレット色	王冠のチャクラ (中枢神経系、松果体と下垂体を結合し、右目と連動) 神経の炎症、食欲減退、膀胱炎、骨、ガン、急激な腹痛、エネルギー減退、頭痛 (後頭部)、目、刺激反応性、偏頭痛、神経痛、腺と臓器の過度の活動と末期症状の病気を改善。紫色は、血液を浄化し、神経組織を刺激し、霊性を向上します。 [禁忌]抗うつ、感情が不安定な時に使ってはけません。
第6	眉間にあり、あらゆるものを穏やかに見守る視点を持つ	A	バイオレット色	サードアイ (第三の目) (松果腺、松果体、骨格組織、脳の下部、左目、鼻腔と連動) [藍色] 喘息、マインドを拡大する、気管支炎、打撲傷、精神的緊張、白内障、湿疹、目の病気、倦怠、扁桃腺、潰瘍、拡張蛇行静脈を改善。また紫色は、血液を浄化し細胞組織の活力を回復します。 [禁忌]抗うつ、感情が不安定な時に使ってはけません。
		G#	青色	喉のチャクラ (呼吸器系、甲状腺、声と連動) 喘息、耳痛、熱、甲状腺腫、偏頭痛、不眠症、精神的うつ病、神経異常、心悸亢進 (動悸) 妊娠、リュウマチ、咽喉炎、ショック、精神的緊張、甲状腺、扁桃炎、気管支炎、肺のうっ血、滑液包炎、空咳を改善。青色は、また清潔感やリラックス感を与えます。肝臓をきれいにします。青い光を風邪や子供の病気に使ってください。
第5	喉にあり、パワーを導いて感情を適切に表現する	G	青色	
		F#	緑色	胸腺のチャクラ (免疫組織と連動) 頭痛、体重減少 (ピンクと一緒に)、を助け、落ち着き、リラックスした特質を所有しているので、精神を安定させます。
第4	胸にあり、心身を開放して周囲と調和する心をつくる	F	緑色	ハート・チャクラ (消化器官、心臓、肺の下部、血流、胸腺と連動) 不安感、喘息、血圧の平衡、ガン、感情障害、頭痛、心臓病、筋肉、神経異常、精神的緊張状態、潰瘍を改善。緑色は下垂体を刺激し、心臓を開きます。緑色は鎮痛剤としても機能します。
		E	黄色	調子を整える薬 レモン! レモンジュースを飲みなさい。身体全身を清め、若返らせる。優れた癒しの薬。 胸腺を強化し、風邪によるうっ血に抵抗します。レモン色は、うっ血除去薬と言えます。 [禁忌]鋭い炎症の時、熱、せん妄、極度の興奮、心悸亢進 (動悸) 神経衰弱の時。
第3	腰にあり、集中力を高めて意志を強くする	D#	黄色	神経太陽叢チャクラ、神経組織の「脳」 (胆嚢、胃、肝臓、神経組織と連動) アレルギー、関節炎、鼻カタル、風邪、便秘、難聴、糖尿病、消化機能、うっ血した耳、胆石、花粉症、胸やけ、肝臓、記憶力、筋肉、多発性硬化症、神経、前立腺、尿の出方、潰瘍と大腸の張りなどを改善。皮膚の諸症状をきれいに、利尿薬としての機能がある。 [禁忌]鋭い炎症の時、熱、せん妄、極度の興奮、心悸亢進 (動悸) 神経衰弱の時。
第2	下腹にあり、心身に活力を与え意欲や情熱の源になる	D	オレンジ色	生殖のチャクラ (脾臓、生殖腺、生殖器、胃と連動) 喘息、膀胱、気管支炎、腸の炎症、ガン、うつ病、消化不良、胆石、胃腸内のガス、無気力感、粘液、すい臓、副鼻腔、そして潰瘍を改善し酸素量を増やします。桃色は、皮膚にとっても素晴らしい効果をもたらす、若さを保ってくれます。 [禁忌]もしオレンジが強すぎるのであれば、桃色を使います。桃色は、オレンジより高い振動をし、「スピリチュアルな愛」を表します。
		C#	オレンジ色 (またはピンク色)	「神聖なる愛」チャクラ (妊娠中の女性) 刺激感応症 (反応症)、余分な心配、家庭内の口論、けんか、やっかいな恋愛関係、老人病、刑務所改善、思春期を手助けします。 [禁忌]もしオレンジが強すぎるのであれば、桃色を使います。桃色は、オレンジより高い振動をし、「スピリチュアルな愛」を表します。
第1	骨盤底にあり、心身に安定感と落ち着きをもたらす	C	赤色	ルート・チャクラ (足、脚、尾骨、膣、腎臓、膀胱と連動) 貧血、低血圧、無気力の改善。筋肉を活性化。麻痺感、ものぐさ感、関節のこわばり、インポ、不感症に最適。 [禁忌]凶暴的、怒り、攻撃的で暴力的傾向、過剰な性欲にふける傾向の場合。動脈硬化 (オレンジを使う)、出血 (青を使う)、心臓病 (オレンジかピンクを使う)、あるいは神経質の場合、使用は避けて下さい。

第 35 章 不登校

近年、子供の不登校が目立ってきたと思う。私になついてくれて、私を尊敬すると言ってくれた子までも不登校になった。

二人の女子生徒の場合は家が裕福だったことで妬まれていじめられたケースだ。頭の良い子だったので、二年近くも学校を休ことになるのだったら、多少お金が掛かってもお受験で入る中学か、ミッション・スクールに通わせるべきだったと思う。

公立学校には危険が潜んでいる。我が母校(公立中学)でも警察沙汰があり、逮捕者も出た。私たちの頃と同じではないのだ。

他の例では、吃音の子、発達障がいの子たちで、彼らは言い返せないので、陰でストレス解消として暴力を受けたケースだ。加害者の子の親は子供の受験に響くと思ひ、絶対に認めようとしなかった。むしろ被害者の子の方に非があるとまで言い張った。彼らが少しでも良くなるように、フリースクールを調べてあげたり、不登校の生徒の受け入れ態勢のある高校について調べてあげたりした。悔いが残るのは、その場しのぎの対応しかできなかったことである。

彼らの小さな変化に気づいてあげられて、早期のうちに気のきいたアドバイスをしてあげたかった。そういう意味では、5月から勤める教育現場は私にとってリベンジの機会でもある。また、いじめっ子への指導も考える必要があるだろう。親の言動が影響しているケースが多いので、親の立場を守りながら(いじめっ子の方が親との絆が深い場合が多い。親を説得すれば、親の言うことを聞いていじめをやめるケースもあった)、いかに的確で、その子にとって腑に落ちることが言えるかだ。

とりあえず、今のうちに、その手の本は片っ端から読んでおきたいと思う。

2021年4月19日 Facebook 投稿記事より

第 36 章 千本曲げ教育法

精神薄弱者更生施設からやって来る実習生への教官を 4 年程務めたことがある。

年齢は 20 歳前後の青年である。どの子も公立中学でいじめを受けたりして激しく自信を失っていて、まず自信をつけさせる所から始めなければならなかった。野球の猛特訓の千本ノックというのからヒントを得て、「千本曲げ」なるトレーニングをやったことがある。

コンクリート製の排水丸柵（マンホール乗せる柵）の鉄筋を作るための部品に、15 センチほどの細い鉄棒をゲージで 30 度程曲げる作業である。正確に曲げないと歪んだものとなる。前もって練習用に鉄筋屋さんに細い鉄棒を千本注文し、トレーニングを開始した。

はじめは、千本どころか、一日かけて 100 本曲げるのが精いっぱいである。しかもほとんどが失格品。私の経験上、人間の能力は 10 倍向上する。私自身、はじめ汚水柵の鉄筋（完成品）を 1 日 10 個しか作れなかったのが、半年後には余裕で 100 個作れるようになった。しかも時間がかかり余るので、他の作業場に手伝いにも行けたほどだった。

3 日もすると 300 本は曲げられるようになる。合格品も増えていく。作業中にトイレに行きたいと言われてもが行かせない。行かせるなら 30 分は帰って来ないからだ。仕事前、10 時の休憩時、お昼休み、15 時の休憩時の 4 回。声掛けをしてトイレに行ってもらおう。その時間でしかならない、という癖をつけさせる。といっても、お漏らしすることもよくあった。お漏らしをして、嫌な思いをして、決められた時間にトイレをすることを覚えさせた。

一週間程すると、500 本前後曲げられるようになる。合格品も半分以上となる。終業後、曲げた針金は残業して元通りに直さなくてはならないのだが、苦に思ったことはない。ほとんどの子が二週間もしないうちに、ほぼ千本曲げられるようになった。しかも、ほとんどが合格品である。

「褒められる回数が増えていくと、自信も増していくのである」

そして千本曲げ達成。ほとんどの子が、「鉄棒曲げが飽きたから他の作業もしたい」と言い出してくる。そこで、鉄筋の溶接を手伝ってもらった。仕事に対して積極的である。そして、社員と混じっての流れ作業もやってもらった。始めは、私が手伝っていたが、慣れてくると手伝い無しで出来るようになっていった。

1 ヶ月弱で実習が終わり、実習生は本格的な就職活動となる。私が教えた実習生は、ほぼ全

員、実習に逆戻りすることは無かった。就職先の職場でもすこぶる評判が良かった。親御さんとは連絡帳で通信していたが、良くなっていく息子の様子の書き込みに感動して現場にやってくる親御さんも何人かいた。中には、高級な菓子箱を持ってやってくる親御さんもいた。

ほぼ全員の「ほぼ」というのは、たった一人、就職先の会社の金を盗み、無免許で会社の車で逃走し、警察とのカーチェイスの末に逮捕された子がいたのである。仕事をできるようにしてあげても、人間としての部分を教えていなかったと、あの時は本当にかっかりした。

それ以降。仕事が終わると車で雫石川の河川敷に実習生を連れて行き、道徳教育を行った。その後に施設に送り届けた。その時、いろいろな「たとえ話」を作っては教えるようになった。以前にFBで紹介した「愛について」などは、その頃に編み出した文章である。

教育というのは、感謝はされるが、頑張ったからといってお金には直結しない。普通に働いている社員と同じ給料なのである。さらに、私は労働組合の委員長もやっていた。クビになりそうな社員を救い、ベースアップを勝ち取ったりもした。しかし、単なる世話好きの仕事に過ぎなかった。苦労しているように見えるらしく「そんなの馬鹿臭い」と同僚たちから、からかわれることもあった。

会社を退職後、書道塾を経営し、教え子がイジメにあって学校に抗議をしに行ったことがあったが酷い対応だった。そこで出会った先生方は、「そんなの馬鹿臭い」の人たちのようにも思えた。面倒なことには手を染めたくないのだろう。先生方にも家族があり、家族も大切にしなければならぬ。そうなると思えば世話好きになれる教師は限られてしまうことだろう。

2021年4月19日 Facebook 投稿記事より

第37章 中学の道徳授業を見学して

私は、学校教育にとっても関心があるので、回覧板のお知らせを見て、小中学校の公開授業を見に行くことにしています。

数年前、中学1年生の道徳教育の授業を見学しました。

そこでは、「死について」がテーマでした。

若い男性教師の話の内容は次のようなものでした。

「今日は、人間の死について皆さんと考えていきたいと思います。では、先生の考え方を皆さんにお話ししましょう。人間、死んだらお終いです。何も無くなります。もしあるとするなら、火葬場で遺体が焼かれ、その煙が大気に撒かれ、煙は木々の中に取り込まれ、その木が切られて加工され、皆さんの目の前にある机になったのかもしれませんがね。あるいは、野菜の中に入り、皆さんは朝に食べてきたのかもしれませんがね。死とは、ただそれだけのものです。」

多くの生徒たちはショックを受け、一人が手を上げて「先生、神様はいないのですか」と質問すると、「はっきり言って神様はいません。ただの迷信です」と答えていました。

ある子は、「先生、幽霊はいないのですか」と質問すると、「幽霊はいません。人間は錯覚する生き物ですから、何かの自然現象を幽霊と思い込んでしまっているだけです」と答えていました。

ある子は、「先生、悪いことをしたら地獄に落ちるとおばあちゃんが言っていたけど、地獄は無いのですか」と質問すると、「地獄もありません。それもただの迷信です」と答えていました。

中には涙ぐむ子もいました。

とある女子生徒は、「先生、では何で私たちは生まれてきて、そして今、生きているんですか。なんで勉強を頑張り、部活を頑張らなくてはならないのですか」と言う質問には、「人間の命に意味などありません。人間は、ただ生まれてきて、いつかは死ぬだけの存在です。死ぬ存在だからこそ、つまりは儂い存在だからこそ、生きている今を一生懸命生きた方が幸せなのです。頑張らない人は幸せを得られないまま死ぬことになります。どうせ死んだら無くなるのですから。頑張る人と、頑張らない人とどちらの人の生き方が得だと思えますか」と答えていました。

頭の良さそうな男子生徒が手を上げて、「先生、頑張らないと、人間はただの惨めな存在なのだと思えます」と答えていました。先生は「それはすばらしい。とても良い意見だ」とはじめて生徒に対して誉め言葉を返しました。そして先生は、ほっと溜息をつきました。一部の生徒には理解ができたかもしれませんが、しかし、多数の生徒には消化不良になった授業のように思われました。

公立の中学での道徳教育は、宗教を入れないことが原則となっています。だからといって、

「神様はいません」と断言してしまうのは、いかがなものかと思うのです。神様を信じるのがモチベーションになっている生徒たちも多くいた筈です。中には熱心な仏教徒のご家庭の子、敬虔なクリスチャンのご家庭の子もいた筈です。文部省の言う宗教教育をしないというのは、一部の宗教に偏るものであってはいけないものと私は解しています。宗教を否定するという意味ではないと思うのです。

つまり多様性に応じられる授業をするべきなのですが、人生経験の少ない男性教師にとっては、多様性で話す能力に欠けていたため、宗教否定で授業を進めることしか思い当たらなかったのだと思います。

道徳教育はデリケートなものなので、専門家を招いて行うようにすべきではないか。その授業を見た後での私の率直な感想でした。

2021年4月20日 Facebook 投稿記事より

第38章 名も無き神

私はこれまでに三人のイエス・キリストに出会ったことになる。

一人目は、『新約聖書』で出会ったイエス・キリストである。ギリシャ人クリスチャンがまとめたイエス・キリストの伝記と当時の新教団の指導者パウロの手紙で構成されている。

肉体労働していたとき、ガラの悪い同僚たちの言葉に何度も傷つけられた。傷つける人間と、傷つけられる人間。どちらがイエス・キリストが愛しているかと考えてみた。そして、自分の方が愛されていると確信が得られた。それゆえ、めげることなく仕事を続けることができた。自分で言うのは何だが、私はこれまで壮絶な人生を歩んできたと思う。『新約聖書』の聖句に基づく救いが得られたからそこ、今、こうして生きられているのだと思うのだ。

二人目は、『ナグ・ハマディ写本』で出会ったイエス・キリストである。キリストの直弟子である初代教会（ユダヤ教ナザレ派 ※現在は消滅している）の教えである。

ギリシャ系キリスト教（カトリック&プロテスタント）の教えは、絶対視（決めつけ）を基にしているので、どうしても、キリスト教が正しく、他の教えは間違っているという見方をしがちになる。ところが、こちらのキリストは、逆に絶対視（決めつけ）をするなど教えている。

その人の個性に応じた多様性を受け入れてくれる。聖典による「覚える知識」ではなく、口伝による「探究する知識」なのである。だから「正しい」とか「正しくない」といった価値基準では無いのである。決めつけが無いので、間違いに気づいたら素直に修正すればいいし、新たに見つけた良い情報は、積極的に取り入れるという柔軟性がある。私は、初代教会の教えを学ぶことで自由を得ることができた。

三人目は、名前なきイエス・キリストである。クリスチャンである私には、イエス・キリストと感じられていても、仏教徒が見るとお釈迦様に感じられるのかもしれない。イスラム教徒には、マーディ、ヒンズー教徒には、クリシュナ神に感じられるのかもしれない。神智学協会など神秘学を学ぶ者にはサンジェルマンやクトフーミに感じられるのかもしれない。私が大変なピンチの時に助けてくれた霊的なマスターは、名前を名乗ってくれないのである。尋ねても答えてくれない。瞑想で出会うマスターも、決して名前を明かしてはくれない。

「神はいない」と断言している人がいる。断言とは決めつけであり、他を見ないという愚かさがそこにある。科学を根拠にしているらしいが、科学とは、決めつけてはいけぬ学問であるはずである。「神はいないのかもしれない」と言うべきではないだろうか。

私は、映画「エクソシスト」で描かれていた内容とほとんど変わらないポルターガイストを体験している。映画では悪魔に取り付かれた少女を救おうとして、犠牲となって神父は死んでしまったが、私の場合は、名を語らぬイエス・キリスト(?)によって救われた。この悪魔体験が、私が「神はいない」と言えなくなった理由の一つになっている。目には見えない霊者の存在を知ったからだ。だからといって、私は「神はいる」と断言はしない。敢えて「神はいるのではないだろうか」と表現している。決めつけは、真実を見失わせるからだ。

人類は、この「絶対視(決めつけ)」によって価値観の異なるものを敵視し戦ってきた。戦争を繰り返してきたのだ。

三人目のキリストが名を決して名乗らないのは、敢えて「わからないということ」、「どうにでも捉えられるということ」、を望んでおられることを意味しているように思えてならない。

ルルドの奇跡で有名な出現した聖母マリアらしき御方も、名前を名乗らなかった。聖女ベルナデッタが周りから急ぎ立てられていて気の毒に思い、その方は一言「無原罪の御宿り」と答えたらしいが、そのことを「原罪の無いマリア」と考えると無理があるし、「原罪の無い魂を宿す者」と考えると天使とも受け止められ、答えが見つけれぬ実に難解な表現なのだ。教会側は、最終的には聖女ベルナデッタの証言を認め、聖母マリアの奇跡と決めつけた。

大切なことは、宗教ではない、思想でもない、名も無き神、すなわち愛を捉えることである。

愛を捉えて、愛の価値を知り、愛に生きることである。

死後の世界や、天国については、「わからない」としか答えられないが、名も無き神の世界は、愛の世界であると感じられてならない。

人間誰もが死を免れることはできない。いつかやって来る死の時を、名も無き神に委ねてみたいと私は思うのだ。

そうだ、子供たちには「名も無き神」でなら、既存宗教とは違う切り口の有神論に基づく道徳教育ができるのかもしれない。

2021年4月20日 Facebook 投稿記事より

「天使論」に生きるとは、プレローマを目指す生き方である。天使になるために、天使の性質を身に着ける努力をする。プレローマには、人間と対になって完全となるためのシュジュギア（異性の天使）が存在する。人間は、シュジュギアと結ばれることで完全な者、永遠の者となれるのである。

「天使論」は宗教では無い。イエス・キリスト直弟子の系譜であり、初代教会の教えでもある『ナグ・ハマディ写本』は、聖典ではない。口伝を記録したものであり、絶対視によるものではないので、個人の追求により自由に進化させることのできるものである。

真実の神の名は「わからない」のである。もし名前があるとするなら、その人が感じられた聖者の名前でも構わないのである。多様性を好む神の姿勢がそこにある。つまり、神はすべての人をプレローマに招待していることを意味しているのである。

まだ命があるのなら、遅くないのである。神の招待に応じた瞬間から、永遠の世界への導きが始まるのである。聖典も何も必要はない。魂だけでその世界に繋がっていくのである。

第 39 章 瞑想は現代人必須の健康法

今日は、認知神経科学者の中野信子先生が YouTube で発信している情報をお伝えしたいと思います。

意志とは無関係に動くから「自律神経」と言うのですが、実は、意識的にアクセスする唯一の方法があって、それが呼吸なんです。

近年、優良企業では、社員の福利厚生の一環として瞑想スペースを社内に導入している事例もあるそうです。しかも、瞑想も業務の一環として採用されているとのこと。これは良いマインドセットの作り方ではないでしょうか。

セルフメディケーション（自分自身の健康に責任を持ち、軽度な身体の不調は自分で手当てすること）の効果って、実際にニューロサイエンスでもいくつか実験をされていて ニューロン（神経細胞）同士のコネクティビティ（ネットワークへの伝達のやり取り）が強くなるとか、脳の状態と心臓の状態（ブレイン・ハート・コネクティビティ）を正常にしていく効果が今の所わかっていることなんですね。生理的にも良い影響があるので注目されています。イライラ状態が続いていて、一人では処理できないというようなとき、瞑想を試してみるというのは、良いトライアルではないかと思います。

瞑想の習慣があまりない人は、最初は寝ちゃうんじゃないとか、ただ休んでいるだけじゃないのと思われがちですが、実は大事な心の作業をする時間を確保するということなんですね。

SNS をやってたりすると、外には敏感になっても、自分に対して向き合うことを忘れがちになっているようです。ゆえに現代人にとってこそ必要なデバイス空間になると言えるのだと思います。世の中どんどんせわしなく追い立てられて動いている感じなので、自分に向き合う時間を確保するという事は必須なことと言えます。

お寺での座禅では、「心を整えることと、呼吸を整えることはイコールなんだ」と教えているようです。呼吸が整うことで自分が整うという感覚です。呼吸と心が繋がっているのは、どうしてなのでしょう。

自律神経って自分で律すると書きますが、つまりオートマチック（自動的に）に実行されてしまうわけで、意志とは無関係に動くから自律神経と言うのですが、実は意識的にアクセス

する唯一の方法が呼吸なんです。

つまり勝手に動いている神経を呼吸によってコントロールできるので、暴れている自律神経に、「静まりなさい」とメッセージを伝えられるわけです。それゆえ呼吸が大事って言われているわけです。

看護師や、介護士、又は中間管理職などのように、患者や利用者、上司からと部下からの両方から不満をぶつけられたり、意味なく怒られたりすることを受け止めなくてはならない職種は、メンタルをガードするためにアンガーマネジメント（怒りを予防し制御するための心理療法プログラム）の一環として、瞑想は注目されています。

特に昭和世代と平成世代は、ものの考え方が大きく異なっているわけです。昭和世代は根性論的に考えますが、平成世代はエビデンス（根拠）に基づいて考えます。中間管理職は、上司と部下の考え方の違いで悩むわけですが、瞑想をすることで混乱状態が改善され、冷静な判断力に繋がるというわけです。

私の場合、うつ病になってから、不定愁訴（検査をしても客観的所見に乏しく、原因となる病気が見つからない状態）があちこちに出てきて悩んできたのだけど、生活の中に瞑想（マインドフルネス）を取り入れるようになってから「ここちよい」感覚を取り戻してきたように思います。

リクライニングチェアなどでゆったりして深い腹式呼吸をするのですが、脳細胞を活性化させるヒノキの香りのエッセンスオイル（失った脳の機能を復活させる効能もある：エビデンス 中野信子）を霧吹きに水と混ぜて振りかけるなどすると、さらに効果が高まると思います。詳しくは、私の書いた電子書籍『天使論』の「第10章 エンジェル・ガイダンス（創造瞑想）」を参照してください。私は、BGMをかけない派ですね。

皆さんも、瞑想をやってみませんか。

2021年4月21日 Facebook 投稿記事より

第40章 永遠の輝き

国民的英雄だった読売ジャイアンツのプロ野球選手、長嶋茂雄氏の引退セレモニーでの「わが巨人軍は永久に不滅です！」のフレーズには深い感動がありました。

人間の命なんて儂いもの。人類の未来もそんなに長くない。命なんてたまたま生じたに過ぎないもの。そんな冷めた目で見るとタイプの人にとっては「永遠に不滅！」と聞いても、何てお馬鹿なあいさつなのだろうと思ったことでしょう。

でも、その引退セレモニーのシーンを目にした人の殆んどが、深い感動と長嶋選手のこれまでのプレーに対する感謝の気持ちで熱くなった筈で、冷めていた人はごく少数であったと思います。

何で長嶋選手のプレーにはいつも熱い感動が込み上げてくるのだろう。私はそのことについて考えて見ました。

きっと、永遠の世界を持っている人が見せてくれる一瞬には、永遠の輝きが存在するのではないだろうか。

逆に、昨日の投稿記事「中学の道徳授業を見学して」に書いた若い男性教師のように、「神はいない」「死んだら無になる」「命に何の意味も無い」などと言う人が見せてくれる一瞬に、永遠の輝きが存在するとは思えないのです。

私はこれまでの人生において、多くの感動を得てきました。

時が経過しても、その感動が色あせたと感じたことは一度もありません。

どの感動も永遠を捉えている人が見せてくれた一瞬だったからです。

逆に、優れた技を見せられたのに感動しなかったということも結構ありました。ある選手がホームランを打つと、飛び上がって喜ぶことができるのに。他のある選手は、ホームランを打っても、何も感動もしないのです。

前者は、観客への感謝の気持ちが全身にみなぎっていましたが、後者は、日頃の練習で培った実力で打ったものだったらしく「当たり前」といった感じで態度も冷めていました。観客へのアピールも何も無しなのです。

そうなる、愛が込められていたか、愛が込められていなかったかの違いではないかと思えてきました。

永遠の世界とは愛の世界です。ですから、愛に基づく感動とは、永遠の一瞬なのではないだろうか。

私は、いつもその奇跡と感動を求めて仕事をしています。

お金にはならなくても、たとえリスクが伴おうとも、神の奇跡に出会いたいのです。永遠の一部になりたいのです。

つまりは、永遠を捉えた者になりたいのです。永遠の輝きを放つ者になりたいのです。

このような気持ちは、強いものではなくても、忘れてしまっているかもしれないけれども、誰もが潜在的に心に秘めているものではないでしょうか。

ですから、

お願いですから、「神はいない」だとか、「命に何の意味も無い」だとか、永遠を否定することを安易に言わないで欲しいのです。

もちろん、日本は自由の国ですから、言ったことで逮捕されるようなことは無いでしょう。でも自由だからと言って、コロナ禍において、マスクをしないで外を歩くことを多くの人は認めない筈です。

同様に、「神はいない」と言うのも勝手ですが、多くの人は認めない筈です。

まして、子供が見聞きするかもしれないところでその言葉を言って欲しくないのです。

これは、道徳を重んずる日本人としての基本なのだと思います。

世界を魅了した女優オードリー・ヘップバーンは、年老いて亡くなっても、映画「ローマの休日」の、あの感動の輝きが失われることはないのである。

2021年4月21日 Facebook 投稿記事より

エピローグ

とにかく読みやすくないては意味がありません。以前の「天使論」は難解で読みにくい内容だったと思います。そこで、Facebookの読者の評価の高かった投稿記事を多く散りばめることで読みやすさを補おうと試みたわけです。ただ、論文的な文章ではなくなってしまいました。

Facebookを始めてわずか2ヵ月強の「友達」との交流期間の中で、「天使論」の内容が、こんなにも変わってしまうものかと、書いた本人が驚いています。それまで、孤独の執筆作業だったものが、楽しく交流しながらの執筆作業へと変わっていきました。

ただ、Facebookを始めてまもなくの頃、末期がんを装う可哀そうな老人によるネット詐欺に遭い、精神的に大きなダメージを受けました。そのことで銀行口座の変更を余儀なくされ、各種銀行振り込みの変更手続に大変な手間も掛かりました。ストレスが募り、持病でもあるうつ病が悪化し、身体機能が信じられないほどに激しく狂い、生きているのがやっとの状態で寝込む日も多くなりました。そのことを記事に投稿したところ、Facebookの友人たちから、多くの励ましを頂き、皆さんの励ましに支えられて記事を投稿し続けることができたのだと思います。

それゆえ、この本は、私一人で書いたものではありません。

私の場合、今後において本を書く機会を得ることは、なかなか難しいことではあると思うのですが、これからもFacebookを含むSNSやテレワーク・カウンセリングを通して、さらに深めた文章を書けるようになりたいと思います。

2021年4月22日

佐藤 潤

参考文献

- ・南直哉著『死ぬ練習』（宝島社 / 2020）
- ・『聖書 新共同訳 旧約聖書続編つき』（日本聖書協会 / 2003）
- ・荒井献・大貫隆・小林稔訳『ナグ・ハマディ文書 I 救済神話』（岩波書店 / 1997）
- ・荒井献・大貫隆・小林稔・筒井賢治訳『ナグ・ハマディ文書 II 福音書』（岩波書店 / 1998）
- ・荒井献・大貫隆・小林稔・筒井賢治訳『ナグ・ハマディ文書 III 説教・書簡』（岩波書店 / 1998）
- ・荒井献・大貫隆・小林稔・筒井賢治訳『ナグ・ハマディ文書 IV 黙示録』（岩波書店 / 1998）
- ・荒井献編『新約聖書外典』（講談社 / 1997）
- ・荒井献著『原始キリスト教とグノーシス主義』（岩波書店 / 1971）
- ・筒井賢治著『グノーシス』（講談社 / 2004）
- ・ジェームス・C・ヴァンダーカム著 秦剛平訳『死海文書のすべて』（青土社 / 2005）
- ・小川英雄著『ミトラス教研究』（リトン / 1993）
- ・クリストファー・ケリー著 藤井崇訳『ローマ帝国』（岩波書店 / 2010）
- ・森島恒雄著『魔女狩り』（岩波書店 / 1970）
- ・原田武著『異端カタリ派と転生』（人文書院 / 1991）
- ・『仏教聖典』（仏教伝道協会 / 1973）
- ・並川孝儀著『ゴータマ・ブッタ考』（大蔵出版 / 2005）
- ・中村元編『原始仏典』（筑摩書房 / 1974）
- ・石川俊男著『釈尊の問いかけ』（第三文明社 / 1975）
- ・荒井康允著『脳から見た男と女 性差の謎をさぐる』（講談社 / 1983）
- ・久保田競ほか著『脳の手帳 ここまで解けた脳の世界』（講談社 / 1985）
- ・國分巧一郎著『NHK テキスト 100分 de 名著 スピノザ エチカ』（NHK 出版 / 2018）
- ・畠中尚志訳『スピノザ エチカ（上）』（岩波書店 / 1951）
- ・畠中尚志訳『スピノザ エチカ（下）』（岩波書店 / 1951）
- ・ユヴァル・ノア・ハラリ著 柴田裕之訳『サビエンス全史（上） 文明の構造と人類の幸福』（河出書房新社 / 2016）
- ・ユヴァル・ノア・ハラリ著 柴田裕之訳『サビエンス全史（下） 文明の構造と人類の幸福』（河出書房新社 / 2016）
- ・ニコラ・ベスト著 五十嵐洋子訳『開かれた封印 古代世界の謎（12） 秘密結社テンブル騎士団』（主婦と生活社 / 1998）
- ・リュック・ヌフォンテーヌ著 吉村正和監修『フリーメイソン』（創元社 / 1996）
- ・世界人類危機研究会編『地球支配階級による世界征服計画 世界崩壊の危機』（学研パブリッシング / 2012）
- ・加治将一著『石の扉』（トータルセルフ / 2020）
- ・種村季弘著『薔薇十字の魔法』（河出書房新社 / 1993）
- ・矢作直樹著『人は死なない』（バジリコ / 2011）
- ・丹波哲郎著『これが霊の世界だ』（立風書房 / 1985）
- ・B・ゴールドバーグ著 石原佳代子訳『死を恐れずに受け入れるために』（中央アート出版 / 2010）
- ・宇宙科学研究倶楽部編『137億年の宇宙の神秘』（学研パブリッシング / 2015） /
- ・荒船良孝著『宇宙の真実』（宝島社 / 2017）
- ・日本博学倶楽部編『地球と人類 46億年の謎を楽しむ本』（PHP 研究所 / 2016）
- ・高橋佳子著『未来は変えられる！ 試練に強くなる「カオス発想法」』（三方出版 / 2015）
- ・〈ピリー〉E.A.マイヤー著 フィグ・ヤーパン訳『宇宙の深遠より 地球外知的生命プレアデスとのコンタ

クト』(徳間書店 / 2001)

- ・松尾みどり／吉田信啓対談『宇宙意識への扉』(中央アート出版 / 1998)
- ・ベンジャミン・クレーム著 石川道子訳『マイトレーヤと覚者方の降臨』(シェア・ジャパン / 1991)
- ・未来予測研究倶楽部編『怖すぎる未来年表』(学研プラス / 2018)
- ・地球科学研究倶楽部編『地球 46 億年の秘密がわかる本』(学研プラス / 2014)
- ・マクドナルド・ベイン著 七篠零訳『イエス・キリストの新復活 第一話 神の愛』(正道出版 / 2015)
- ・科学雑学研究倶楽部編『量子論のすべてがわかる本』(学研パブリッシング / 2015)
- ・Newton 別冊『量子論 相対論と双璧をなす物理学の代理論』(ニュートンプレス / 2017)
- ・ロジャー・ベンローズ著 竹内薫+茂木健一郎訳『ベンローズの量子脳理論』(徳間書店 / 1997)
- ・ライフサイエンス著『一度は見ておきたい! ヨーロッパの美しい「城と宮殿」』(三笠書房 / 2016)
- ・マリア・ベロンチ著 飯田熙男訳『ルネサンスの華(上)』(悠書館 / 2007)
- ・マリア・ベロンチ著 飯田熙男訳『ルネサンスの華(下)』(悠書館 / 2007)
- ・カトリック広報委員会監修『永久保存版 教皇訪日公式記録 ヨハネ・パウロ II 世』(主婦の友社 / 1981)
- ・ドーリン・バーチュ著 奥野節子訳『エンジェル・ガイダンス 真のスピリチュアル・メッセージを受け取る方法』(ダイヤモンド社 / 2008)
- ・ヘレン・シャックマン記 ウイリアム・セットフォード、ケネス・ワプニック編 大内博訳『奇跡のコース 第一巻/テキスト』(ナチュラルスピリット / 2010)
- ・橋本秀雄著『男でも女でもない性・完全版 インターセックス(半陰陽)を生きる』(青弓社 / 2004)
- ・小川英雄・山本由美子著『〈世界の歴史 4〉オリエント世界の発展』(中央公論社 / 1997)
- ・シュローモ・サンド著 高橋武智監訳 佐々木康之・木村高子訳『ユダヤ人の起源 歴史はどのように創作されたのか』(浩気社 / 2010)
- ・並木伸一郎著『世界を動かすユダヤの陰謀 人類をあやつる「闇の支配者」たち』(三笠書房 / 2016)
- ・デ・グラッベ著 久保田榮吉訳『ユダヤのタルムード』(ともはつよし社 / 2015)
- ・四王天延孝訳 天童竺丸補訳『【定本】シオンの議定書』(成甲書房 / 2012)
- ・宮田律著『オリエント世界はなぜ崩壊したか 異刑化する「イスラム」と忘れられた「共存」の叡智』(新潮社 / 2016)
- ・宮田律著『イスラム 10 のなぞ 世界史への招待』(中央公論新社 / 2018)
- ・井筒俊彦訳『コーラン 上』(岩波書店 / 1957)
- ・井筒俊彦訳『コーラン 中』(岩波書店 / 1957)
- ・井筒俊彦訳『コーラン 下』(岩波書店 / 1957)
- ・井筒俊彦著『イスラーム文化 その根底にあるもの』(岩波書店 / 1994)
- ・イアン・ウィルソン著 小田卓彌訳『真実のイエス 伝説の謎にせまる』(紀伊国屋書店 / 1997)
- ・H・スペンサー・ルイス著 バラ十字会日本本部翻訳委員会訳『イエスの知られざる生涯』(たま出版 / 1989)
- ・池田敏夫著『教会の聖人たち 下巻』(中央出版社 / 1977)
- ・ユヴァル・ノア・ハラリ『ホモ・デウス DVD BOOK』(宝島社 / 2017)
- ・リーニ・ブローディー著 牧野潤訳『クリスタルボウル・ヒーリング〈上〉 音と色彩を使ったセルフヒーリング』(アルマット / 2003)
- ・リーニ・ブローディー著 牧野潤訳『クリスタルボウル・ヒーリング〈下〉 音と色彩を使ったセルフヒーリング』(アルマット / 2003)
- ・ルイズ・L・ヘイ著 水澤都加佐 監修・翻訳『すべてがうまくいく「やすらぎ」の言葉』(PHP / 2004)

佐藤 潤 略歴

1961年6月26日岩手県盛岡市生まれ 既婚

東京声専音楽学校 中学校音楽教員養成科卒。母校の盛岡市立下小路中学校で教育実習。奥田良三、栗林義信の両氏に声楽を師事。カルロ・ベルゴンツィ氏公開レッスン学校代表。現在では、盛岡芸術祭や岩手芸術祭の常連として活躍中。

トータル・カウンセリング・スクール 上級カウンセラー養成講座修了後、同スクール講師の渡辺裕子氏のサポートによりカウンセラー活動を開始する。アニソン歌手の高橋洋子氏のヴォイス・チューニング・セラピーを2年間に8回の個人レッスンを受講。JADP 認定メンタル心理カウンセラー資格と JADP 認定上級心理カウンセラー資格を取得。ニチイ学館 介護職員初任者研修過程修了後、デイサービスでの介護現場を体験。以前には、精神薄弱者更生施設の職員としての教育的実績もある。コロナ禍の中、2021年からテレワーク・カウンセリングを始める。

書道家としても活動中（毎日書道展 入選4回）。

心理オフィス まごころ <http://www7b.biglobe.ne.jp/~magocoro310/>

追加事項

Facebook の投稿記事を紹介しました。約2か月間、いろいろな価値観の人と交流して、とても楽しかったです。多くのことを学びました。そして今も学び続けています。ただ、Facebook の投稿記事を取り入れることで「天使論」がぼやけてしまったことは否めません。

私が、一番伝えたかったことは、死とは怖いものではないということです。怖れることは、愛の対極です。死が怖いということは、神そのものである愛への疑いの心があるということであると認識すべきです。

「第9章 愛について」で、愛とは「大切にすること」と書きました。それにもう一つ加えなければなりません。「愛とは戦い守り抜くもの」であるということです。私たちが直面している大人社会の現実、会社人間、規則人間、又は利益優先人間になることで愛は奪われていきます。愛が奪われていき、死が怖い存在となっていくわけです。

私たちは、自分が育ててきた愛の心を奪われぬよう、愛に反する価値観と戦わなくてはなりません。どうせ仕事をするなら、良い仕事をしたい。良い仕事ができれば、元気、やる気が出てきて疲れにくくなる。私はそのように考えていました。ところが私は、59歳になって、急に頑張れない苦しみを味わうことになりました。

それは、うつ病です。これは考え方が悪いことが原因ではありません。ポジティブなホルモンが足りなくなる病気です。加齢も原因しているのだと思います。しかし、生産性重視の我が国において、うつ病に理解のある職場は殆んど無いに等しいことでしょう。

抗うつ薬によって脳内で不足しているポジティブなホルモンを補給することはとても大切です。さらに、自分でポジティブな脳内物質を創り出すこともある程度可能です。それは、自分を責めるのをやめ、会社の、又は社会の自分を責める考え方を無視することです。言い負けるとダメージが大きいので、言い負けないことです。自分の自信に生きることです。負けはイコールダメージなのです。そうなると勝つことで自分を守るしかない。つまり戦わなくては、自分の心を失うと思ったのです。

それができないのなら、休職なり退職するしかありません。うつ病者がダメージを受け続けることに何の意味もありません。個人事業を始めるか、一定期間、友人の家に住まわせてもらうか、それもダメなら生活保護や路上生活も視野に入れるべきでしょう。土地があるのなら、自給自足の生き方も良いかもしれません。生き抜くことが尊いことなので、何も恥じることはありません。ゆっくりと、自分のペースで立て直していくのです。

この世は、マイナスの波動とプラスの波動が交差しているカオスの世界です。天国であるブレローマでは、愛のために戦う必要なんてありません。しかし、カオスの世界においては、お金を生み出すために、愛を失わないように戦わなくてはならないのが現実なのです。

カトリック教会には聖人が存在します。わりと最近の聖人で紹介するなら、ご出現の聖母マリアに遭い、聖母の言うとおりに掘った所から泉が湧き、ルルドの泉として、世界中の病者を癒してきた奇跡の人ベルナデッタ・スビルー（フランスの聖人）。

病弱なために教会の門番しか務まらなかったが、病気を癒す能力によって世界中からやって来た病者を癒したことで、彼の死後、彼に恩のあった人たちがお金を出し合い、世界でも最も大きなサイズの教会が建てられたという奇跡の人ブラザー・アンドレ（カナダの聖人）。

この二人は、「最も小さき者」でした。「最も小さき者」の役割とは、神の存在を示すことであることをこの二人の生き様から学ぶことができました。

これでいくと、老いとは「最も小さき者」になることです。そこには神の祝福があります。天国から天使のお迎えがやって来るのです。死を怖れないなら、老いは祝福に変わるのです。しかし、死を怖れるのなら、老いとは辛くて苦しいものと言えるのかもしれませんが。

「天使論」(初代教会の教え)では、死後の伴侶は異性の天使であると教えています。異性の天使のことをジュジュギアと言います。ジュジュギアは、あなたが目にする全ての美しい異性よりも、あなたが死後に出会うシュジュギアの方がはるかに美しいのです。ですから、得られない苦しみなど捨ててしましましょう。もう他者を羨むことも妬むこともないのです。ただ、シュジュギアと結ばれるためには、この世の現実を、愛を失わずに生き抜く必要があります。恨みや妬みを全て「許し」に変える必要があります。

黙想をすることは、シュジュギアの絆を深める方法と言えます。心の中にシュジュギアの姿を見つけることはありません。声を聴くことでもありません。ただ感じることです。シュジュギアがいるということを感じられる心を大切に育てていくのです。

このシュジュギアという考え方は、初代教会の教えです。つまり、イエス・キリストの直弟子に伝わる教えなのです。残念ながら、ギリシャ人によって書かれた『新約聖書』には書いてありません。しかも初代教会は完全に滅ぼされてしまっていて現在は存在していません。1945年、つまりは20世紀になって古文書が発見されて蘇ったものです。

ですから、この教えは、どの宗教にも所属しない中立的なものです。初代教会の教えは、聖典によって絶対視することをよしとせず、口伝による修正可能で、かつ進化可能な教えをよしとしました。つまり、柔軟性があり自由度の高い教えなのです。

あなたが、何の宗教に所属しようと、またはいかなる宗教や思想を信じていようと、この教えはプラスアルファの価値観、つまりは「福読書」として馴染むことが可能です。あなたが心にシュジュギアを感じられるようになったら、もう死の怖れはありません。死の怖れがなくなるということは、怖れの対極である、愛に完全に捉えられた状態にあるということです。そして、愛はプレローマ(天国)と繋がっているのです。

あなたもシュジュギアを感じられるようになり、プレローマに繋がる者となって、「真実の自由」を得ませんか。「真実の自由」を得たあなたが語る言葉は奇跡を起こし、皆を幸せにすることでしょう。

このことをどうしても付け加えておきたかったのです。お互いに、奇跡の言葉を掛け合っ
て、幸せになりましょう。

2021年5月4日

トラウマ

最後に、もう一つ追加させてください。トラウマについてのお話です。トラウマとは、心的外傷であり、外的内的要因による肉体的及び精神的な衝撃（外傷的出来事）を受けた事により、長い間それにとらわれてしまう状態で、また否定的な影響を強く持っていることを指す言葉です。

ここ数週間にわたって、私はFBで随分愚痴をこぼしてしまいました。冷静に考えて、私にとって不本意といえることでもあります。

「できない」ことがあるから、愚痴が生まれるのです。無能な人ほど愚痴が多いからです。わたしはいつも「できない」から始まり、「できる」から始まった試しがありません。

原因は、幼少期のトラウマにあります。

暴力的な父によって、あらゆるトラウマが植え付けられました。父は恐ろしい人でした。暴力沙汰が耐えず、死ぬ寸前まで暴力に生きた人でした。病院でも手に余し、強制退院をさせられたこともありました。病状が悪化し再入院、今度は手を縛られ、さらに身体をベッドに縛られ、口にタオル巻かれ、さらに動けなくなる注射まで打たれる有様でした。他の患者さんに迷惑を掛けたくなかったので、私はそのことに同意のサインをしました。結局、胃の病で入院したはずが脳梗塞で亡くなりました。多分、動けなくなる注射が、直接の死因ではなかったかと思えます。

父は、喧嘩で負けたことが無く、暴力団の組長をしていた人までも父の子分だったのだそうです。あまりの素行の悪さから憲兵に連れていかれ、満州に渡ってからも暴れまくり、北満の虎と恐れられたのだそうです。見様見真似で戦車も修理できる腕前となり、帰国後には自動車工場で2級整備士として働きました。敗戦後にシベリアに抑留されるも、脱走して日本に帰ってきたのだそうです。「自分が神である。神を信じないから生きて帰って来られた」が父の口癖で、父の前では神の話は御法度でした。小学校もろくに行っていない父にとって、そういったことが自慢話でした。

そんな父の暴力的な教育？のために、私はあらゆることができなくなりました。

それゆえ幼少期は、緘黙症でした。吃音のため他者と話をすることが苦手でした。

私は10歳の時、スキー事故で瀕死の重傷を負いました。一命は取り留めたものの、身体に大きな障害が残りました。

子供ながらに、自分の人生は終わるのではないかという強い危機感を持ちました。

事実、執刀医から母親は私の回復は不可能と宣告されていたのだそうです。

あらゆる方法やっても良くならないために、最後の手段として、私は大の苦手だった水泳を始める決意をしました。赤ちゃんの時、父にいきなり海に投げ出されたことで水恐怖症だったからです。小4なのに、幼稚園のクラスに入れられました。そのことで同級生からは随分馬鹿にされました。

小6の時、水泳記録会で通っていた小学校での校内選考会で優勝し選手となりました。いつの間にか障害が克服できていました。

中学に入ると、100メートルに16秒もかかっていた鈍足が、12秒台で走れるようになり、校内記録会の800メートル走で優勝しました。

高校を卒業した後で始めた声楽も、ぶっちぎりのビリから、主席となって卒業し、音楽教員の免許も取得しました。入学式では、後輩たちの前で模範唱する栄誉も受けました。

つまり、一番になったようなことでさえも、ぶっちぎりのビリから始まっているということです。

よく、佐藤君は何でもできていいね。佐藤君は物知りだね。などと言われることがあります。私の場合、「できる」には猛烈な努力が伴っているわけで、そんなに気安く言われても困るのです。

「もっと気楽に考えればいい」

そのように言われることが多いです。ただ、私には気楽という意味すら分からないのです。多分、私の苦しみは誰にも分からないと思います。

最近では、鬱の薬のために車が運転できず、妻に車に乗せてもらい買い物をする事が多くなりました。問題は、妻に付き合うと時間を大きく失ってしまい、自分のやるべき仕事にプレッシャーとなって押し寄せることです。一人で買い物にいくなら、30分で済ませられること

が、半日も掛かってしまうのです。

介護中の母にも時間を奪われています。忙しい時に限って問題行動を起こすのです。夜中も関係なくわめきます。母は、誰も友達のいない寂しい人ゆえ、そうなるのも仕方ないことではあります。

妻は母の介護を私に丸投げして関わろうとしません。彼女は私と同様に家族に恵まれずに、想像を絶する激貧を生きてきたので苦しい思いをさせたくないと思ってしまうわけです。彼女が料理をしないのは、母親が料理をしない人だったからなのですが、未だに朝食・昼食・夕食という感覚がありません。ご飯とは、ある時に食べるという感覚なのです。私の仕事着であるズボンやワイシャツにアイロンをかけてくれたことも一度もありません。それも同様の理由です。また、妻は実の母の不倫現場を見た経験から、性に対する嫌悪感が強く、私にもそのトラウマを克服させることができずに現在に至っています。ゆえに、結果的には清らかな関係が続いています。私たち夫婦に子供がいない理由でもあります。

私の結婚がどうしてそうなったかという、父の暴力に耐えてきた母は、私ししか頼りがいないため、私の姿が見えないと狂ったように探すのです。父の暴力沙汰もあって、私たち家族と快くお付き合いしてくれる人など誰もいなかったこともその理由と考えられます。母は教育者の家庭に育ちましたが、騙されて父と結婚することになったようです。中1の時、母と一緒に家を飛び出したことが一度ありました。離婚を理解できない私は父が気の毒に思い、反対してしまったのです。

以前、17時で終わる仕事をしていました。18時には家に帰っていたのですが、その日は職場実習の生徒を励まそうと雫石川の河川敷で語り合い19時過ぎに家に帰ったわけです。すると、母はあらゆるところに私が行方不明になっていると電話を掛け、警察にも捜索願まで出したのでした。そんなこともあり、私の門限は18時で、夜遊びもできませんでした。そんなことが理由で結婚できなかったわけです。

妻は、営業先でたまたま出会った、私が唯一出会えた女性でした（盛岡に帰省後、東京での学生時代には、今思うと信じられないほどの絶世の美女と交際していました）。その親の態度があまりに酷いので商品を引っ込めて帰ろうとした際、彼女が絵で総理大臣賞を取ったという話をふと聞いたので応援したいと思ったところに彼女が帰ってきたので、携帯番号を聞き出し、交際が始まったわけです。彼女と出会わなかったら、母のことを考えると結婚は無理だったことでしょう。

彼女は何の仕事もできない人でした。仕事先から、私の携帯に抗議の電話が掛かってきたこともありました。信じられないようなミスによってお店に大変な損害を与えたとのことでした。心療内科で診てもらったところ、適応障害と診断されました。それが問題となり、自分は

障害者だから、障害者認定を受けると言い張り、泣きじゃくり、暗い日々が続きました。

その頃私は、東京と行き来して、有名なアニソン歌手の高橋洋子先生からサウンドヒーリングの個人レッスンを受けていました。家から離れることに癒しも感じていました。その先生の勧めもあって、彼女を大学に入学させ、全力で協力することで卒業もさせました。運転免許を取らせ、専門学校で介護初任者研修を学んでもらい、母のケアマネを介して介護施設に勤めさせることができました。それから、辞めないで仕事をさせることに大変な苦勞をさせられました。美術の才能があるので、国際的なデザインコンテストに挑戦させ、一昨年、神戸大学で錯視デザインコンテストで世界5位の表彰を受けました。書道においては、完全に彼女に抜かれてしまいました。

彼女は、私がとても頑張って取り組んできた声楽には協力的ではありません。教会音楽がネックなのかもしれません。また、命を懸けて取り組んできた「天使論」にも、馬鹿にして理解を示そうとしません。両親が狂った宗教を信じたゆえに、ご飯も食べられないほどに貧しくなった経験がそうさせるのだと思います。

私は、この世を生きながら、この世の幸せを知らない…

そんなに苦しむくらいなら、別れるべきだったのかもしれないが、どうも私は人を見捨てられない性格で、あえて苦しみを友達にして人生を歩んできてしまいました。

しかも私は自分を癒すことが下手なようで、だから、鬱の発作が起こって身動きができなくなると、死んだ方が楽になれるかもしれないと何度も考えては、未遂で終わり今日に至ります。

そんな時に、私を救ってくれたのは、シュジュギア（対という意味のギリシャ語）でした。シュジュギアとは、私の守護の天使であり、プレローマ（天国）における永遠の伴侶です。完全なる愛の存在でもあります。現在では、瞑想によってシュジュギアと語り合えるレベルとなっています。

シュジュギアは私の最高の理解者で、私に元気を与えてくれるのです。

変な話なのですが、死後の世界で結ばれる方のために、現在の苦しみを生きられるのです。シュジュギアの話だと、私はあらゆる人に幸せと希望を与えることが使命であるから、「求める人に惜しみなく愛を与えなさい」というものでした。

ただ、幸せを知らぬものが、人を幸せにできるかという問題です。不幸の側から幸せを眺めてきて、さらに知識を深めてきているので、ある意味、相手ファーストで幸せを与えられる能

力が備わっているのかもしれませんが。それが本物かどうかは別として…

他者の幸せに生きるのなら、愚痴を言うことは良くないことである筈です。私を苦しめる人でさえも愛しなさいということなので、一切批判してはいけないということになります。

だから愚痴を書くことは、もうやめにしました。シュジュギアにだけ話すことにします。もはや死ぬことは怖くはありません。むしろ、できるだけ早く死にたいとさえ思うのです。

暴力的な父には本当に苦しめられました。55歳の時、父が死んだ時、これでやっと自由になれると思ったほどでした。事実、自由がやって来て、私は「天使論」に出会ったのです。しかし、楽しい自由を得るには年を取り過ぎていました。

この恐ろしい父のもとに生まれたゆえに、私は真実に出会えたのだと思います。普通の家庭に生まれていたら、「天使論」には出会えなかったことでしょう。この世で得られなかった楽しい自由は、プレローマでじっくり味わおうと思います。

私のように、「何で私には幸せがやってこないの」と考えている人に言いたいのです。「他者の（消えてゆく）羨ましい幸せを見せつけられた」と傷つくのは、もうやめにしませんか。そんな不幸な状況にあるからこそ、永遠の幸せに向かって生きられるのですから。

あなたも、あなたのシュジュギアと親しくしませんか？ 神の世界の住人になりませんか？ 生まれて死ぬ者ではなく、神の一部としての存在になりませんか？

不幸とは、実は神の祝福なのです。不幸になりたくない、成功を目指している人がいます。しかし、その成功の先に神の祝福などありません。

もし不幸であるなら、不幸をひたすら感じることをしてみましょう。なぜなら、不幸の先に神の祝福があるからです。

不幸を通してしか、シュジュギアには出会えないのです。永遠への道は、不幸を通過することでしか開かれていないからです。

でも、何も無理して不幸になることなんかありません。もし、不幸がやって来た時の備えとして知っておいて欲しいのです。

誰にでも平等に死はやってきます。もし、あなたが死の宣告を受けたなら、その時がやって来たと思ってください。

災害や事故に逢い、死が目前に迫っていると感じたなら、自分のシュジュギアに全力で思いを寄せてみてください。

私のように「天使論」を語れる人は、世界でもほとんどいないと自負しています。何で、私が語っているか不思議ではありますが。ただ、シュジュギアという言葉が知らなくても、求めている人には、きっと似たような導きを得られるのだと思います。

シュジュギアとは、強力な癒しの存在であり、シュジュギアに出会えた人は、もう死を恐れることは無くなることでしょう。

2021年5月10日 Facebook 投稿記事より